

7410

331-10

紀伊續風土記

第二輯

伊都
高田
在日
高妻

明治
43.9.13
内交

紀伊續風土記第二輯索引

卷之四十二

伊都郡第一

總論

一頁

古鄉名

二頁

莊并村名

三

田畑總數

九

戶口總數

九

高野領田畑總數

九

高野領戶口總數

九

山川

九

名勝舊蹟

二〇

古祠

二〇

古刹

二

街道

二

卷之四十三

伊都郡第二

加勢田莊

三

四鄉莊

三

卷之四十四

伊都郡第三

官省符莊

三

卷之四十五

伊都郡第四

相賀莊

五

卷之四十六

伊都郡第五

隅田莊

八

卷之四十七

伊都郡第六

高野領

志富田莊

九

四村莊

一〇

三谷莊

一〇

友淵莊

一〇

志賀莊

二九

卷之四十八

伊都郡第七

天野莊

三三

卷之四十九

伊都郡第八

長谷莊

一〇

湯川莊

一〇

花園莊

二五

卷之五十

伊都郡第九

官省符莊

二六

相賀莊

二六

隅田莊

二五

卷之五十一

伊都郡第十

古佐布莊

二八

細川莊

二八

三尾川鄉

二八

北又鄉

二八

廉尼莊

二九

筒香莊

二九

富貴莊

二九

卷之五十二 伊都郡第十一 高野山一

高野山總論並大名十二所 三〇三
壇場伽藍 三二 奥院廟堂 三二八

卷之五十三 伊都郡第十二 高野山二

十所祠宇堂舍并寺家上 三五

卷之五十四 伊都郡第十三 高野山三

十所祠宇堂舍并寺家下 二九

卷之五十五 伊都郡第十四 高野山四

山主次第 二七
行人總論 三〇 聖總論 三〇三

卷之五十六 伊都郡第十五 高野山五

高野寺領總論 三五 弘法大師傳 三五
臨幸登御 三九

卷之五十七 在田郡第一

總論 三三 古郷名 三三
莊并村名 三三 田畑總數 三七
戶口總數 三七 山川 三七

名勝舊蹟 三六 古祠 三六

熊野街道王子社 三六 古祠 三六
街道 三九 宮崎莊 三九

卷之五十八 在田郡第二

保田莊 三九 宮原莊 三五
糸我莊 三五

卷之五十九 在田郡第三

湯淺莊 三九 廣莊 三九

卷之六十 在田郡第四

藤並莊 三九 田殿莊 三九五

卷之六十一 在田郡第五

石垣莊 四〇

卷之六十二 在田郡第六

山保田莊 四〇

卷之六十三 日高郡第一

總論 四〇 古郷名 四〇
莊并村名 四〇 田畑總數 四三

卷之六十八 日高郡第六

岩代莊 四三 南部莊 四七

卷之六十九 牟婁郡第一

總論 四三 古郷名 四七
莊并村名 四三 田畑總數 四六
戶口總數 四六 山川 四七

卷之六十四 日高郡第二

志賀莊 四九 三尾莊 四九
小池莊 四九 財部莊 四九
關莊 四九 矢田莊 五一

卷之六十五 日高郡第三

川上莊 五〇

卷之六十六 日高郡第四

寒川莊 五五 山地莊 五五

卷之六十七 日高郡第五

岩内莊 五五 山川莊 五五
上野莊 五三 印南莊 五五
切目莊 五九

卷之七十二 牟婁郡第四

秋津莊 五五 萬呂莊 六一
三栖莊 五九

卷之七十 牟婁郡第二

芳養莊 五五

卷之七十一 牟婁郡第三

田邊莊 五九

卷之七十三 牟婁郡第五

富田莊

壹

岩田郷

六六

栗柄川莊

壹

卷之七十四 牟婁郡第六

安宅莊

七二

城川莊

七三

卷之七十五 牟婁郡第七

市鹿野莊

七五

四番莊

七六

卷之七十六 牟婁郡第八

周參見莊

七五

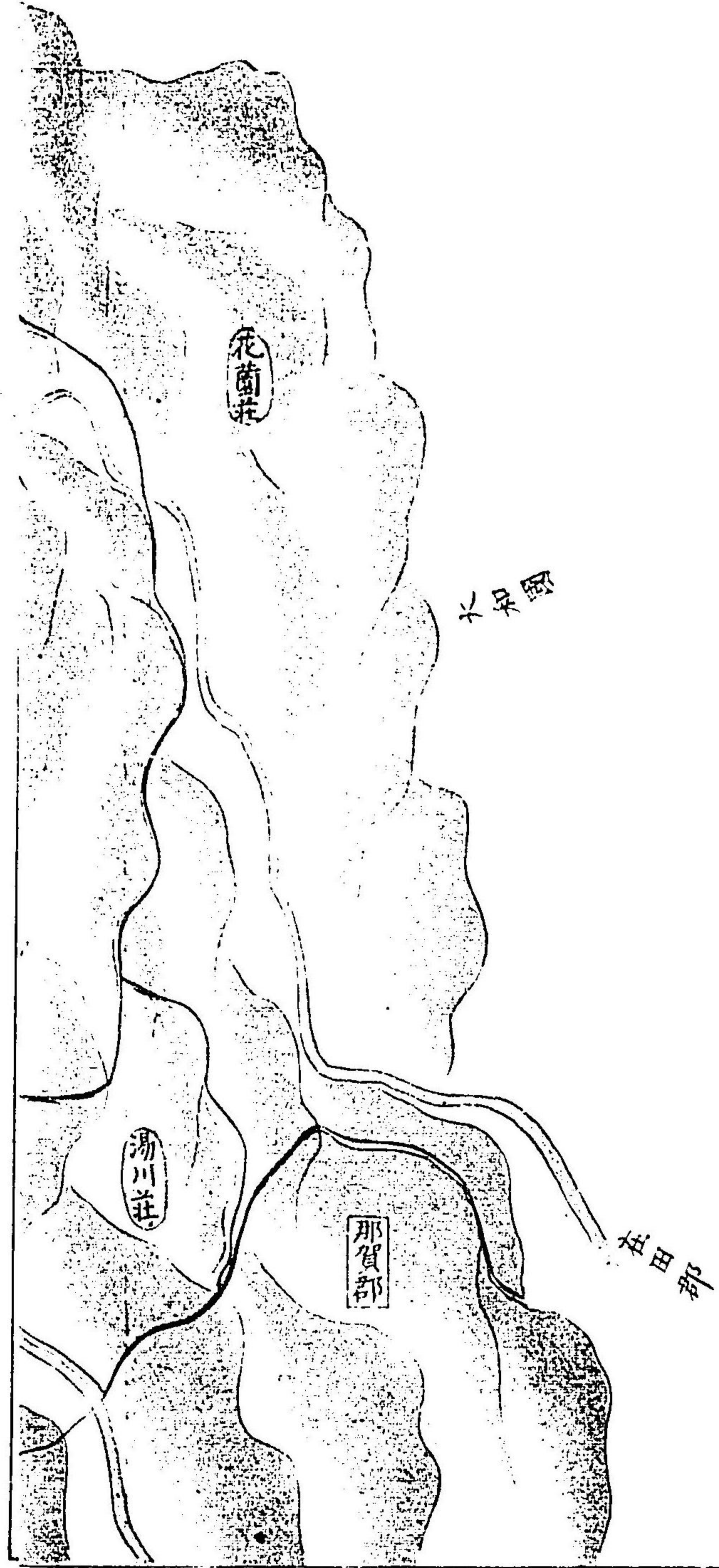
湖崎莊

七六

紀伊續風土記第二輯索引終

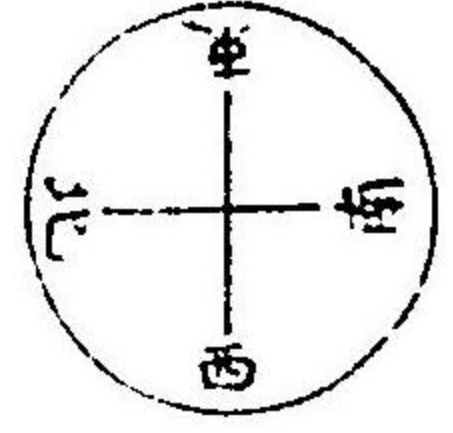
伊都郡圖

○ 高野嶺



花園庄

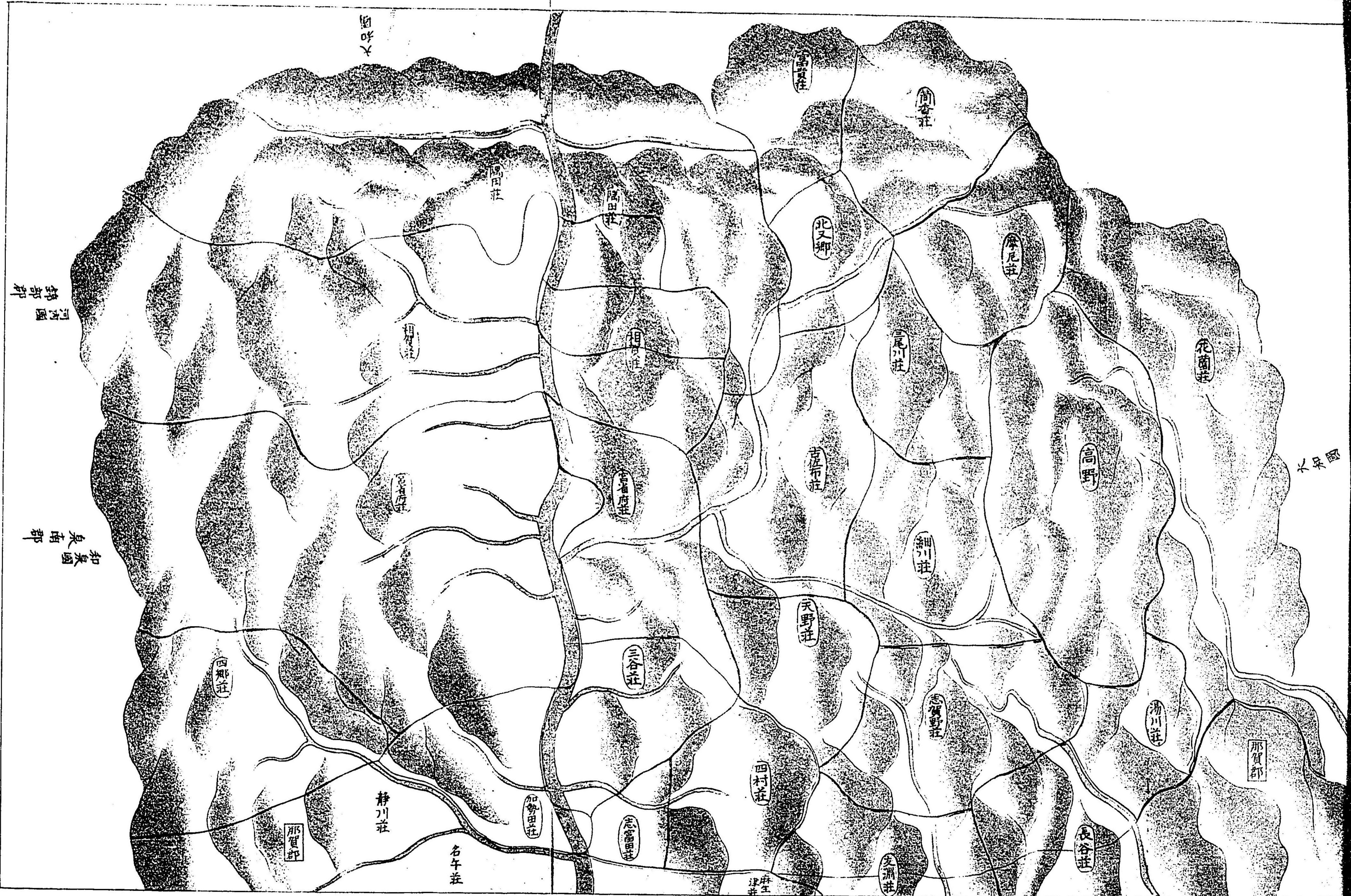
水泉



湯川庄

那賀郡

五田郡



大和國

河内國
錦部郡

和泉國
泉南郡

大和國

那賀郡

高野庄

北又郷

高野庄

花園庄

尾川庄

高野

吉原布庄

細川庄

天野庄

三合庄

湯川庄

高野庄

四村庄

静川庄

長谷庄

加勢田庄

高野田庄

支洲庄

名午庄

那賀郡

四郷庄

津井庄

紀伊續風土記卷之四十二(第貳輯)

伊都郡第一

總論

當郡是那賀郡の東にありて東は大和、國宇智野南郡に界し南は在田郡に接し北は河内國錦部郡に界す其廣袤東西六里南北九里伊都の義詳ならず按するに伊都は絲の義なるへし本國に絲の緣ある事は延喜式に凡貢夏調絲云云紀伊等十二國並上絲とあり續日本紀に和銅五年令伊勢尾張安藝紀伊等二十一國始織綾錦とあり日本後紀に延暦十九年夏四月庚辰以流來昆崙人所織種賜南海道太宰府等云云とあり皆南方土宜に叶へはなり當郡古の郷名に桑原郷あれは諸郡の中にて專蠶桑を主とせし事明かなり和名鈔を考ふるに伊都と名つくる地當郡名の外唯筑前怡土郡怡土郷あるのみなり怡土亦絲の義なり日本書紀に應神天皇三十七年春二月戊午朔道阿知使主都加使主於吳令求綾工女交阿知使主等渡高麗國欲達于吳則至高麗更不知道路乞知道者於高麗高麗王方副久禮波久禮志二

人為導者由是得通吳吳王於是與工女兄媛弟媛吳織穴織四婦女同四十一年春二月甲午朔阿知使主等自吳至筑紫時胸形大神乞工女等故以兄媛奉於胸形大神是則今在筑紫國御使君之祖也とある所謂胸形は即筑前國宗像にして其國絲によき地なれば織女も留まりしなるへし且所謂阿知使主は坂上氏の祖なり坂上氏本國に緣ありて當郡最其緣多きと坂上氏本國名筑前及當郡に緣ある事草部山口莊西村當郡岡田莊古花岡村の條に辨す筑前と阿知使主織工女等を率て子孫當郡に留まりしならむ故に郡の名義を絲の義とは定む國史を考ふるに孝德天皇大化二年始めて畿邦を定む曰凡畿内東自名壘横河以來南自紀伊兄山以來西自赤石柳洲以來北自近江狹々波合坂以來爲畿内國と此より本郡畿内疆界の内とはなれり郡の建置史闕けて明ならず 天武天皇八年十二月紀伊國伊刀郡貢芝草是郡名の國史に見はるゝ始なり 桓武天皇延暦二十四年五月遣傳燈法師於紀伊國伊都郡造三層塔以禱病此伊都の文字國史に見はるゝ始なり當郡の形勢を考ふるに葛城峯北に連なり長峰南に連なり中間紀ノ川東西に貫き流る又東は大和の櫻真土山あり西是那賀の櫻背ノ山ありて東西を塞ぎ郡中即一筈谷の如し村邑川に傍ひて

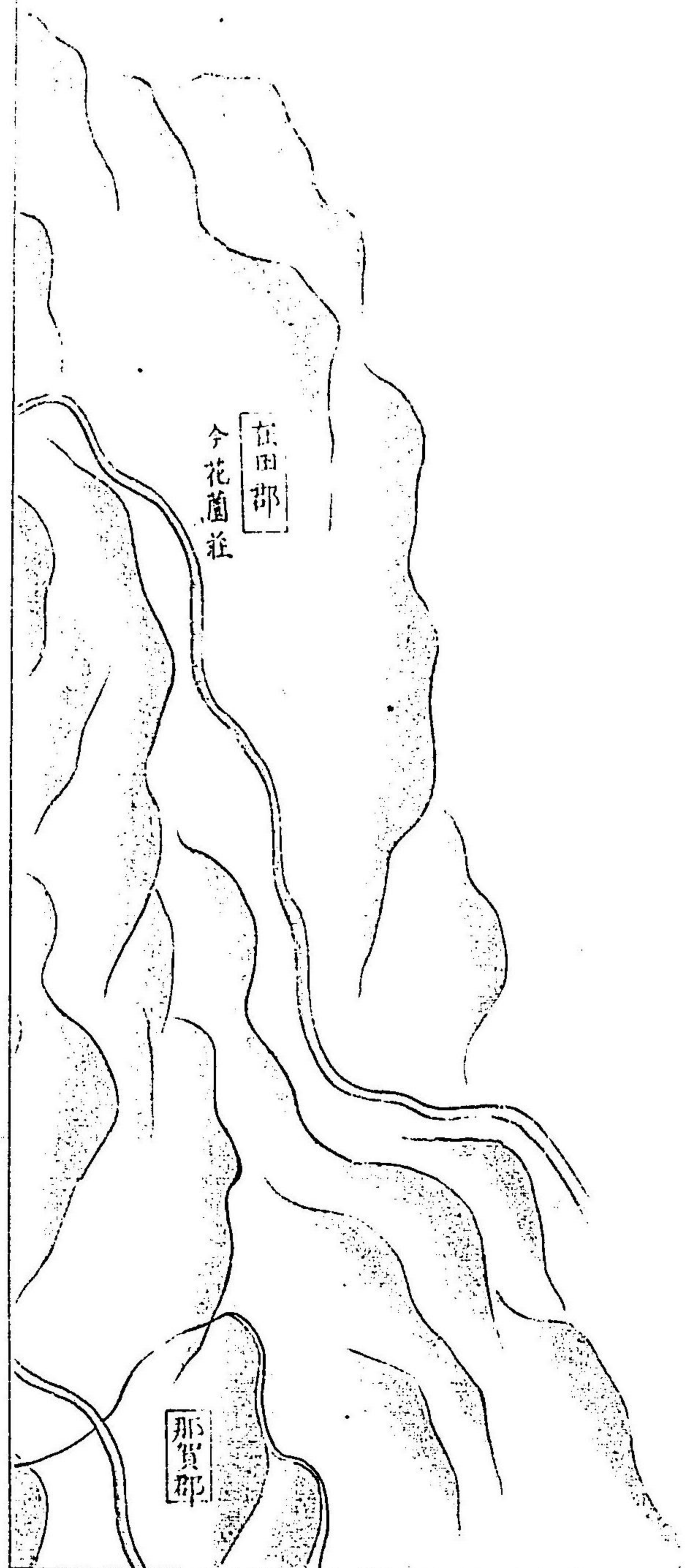
恭布し又山嶺谷の間に散在す川南を高野領とす古の神戸郷是なり川北は古の賀美村主掛理桑原四郷の地なり川南峰嶺重疊して盡深山幽谷にて少の平野なし然れども地の大さ郡中三分の二に居る是古の丹生神地なり播磨風土記に曰息長帶日女命平伏新羅已訖邇上乃鎮奉爾保都比賣神於紀伊國管川藤代之峯又丹生社家舊記に見わたる 應神天皇の朝丹生社の神封を定め給ふ強界四至今の高野領是其地にして即古の神戸郷なり 嵯峨天皇の朝に僧空海神戸中の高野を奏請して金剛峯寺を創立せしより其後神戸變して寺戸となる意ふに其比は山間の邸居處にありしのみならむ高野の寺領となりて高野山盛なるより人民繁殖し田畑を開發し次第に今の姿とはなれり是川南沿革の大槩なり川北は廣平沃饒の地にして他郡に比すれば米穀殊に宜し然れども背山妹山の間兩峽をなし暴雨洪水の時は水疏滌し難くして動もすれば漲溢の禍あり中世郡中分れて諸家の領となる事其跡を考ふるに富貴筒香摩尼花園湯川長谷北又三尾川細川古佐布天野三谷四村志賀官省符の十五莊は高野の領にして友淵莊は友淵八幡宮の領となり志富田莊は根來寺の領となり加勢田莊は高雄神護寺の領となり相賀莊は恩地姓川氏

の領となり隅田莊は葛原氏隅田黨の領となる唯四郷莊領主の名傳記に考ぶる事なし總て二十一莊百六十五箇村地形高敞にして名草海部等の地より東望して雲間に秀てたる山々此に至りて一躍して登るべきを覺ゆ二郡に比すれば上流にありて地の次第に高き事推して知るへし土地東は大和に接し北は京師浪華に近く又川運の便あるを以て商賈轉販の利多し且高野山の名區古より 聖駕の行幸名卿鉅公の登山甚夥く今に至りて貴賤萃參するもの益盛なり是に由りて河北の諸莊生地相賀兩莊最繁榮にして紀伊見峠橋本町學文路の地市郷と異ならず川に傍ふ村邑は造酒家多くして富家豪民あり隅田莊頗山村にして沃地にあらす唯煙草に宜し四郷莊は山中にありて別に一區域をなす高野諸莊大抵皆梯田斜田にして富貴筒香摩尼花園等の莊最僻陋の地なり天野莊丹生社あるをもて民居頗好しこれを總るに人民富て繁華なるものは輕薄にして悖風なく山中僻陋の諸莊農樵のみを事とするものは生業饒ならずれども悖實の風餘りあり

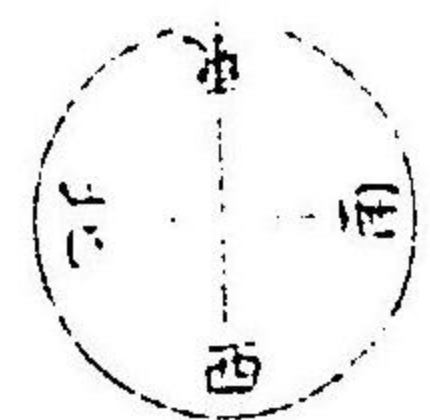
郡中古郷名

神戸

伊豆郡 郡名方圖



伊豆郡
今花苗社



那賀郡



侍乳山

六里

大和

河内國
錦部郡

大我野

神戶

在田郡

今花蘭莊

高野

三平谷

古佐市

和泉國
泉南郡

推理

比叵内

小田神社

奈原伏見寺

菟田

丹生津比賣社

天野

奈原

奈原

三阿

那賀郡

那賀郡

其地は紀川の南今の高野領の地なり事は那賀郡中古郷名
神戸の條に詳にす

加美

其地は大抵今の相賀隅田兩莊の地なり事は隅田莊論に詳
にす

村主

其地は大抵今の上官省符莊の地なり高野山元久文書に山
田村主と並へあけたり事は山田村の條に詳にす

批理

其地は大抵今の中下官省符莊の地なり莊中に西飯降中飯
降村あり事は飯降村の條に詳にす○和名鈔刻本指理と書す
今高野山文書によりて正す

桑原

其地は大抵今の加勢田四郷兩莊の地なり事は下官省符莊
佐野村の條に詳にす

郡中莊并村名

加勢田莊

總八箇村

下夙村

紀伊續風土記 卷之四十二

伊都郡

郡中古郷名

郡中莊并村名

春山村

同村ノ内皮田

移村

窪村

萩原村

中村

東村

島村

四郷莊

廣口村

平村

東谷村

瀧村

官省符莊

佐野村

廣浦村

大谷村

新在家村

大藪村

柏木村

總四箇村

小名大松

小名下津川

小名大久保

小名中カハ

小名大久保

小名折居

小名折居

小名折居

小名折居

小名折居

小名折居

丁町村
 新田村
 妙寺村
 短野村
 以上十箇村下官省符莊といふ
 中飯降村
 西飯降村
 大野村
 竹尾村
 大畑村
 龍崎谷村
 下中村
 上中村
 名倉村
 北名古竹村
 南名古竹村
 小田村
 入郷村
 淨土寺村

市脇村
 東家村
 古佐田村
 橋本町
 妻村
 寺脇村
 小原田村
 辻村
 菅浦谷村
 橋谷村
 慶賀野村
 矢倉脇村
 柱本村
 馬場村
 原田村
 胡麻生村
 細川下村
 細川上村
 學文路村

紀伊續風土記 卷之四十二 伊都郡 郡中莊井村名

以上十五箇村中官省符莊といふ
 伏原村
 神野野村
 吉原村
 山田村
 廣野村
 田原村
 九重村
 以上七箇村上官省符莊といふ上中下三莊三十二箇村に
 高野領慈尊院九度山崎教良寺四箇村を合せて總て三
 十六箇村なり○加勢田四郷兩莊下官省符莊に中官省符
 莊の西飯降中飯降大畑三箇村を加へ總て二十五箇村を
 丁町組とす
 相賀莊 總三十二箇村
 柏原村
 出塔村
 岸上村
 野村

丹生川村
 以上二十四箇村に高野領向副横坐賢堂清水東畑西畑馬
 場河根八箇村を合せて總て三十二箇村なり○中官省符
 莊上官省符莊二十二箇村の中西飯降中飯降大畑三箇村
 を除き相賀莊の中學文路岸上野柏原出塔丹生川六箇村
 を加へ總て二十五箇村を中組とす
 隅田莊 總二十一箇村
 境原村
 杉尾村
 箱草村
 山内村
 平野村
 上風村
 芋生村
 垂井村
 中島村
 中下村
 上兵庫村
 下兵庫村

河瀬村

以上十三箇村北隅田莊とす

下上田村

赤塚村

慈野村

須河村

只野村

谷奥深村

彦谷村

以上七箇村に高野領中道村を加へ總て八箇村を南隅田

莊といふ〇相賀莊三十二箇村の中中組に屬する六箇村

及高野領八箇村を除き隅田莊二十一箇村の中高野領中

道村を除き合せて總て三十八箇村を上組とす

右五莊百一箇村の中高野領十三箇村を除き總て八十八

箇村なり

高野領

志富田莊 總二箇村

西志富田村

東志富田村

四村莊

星川村

星山村

御所村

日高村

三谷莊

寺尾村

兄居村

三谷村

平沼田村

皮張村

友淵莊

岩瀧村

林村

久保村

清川村

日高村

烏淵村

總四箇村

總三箇村

平沼田皮張二村附總五箇村

小名 相木

總七箇村

小名 向井

同 奥澤

小名 多郎

小名 山戸

南地村

小名 北原

友淵莊は伊都那賀兩郡に跨かる那賀に屬する九箇村を

合せて總て十六箇村なり

志賀莊

一箇村

志賀村

善坊

下志賀

中志賀

上志賀

鍛冶谷

經師垣内

天野莊

總三箇村

下天野村

小名 大和

同 細原

上天野村

小名 龍

神田村

長谷莊

二箇村

花坂村附總三箇村

中村

新城村

花坂村

小名 不動野

長谷莊伊都那賀兩郡に跨かる總て五箇村なり内三箇村

那賀に屬す

湯川莊

總二箇村

下湯川村

小名 中湯川

上湯川村

花園莊

總十三箇村

古向村

白谷村

有中村

峯村

中越村

築瀨村

瀧谷村

北寺村

新中村

中南村

久木村

相浦村

大瀧村

官符符莊

慈尊院村

九度山村

山崎村

教良寺村

小名 菅谷

小名 南垣内

小名 金剛寺

同 堂原

同 池窪

小名 西山

小名 廣良

古曾部

小名 金屋

官符符莊三十六箇村の内此四箇村高野の管内に屬す

相賀莊

小名三軒茶屋

向副村

横坐村

賢堂村

清水村

東畑村

西畑村

馬場村

河根村

相賀莊三十箇村の内北八箇村高野の管内に屬す

隅田莊

中道村

隅田莊二十一箇村の内此村高野の管内に屬す

古佐布莊

四箇村

笠木村

上古佐布村

中古佐布村

下古佐布村

椎手村

市平村

筒香莊

總三箇村

下筒香村

中筒香村

上筒香村

富貴莊

總二箇村

東富貴村

西富貴村

高野山

郡中田畑總數

田高畑高 二萬九千九百六十一石餘

郡中戸口總數

家數 五千九百六十軒餘

人數 二萬四千三百七十八餘

紀伊新風土記 卷之四十二 伊都郡 郡中田畑 戸口 高野領田畑 戸口 郡中山川

細川莊

一箇村

細川村

三尾川郷

總二箇村

西郷村

東郷村

北又郷

北又村

楠平村

久保村

黒河村

摩尼莊

東宿村

西宿村

杖藪村

檉原村

平原村

林村

南村

西峰村

高野領郡中田畑總數

田高畑高 七千四百六十一石餘

高野領郡中戸口總數

家數 三千五百五十軒餘

人數 一萬三千九百四十八餘

郡中山川

兄山 加勢田並香山村

七越峠 四郷莊

三國山 同

燈明嶽 同

國城山 相賀莊東畑村

不動山 隅田莊杉尾村

七霞山 隅田莊谷奥深村富貴摩尼筒香界

三里峯 友瀧莊

天狗嶽 湯川莊

陣峰 花園莊大瀧村

傳供木 摩尼莊原村
葛城山 伊都郡賀儀郡の南に在りて東西に連る高峰なり在田郡
と家筋を以て界とす其名高野山御手印縁起に出たり
事は海部郡加太莊の條に出せり

右詳に各村の條下に見ゆ

- 静川 加勢田莊
- 藤谷川 官符莊藤谷村
- 隅田川 隅田莊上風村
- 小田堀川 官符莊小田村を堀口とす當郡及那賀郡に流く國中に
て堀の最大なるものなり元藤中大畑才藏といふ者水利
に精しく初めて此堀を穿る是より諸方の墾墾々出來たり
といふ
- 友淵川 友淵莊
- 長谷川 長谷莊
- 湯川 湯川莊
- 五里谷川 花園莊
- 古澤川 古佐布莊
- 三尾川 三尾川莊
- 丹生川 源は摩尼宮賀儀郡に出で、北又三尾川郷
の川合流して相賀莊を歴て紀ノ川に合流す

郡中名勝舊蹟

眞土山 今大和國宇智郡に屬す 庵 崎 隅田莊

- 隅田川 隅田莊
- 妹山 志富田莊
- 高野 天野莊
- 菅川藤代之峰 筒香莊
- 澤田 志富田莊
- 丹生川 妻 紀 奄 上 玉 春 大我野 相賀莊
- 杜 關 田 田 川 山 加勢田莊
- 妻 杜 關 田 田 川 山 加勢田莊

郡中古祠

- 小田神社 官符莊小田村
- 丹生都比女神社 天野莊上天野村
- 右二社延喜式神名帳及本國神名帳に載する所の神なり
- 天ノ手力雄氣長足魂住吉神社 相賀莊胡麻生村
- 丹生高野御子神社 天野莊上天野村
- 右二社本國神名帳に載する所の神にて前と合せて總て四社なり

稻積神社

右一社本國神名帳載する所にして其跡今詳ならず
寶來山神社 加勢田莊萩原村

大宮四所明神社 加勢田莊坂口村

- 篠田明神社 官符莊大谷村
- 信田明神社 官符莊九重村
- 證誠權現社 相賀莊萩原村
- 總社三部明神社 相賀莊市島村
- 隅田八幡宮 隅田莊垂井村
- 蟻通明神社 志富田莊東志富田村
- 丹生酒殿明神社 三谷莊三谷村
- 皇神社 相賀莊清水村
- 丁田天滿宮 相賀莊島坂村

右十四社郡中にて著き神なり本國神名帳載する所稻積神
及未官知神十四社とある或は此等の神なるへきか

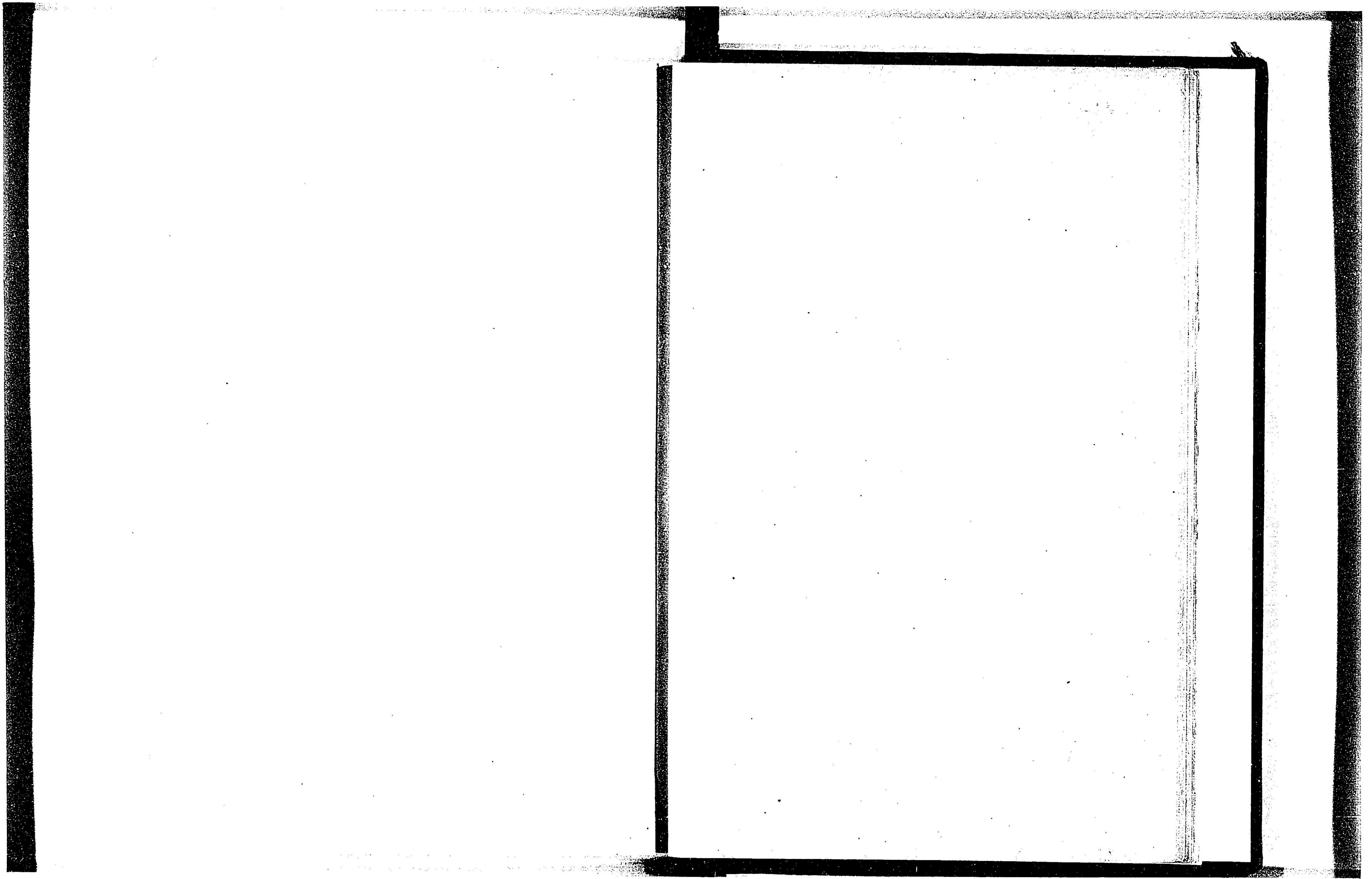
郡中古刹

- 醫王寺 相賀莊市島村
- 妙樂寺 相賀莊寺島村
- 地藏寺 相賀莊菅浦谷村
- 小峰寺 隅田莊境原村
- 大高能寺 隅田莊垂井村

- 利生護國寺 隅田莊下兵庫村
- 勝利寺 官符莊慈尊院村
- 慈尊院 官符莊慈尊院村
- 金剛峯寺

郡中街道

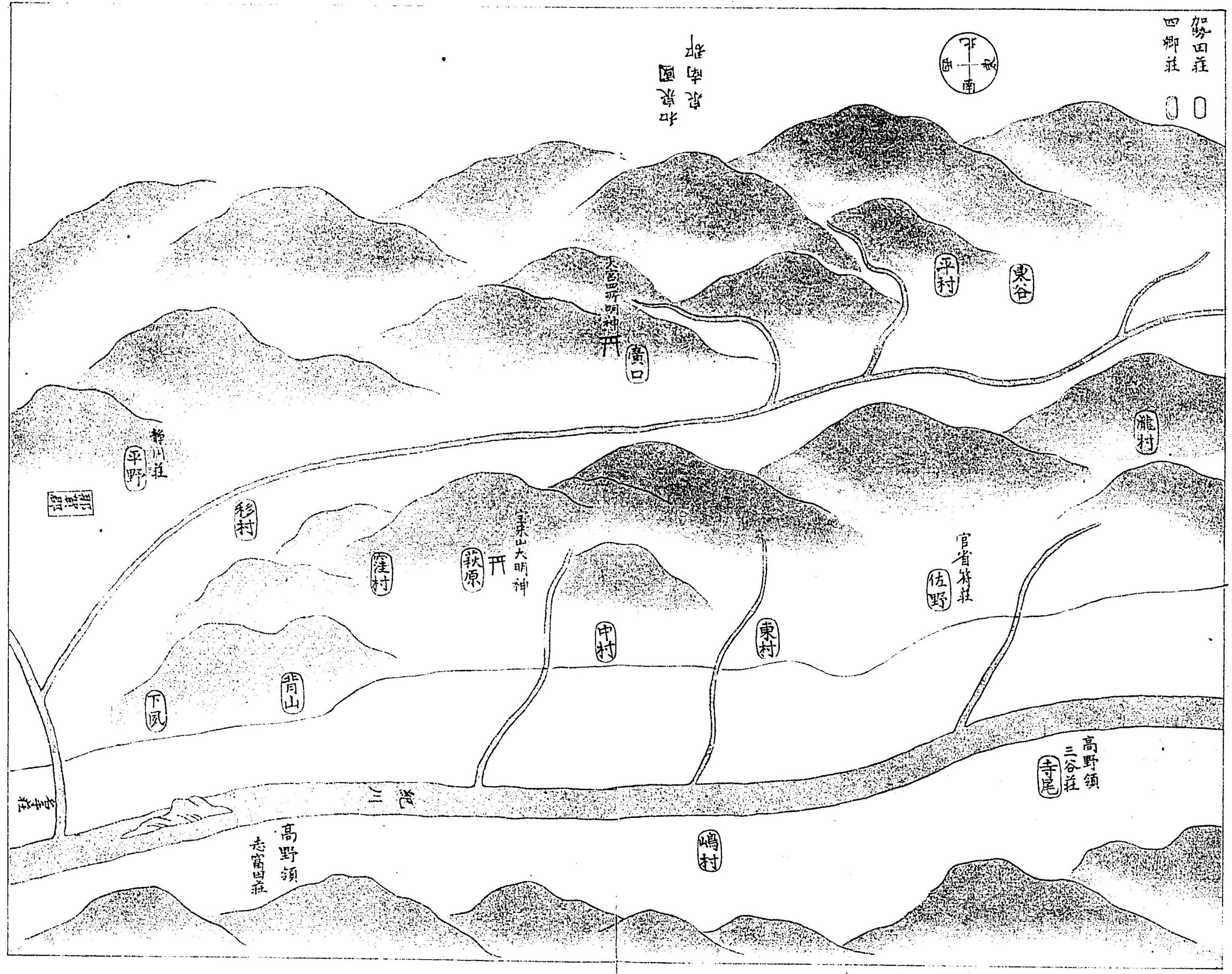
高野街道三
 一は那賀郡麻生津莊麻生津峠より四村莊を経て志賀莊志賀村の内中村に至り花坂村を経て高野大門に至る道程五里餘是を麻生津よりの高野街道とす
 一は官符莊慈尊院村より天野莊古佐布莊の堺を歴て花坂村小名不動野を経て同村出村矢立にいたり麻生津よりの街道と出合ひ高野大門にいたる道程三里これを慈尊院村よりの高野街道とす古 天子行幸の道にて毎町に標石あり
 一は相賀莊橋本町より紀川を経て同莊學文路村河根村細川莊細川村小名神谷辻を経て不動坂より高野壇上に至る道程四里半是を橋本よりの高野街道とす



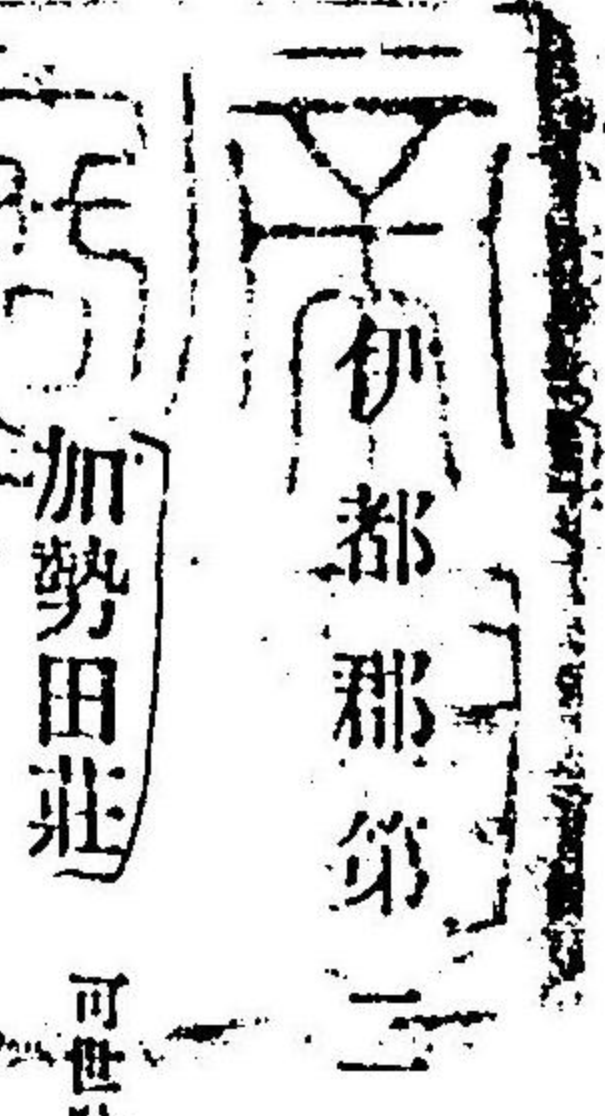
加勢田庄
四柳庄



加勢田庄
泉勢田庄



紀伊續風土記卷之四十三



加勢田莊 可世味 總八箇村

加勢田莊總て八箇村伊都郡の西端紀川の北にありて東は官給の庄に接し西は那賀郡名手莊に穴伏川を隔てて相對し南は高野領志富田莊と紀川を隔てて界し北は四郷莊と山を界す其廣袤東西一里許南北一里餘加勢田莊は持田と書す名義を按するに古語拾遺に蝗の脈咒に麻柄を以て持を作りと持くとある如く持にて蝗を拂ひし田地の字などより起れるなるへし此莊及四郷莊下官省符莊佐野村邊は古の桑原郷の内なり桑原の事官省符莊佐野村の條に辨せり中古此莊を熊野御幸の時槍物具を供する地に宛らる又後白河帝此地を城州高雄山神護寺に寄附し給ふ是より數百年彼寺の領となれる事詳に東鑑及莊中萩原村寶來山神庫の文書等に見たり又天授三年の文書に持田西莊の内を高野の大塔の佛餉料に寄附の事あり高野屬邑下尻背山中東の四箇村は伊勢街道にあり其餘は

皆葛城の山足にあり唯島村の一村川の南に在りて志富田莊に隣りて舊其屬邑なりしに慶長檢地の時はじめて此莊の屬邑となれり莊中の風俗大抵尋常の村落にして富家少し

○兄山

背山村の西北にあり孝德紀に南自紀伊兄山以來兄山此山爲二畿内國とある地なり此山兩峰を起し背山村に屬する方を土人鉢伏山といふ鉢伏の義は其形狀頂に古松多く生ひて中央に小祠あり下尻村に屬する方を城の跡といふ頂少平にして陣屋の跡今も残り此兩峰を古は兄山といひて藤原宮奈良宮の御世より以來風詠頗多し伊都郡那賀兩郡の地北の方は葛城の峰連なり南の方は長峰連なりて紀川其間を流る背山の處に至りて南北の兩峰相狹りて大體此山にて東西を斷つ故に古畿内の限とし伊都郡那賀兩郡の界とも定めしなり兄山は則狹山の義にして地形其名の如し或は山の背筋の義は妹の義にとりなして是に對せる川南の山を妹山と號してより妹妹山の名世に揭焉なり古歌多し下に載す妹山は紀川の南高野領志富田村にありて今は長者屋鋪といふ其條に詳にす背山と妹山との間の川中に船岡山と云ふ小島ありて島村に屬せりこれ古らす又これを背山と云ふは昔も云ふに然れどもは小島にして背山に對すへきに大和巡の記に妹背山は大和の吉野にあるをそれなりといへるは古今集の歌の

よしの川のよりや世の中よめるに泥みて誤りたるなり玉勝間にその辨あり横後拾遺集に流れてもうき瀧なみせそよし野なるいもせの山の中山の水よめるも古今集の歌によりて古く誤り來れるなりこれらによりて今吉野のうらにもせ山といふ地あるは後世好事のものに假け出たるにて此類多し又玉勝間に妹山といふは別にさいふ山あるにはあらす青山といへる名にむかへてもさば枕詞の類にまうけてよめるならむといふ既あれども葛葉集七巻の歌に「妹山といふ地なくはよむへからす又妹山を紀伊の山にあり」といふにつきては同集十三巻の長歌に「妹山勢能山越而さあるは妹山川向ありては越はされはなはすされはなはす」といふ勢能山の縁につけていへりさすへし同七巻に勢能山直向妹山亦勢能山打橋渡さよめるは打橋さば手に手懸くつたる小橋なふなれば青山より川の雨の山まで打橋をわたすへくもあらす昔の川幅今はさばに廣くつらさも猶いかになりもさより古來此邊に橋ありささきつ同三巻の此勢能山乎妹者不映さよめる附答の歌も川を隔てありては聞はすより橋接するに存し山元來東西に兩峰ななせればそれを往昔の文人の詞章に妹山青山と合していへり山と稱せしむるあらむさらば打橋わたすさよめるも兩峰の間の溪流なごに流るなりありしをよめるなるへし同七巻に木道爾社妹山在玉勝上二上山母妹許曾來

もどせうとこの二つの山の中に小山ありそれをいもせ山といふとそかの國の土民申しけるおほつかなしとあり此小山さ前にいふ船岡山の事ならむおほつかなしは是をその比の土人いもせ山なりといひしなふたりたりなり川中なれば古歌に越ゆさよめるに合はす誤なること永承三年關白頼通公高野參詣日記に爰解錦籠而漸權妹山娘山之紅葉浮穴卷珠籠而閑望斜岸遠岸之青苔展齒或有碧潭之湛々或有白沙之漠々奇巖怪石繞之參差古松老杉亦以雜排凡毎所無不驚眼每物莫不發興とあり此文よく此邊の形狀をつくせり文中文字の寫誤あり見ゆ妹山は妹山にてせ山の浮穴は浮沈の轉訛か今決したし

○春山 妹山 娘山 妹山 妹山

萬葉集一 越勢能山時阿閉皇女御作歌
此也是能倭爾四手者吾戀流木路爾有云名二負勢能山
同 三 丹比真人笠麻呂往紀伊國超勢能山
時作歌一首
抄領巾乃懸卷欲寸妹名乎此勢能山爾懸者奈何將有
一云可倍波伊香爾安良牟
春日ノ藏首老即和歌一首
宣名倍吾春乃君之負來爾之此勢能山乎妹者不喚
小田事勢能山歌一首

眞木葉乃之奈布勢能山之奴波受而吾超去者木葉知家武

同 四 神龜元年甲子冬十月 幸紀伊國之

時爲階從假人所詭娘子笠朝臣金村

作歌一首并短歌長歌は眞土山の縁に

後居而懸乍不有者木國乃妹春乃山爾有益物乎

同 七 詠 山

木道爾社妹山在云櫛上二上山母妹許曾來

藤原卿

勢能山爾直向妹之山事懸屋毛打橋渡

同

麻衣着者夏檀木國之妹春之山二麻許吾妹

妹爾戀余越去者勢能山之妹爾不戀而有之乏左

人在者母之愛子曾麻毛吉木川邊之妹與春之山

吾妹子爾吾戀行者之雲並居鴨妹與勢能山

妹當今曾吾行目耳吾耳見乞事不問侶

大穴道少御神作 妹勢能山見吉毛

同 九 大寶元年辛丑冬十月 太上天皇

大行天皇幸于紀伊國時歌

勢能山爾黃葉常敷神伯之山黃葉者今日散瀧

紀伊國風土記 卷之四十三 伊都郡 加勢山莊

同 十三

木國之濱因云飯珠將拾跡云而妹乃山勢能山越而行之君何
時來坐跡玉梓之道爾出立夕乎吾間之可婆夕卜之吾爾告
良久吾妹子哉汝待君者與浪來因白珠邊浪之緣流白珠求跡
會君之不來益拾登會公者不來益久有今七日許早有者今二
日許將有等會君者聞之三勿戀吾妹

古今集 題 志らば よみ人しらす

あられてとれもせの山乃中よかつる

としの川れよしやよの中

拾遺集 同

むつまじきいも若の山と去らねはや

初秋霧のまぢへうつらむ

金葉集 歌合み鷹を 春宮大夫公實

いもせ山峰の風やさむらむ

衣かりか袷空まなくあぞ

新勅撰集 堀河院百首歌奉りける時山の歌 權中納言國信

あさ緑かほみわされる絶間より

みれどもあぬいも若山あか

新後拾遺集 延久二年 後光嚴院百首歌奉りける時霞

太政大臣

春といへとゑりて霞の中よかつる

いもたの川も水ごとくらし

新撰古今集 百首歌奉りし時山吹 藤原雅永朝臣

いとてかもふ心の色の妹春山

中なる川の山ふくのとな

古今六帖

淵せども何らぬのまむいもせ川

心と瀬よしよらむとかもへと

歌木集 霞のふらろを 俊頼朝臣

妹春山細谷川を帯にして

霞の衣けさやさるらむ

家集 伊勢

みよしの、山れ下風寒ふらし

いもせの川乃波高くみゆ

紫雲和歌草 妹春山 順徳院御製

いもせ山ぬのおどの葉は秋よ又

空ほりやほきり心まりけと

七玉集 山 正三位侍從藤原朝臣行家

玉集 山 逍遙院内大臣

くさほうふねもとるを待つらん

世の中夜と取せとてよそおもひぬる

山よぬもせの名をさくもうち

いれよりたまよひの世々のちりの數

いもせの山れ名にもなつらん

草根集 早春 正徹

いもせ山春れ霞の衣さ

中にあらはは年とへたてし

初春 水

瀧川の水の心もどけてあや

氷るいもせのなほの下ひも

暁天 春月

風そうき月ならみそいもとせの

山れ霞のきぬくの空

川 霧

朝得らけ麓の霧れいもせ川

中なるよともいれくとはあし

夫木抄 梅 清輔朝臣

紀伊續風土記 卷之四十三 伊都郡 加勢山莊

おもひあらと紀路の通ひち遠くとも

ゆきてやまはむいもとせの山

家集 依花不厭風といふ心を 鳴長明

吉野川去らみあけて櫻さく

いもせの山れ嵐をそまゆ

拾玉集 日吉百首歌の中よ春 慈鎮

いもせ山霞の袖をさきあけて

いとてそ見る春の來ぬとと

賀茂社歌合 かすま 兼綱

うとからぬいもせ山の中よま

霞はるをへとてなりける

御筆撰歌合 冬 前宮内卿藤原季經

妹春山中よしの、川乃瀬よ

むさふ水や契となるらむ

結暉百首 山中瀧水 阿佛

をちあぢろいもせの山に隠せば

吉野の瀧やあらはなるまし

草庵集 聖護院五十首に鶴川 頓阿法師

吉野川いもせの山の中とてや

春くれとこそ野の梅乃うつり香も

妹春の山やなき名立らん

柿本影供百首 後九條内大臣

曉もかれをらしとやどかるらむ

いもせの山れ春のかどる結

深山開鹿 清輔朝臣

いのおきはいもせの山よすむ鹿の

又かさ結てとつまをこふらむ

障子の繪に妹春の山中に川なかれた

り紅葉ちりうかふ 祭主輔親

むつはしたお取しほさきれいもせ山

紅葉のいろもわかほそ有る

六帖題篠 信實朝臣

妹春山中におひさる玉さくれ

一夜のへとてさもそ露ささ

建長八年歌合 從二位行家卿

妹山のいと結よ生ふるまらあはさ

はうこほとてや露けかるらん

松下集 釋 正廣

あけぬとてまのれよいのいもせ山

花よそふ夜の月れ宮人

家集

宵

柏

年をへて天津星合のいもせ川

わたし來にけむ鶴の橋

此外も古歌あまたあれと妹脊の名のみによりて戀などによめるはすへてはふきて景色によれる詠をひねと出せり

○澗川 一名四十八瀬川

源は四郷、莊平村領和泉國境の峰より流れ出て下夙村領にて紀ノ川に落合ふ川長二里半幅平均三十間餘なり名手莊にては穴伏川といふ此川傍は和泉國榎尾寺への街道なり

下夙村

志毛自由久

田畑高 百八十六石三斗八升五合

家数 六十三軒

人数 三百一人

那賀郡名手、莊穴伏村の良の方三町許にあり兄山の西麓に

背山村

世乃也麻

田畑高 二百四十九石八斗二升八合

村す慶長檢地帳には宿と書す隅田、莊の上夙村も同帳に又宿と書せり同郡同名混し易き故に上下と分ち文字をも夙と改めたるなり宿を夙に改めたる事又其名義は詳に山崎莊山村の條に見ゆ

○小詞三社

八幡宮 村中にあり

若宮 社地周三十間 村の西にあり

小社 社地周十四間 村中にあり

○極樂寺 淨土眞宗西派海部郡和歌浦性聖寺末 村中にあり

○薬師堂 村中にあり

○冷水井

村の乾にあり弘法の穿つ處といふ

○古城跡

村の東北にあり高さ四町則兄山の中なり傳へいふ阿波の宰相といふ人の城跡なり或は織田三七郎信孝高野責の時の城蹟にて那賀郡穴伏村の城と犄角をなせり

家数 三十一軒
人数 百三十五人

下夙村の東六町餘にあり伊勢街道にして背山の麓にあり因りて村名とす慶長檢地帳に瀬山と書す

○小祠四社

八幡宮 社地周二百二十間 鉄伏山にあり 同所にあり

水神社 社地周四十四間 同所にあり

稻荷社 社地周八十四間 同所にあり

○西福寺 眞言宗古義萩原村神宮寺末 村中にあり

○廢念佛寺 村中にあり百餘年前廢す といふ周八間餘餘地なり

○鉢伏山城址

村の西兄山の中にあり東西六十六間南北七十五間下夙村の城跡よりは巽の方なり城主詳ならず

移村

字郡理 同村内皮田

田畑高 二百七十一石三斗四升八合

家数 十七軒

人数 六十二人

下夙村の北十三町にあり他村より此地に移り住みて一村と

紀伊續風土記 卷之四十三 伊都郡 加勢田莊 移村 窪村

なれるより名つくるなるへし村領に皮田あり

○小祠六社

大將軍社 社地周百二十間 村中にあり 牛神森 村中にあり

天神社 社地周四十間 同所にあり 水神社 社地周四十間 同所にあり

辨財天社 社地周八十間 同所にあり 小社 社地周十四間 村の北にあり

○極樂寺 眞言宗古義萩原村神宮寺末 境内周三十八間

村の北にあり

○地土

松山豊之助

窪村

久知

田畑高 二百八十六石四斗二合

家数 三十一軒

人数 百三十五人

背山村の良九町餘にあり村居の地甚低き故に窪の名あり

○観音寺 境内周四十間

眞言宗古義萩原村神宮寺末

村の東にあり開基詳ならず天正の兵亂に頽廢せしを數年を

經て井の中より本尊を掘出し木村勝左衛門といふ者小堂を結ひて安置す慶長二年下村三大夫といふ者本堂を繕せし事ありて忽亂心しけるを本尊に祈誓を籠めて平快す又其年十月葺三左衛門といふ者母の大病に祈誓して平癒せしにより同三年三月再建し放光山觀音寺と號せり今も葺氏の位牌あり古は仁和寺末なりといへり

○藥師堂 觀音寺門前にあり

○古城趾

村の北二町許にありて城尾山といふ東西七間南北二十間城主詳ならず里人の説に此山を持たる者村中に木村藤五郎といふ者あり此先祖の城なるへしといへり

萩原村

波岐波良

田畑高 四百二十七石八斗一升二合
家 數 四十軒
人 數 百四十三人

窪村の東に接す日本後紀に弘仁二年八月廢紀伊國萩原名草加太三驛以レ不レ要也又同三年四月廢紀伊國名草驛

浩するを以て今に至るまで毎年七月二十一日には莊中寺僧集り當社にて法華會をなし後角力を興行すとそ大永の頃後柏原院の三宮青蓮院高野福藏院今の巴陵に寓居し給ふその頃當村に加勢田是吉とて福藏院の後見をなし三宮を傳カき奉れる人あり詳に東村の條に辨す此人當社を殊に尊敬して再興をなし三宮の御縁に因りて 後柏原帝の勅額繪旨等を賜はる社領田地十町を御寄附あり故に當社の神徳益世に著く社殿も備りしに天正の兵火に罹りて灰燼となれり後土人衰廢を歎き更に造營して今の如くなせり神寶に御劍神弓太刀四社明神及文覺の畫像あり 當社神令按ずるに寶財天を祀りしを是吉初めて四社を勧請して氏神とし夫より大社なれるなるへし其證は當社に於て四社明神を祀きたるに辨財天を中央に祀きたる今境内末社に辨財天の社あるは後世本社より遷坐したるなるへし或は疑ふ此地は舊丹生津比賣神天野鎮坐の頃御經歴の地に於て丹生津比賣神を祀りしを女神なるを以て辨財天の如く尊くよりも像にも畫かきたるなるへし後に是吉四社明神を祀るを以て辨財天とし丹生津比賣神の條により且高野山に在せる緣等によりて天野丹生四所を遷し祭れるなるへし今の神四坐は天正の亂神主を森越後といふ家後古傳を失ひて漫に是等の神と定めたるならむに大永の 繪旨文書等の寫あり本書は高野山巴陵院に藏む

別 當

神宮寺 寶來山 延命院

眞言宗古義京仁和寺末なり境内に地藏堂大日堂あり莊中に末寺十箇寺ありて莊中の本寺とす 寺皆當寺の末寺なり故にこゝに十箇寺の名を列せず

紀伊續風土記 卷之四十三 伊都郡 加勢田莊 中村

更ニ置テ萩原驛と見ゆ又延喜兵部式にも載せたる古驛の地なり驛家の事は詳に海部郡加太莊の條に辨す當村今の街道よりは少し北にあり古道は村中寶來山明神の社前を過きて兄山の北の方を越へたりといふ今明神の境内に舟繫松といひて往古舟を繫きし古松といひ傳ふ是に因るに古は河筋も今の街道よりは北なりし事明なり後世川筋も變し小田堰溝を穿ちしより地形大に變す藻鹽草に萩原を當國の名所とするは日高郡の萩原村なるへし詳に日高郡萩原村の條に出せり

○寶來山大明神社 境内周三百二十間 禁殺生

本社 一宮 白鬚大明神 二宮 天滿天神
三宮 八幡宮 四宮 藏王權現

拜 殿 大鳥居 額に正一位勳八等日本第一大臣寶來山大明神とあり大永年中 後柏原帝宸筆なり

末社五社

牛頭天王社 粟島明神社 辨財天社
大黒天社 衣比須社

文 覺 社 子日權現社

村の東にあり莊中の氏神にて大社なり勸請の時代詳ならず寶來山と稱する事其故をしらず傳へいふ中古此地高雄山神護寺の領なりしか文覺上人熊野那智山より歸れる時當社に神宮寺を造營し不動の尊像を刻みて此に安置し又四十八瀬川より巖石を穿ち溝洫を作りて莊の田地に灌く里人其恩に

○小祠三社

龍神社 氏神社の北十町にあり 小 社 祀神詳ならず

大將軍森 繪村の境にあり社なし

○大福寺 眞言宗古義村中神宮寺末村中にあり

○文覺堰

四十八瀬川の溪流を引きて當村及中村東村へ懸る所長一里三町なり壽永年間文覺上人是を穿りて農業の助とすといふ寶來山の條下に見わたり

○地 士

西村縫之助

其家傳へいふ江州北野郡小美濃莊上之村の住人西村主計といふ人の子に丹波國桑田郡の住人西村四郎右衛門といふ者の末孫同新九郎といふ者の後に世々此村に住し明和四年地士となる

中 村

奈加

田畑高 四百三石八斗一升八合
家 數 九十二軒
人 數 三百三人

萩原村の巽六町餘にあり按するに萩原村の分村にて萩原と東村との中間にあるより中村といふならむ

○小祠三社

大將軍社

社地周十六間
村中におり

小 社

社地周四間
村の東におり

八幡宮

社地除地無量
寺の側におり

○無量寺

眞言宗古義萩原村神宮寺末
村の北におり

○彌勒堂

境内周十六間
村の西におり

○地 士

田中元右衛門

東 村

比賀志 小名折居

田畑高

八百八十六石五斗六升七合

家 數

百二十八軒

人 數

四百八十五人

中村の東三町にあり永仁天福建長正平文明等の文書に粉河寺領東村と見たり按するに當村は萩原村の東にあり故に名とす小名村の巽にあるを折居といふ壽永文書に東限下居とある是なり本村を下りて其前に官省符莊佐野村の小名に同名ありてそれと家居接せり村の西にあるを筋邊といふ皮田

是吉信やかに勤仕せしよし 叙聞に達し 繪旨を賜はれる
中に紀泉兩國僧俗の御代官といふを免さるゝ事あり故に子孫漫に人に官位を許して其咎により追放せられ江戸にて死して家絶わたり

下ニ繪旨於我國紀州伊都郡高野山ニ 禁裡御宿坊之事小

田原御所坊也并ニ唐船高麗琉球船祈禱守可任ニ先例ニ候

次ニ下山天野御宿御殿役人參内仙人翁是吉也兼又三宮

青蓮院有去子細ニ高野住山之時は吉種々之忠節無比

類ニ候山門跡一同奏上寂威之餘紀州泉州堺南北僧俗官

位之御代官永 可傳家者也 天氣如此悉之以狀

大永五年八月廿七日

右 大 辨

參内仙人翁是吉

ないしせん

文けさんに入ては

かうやにて

御しゆくはうの

事

かたそられ前より

あまのにては又せうせんきさう。

なり

○小祠九社

山 神 社

社地周五十六間
村の北におり

大將軍森

社地周八間

白鬚明神社

社地周六十四間
村の長におり

祇園社

折居にあり

辨財天社

社地周十六間
夜文田におり

權現社

衣比須社

社地周四間
村中におり

大將軍森

社地周八間
村の北におり

三神合殿社

妙樂寺の側におり

○妙樂寺

眞言宗古義萩原村神宮寺末

村の西にあり本堂大日堂等あり

○地藏寺

眞言宗古義萩原村神宮寺末

○祇園寺

眞言宗古義萩原村神宮寺末

○觀音堂

村中におり

○仙人翁是吉墓

村の長にあり東の墳は是吉の墓西は是吉の妻の墓といふ兩墳相距る事五六間許其南面大石を建てたり石面二字を彫りたれども讀かたし又是吉の屋敷跡小名市場といふにあり東西三十間南北十五間許是吉は大永年間當處の富豪にして資來山の社を再興したる人なり其事詳に萩原村の條下に書す大永の比青蓮院宮高野に登山なし給ひ福藏院に御滞留の時

よもり乃事せんをいよ

ほかおへきよし心と

あされいよし中略

さんたいせんよんこれよしよて云云

三宮青蓮院尊純之御令旨

繪旨再女房奉書加一覽ニ 師跡之重寶尤不可過之

候仍ニ爲ニ後證ニ尊鎮親王雖ニ被ニ添ニ芳翰ニ紛失之由申之

間染筆者也

二月十三日

御 判

福藏院

○地 士

六十人之内 木村 孫市

島 村

志麻

田畑高 三百七十二石三升二合

家 數 七十一軒

人 數 二百二十七人

中村の南川を隔て、六町許にあり村居東西に長し莊中にて唯此一村川の南にあり舊は志富田村の分村にて後當莊に屬

せり此地土地卑く古は紀ノ川の中洲なりしに自然と高くなりて遂に一村落をなせるより島の名あり

○小祠二社

寶來山大明神社 社地周四十二間 村中にあり

辨財天社 舟岡山にあり古は地藏寺に在りしを寛永年中此に移せりといふ

○地藏寺 眞言宗古巖原村神宮寺末村中にあり

○舟岡山

村領川岸より四十間を隔て、紀川の中にある小島なり形舟に似たる故に名とす

四郷莊 志賀守 總四箇村

四郷莊總て四箇村東南は官省符莊に接し西は那賀郡靜川莊に接し北は和泉國泉南郡河内國錦部郡に接す其廣袤東西三里餘南北一里半餘靜川此莊の中央を貫きて東より西に走

經塚山の東にあり七越とは海部郡加太より起りて泉州へ越る道とに至りて七道あるを以て名とす又父鬼越ともいふ泉州父鬼村へ越ゆるを以てなり山上の眺望泉州横尾は長に當り加勢田莊島村の藪は南に當り大阪は子丑の間に當れり

○宿山

七越峠の道より東の森なり高さ四十町葛城の峰通り山隊の行所とす八大龍王の石寶殿あり

○三國山

宿山の東にあり泉河紀三國の界なるを以て名つく乾の方は泉州良の方は河州巽坤共に紀州領なり眺望最よし

○燈明嶽

堀越の北にあり山隊の行所なり

○横尾道

宿山と三國山との間にあり河内國横尾寺に通ふ順禮道なり此道四十八瀬より平村を経て來る道にて峻ならず

廣口村

比呂久知 小名大松

田畑高 二百四十八石八斗二升

紀伊嶺風土記 卷之四十三 伊都郡 四郷莊 廣口村

る枝流三あり下なるを下津川といひ中なるを平川といひ上なるを東谷川といふ四村各谷を異にす當莊及加勢田莊下官

省符莊佐野村邊は古の桑原郷の内にして當莊舊四津谷といふ

加勢田莊藤原村寶來山 後世四郷谷とも四郷莊ともいふ葛城の

峯當莊にて諸谷皆絶壁にして峰巒突出重疊して各奇を争ひ

瀑布處々に掛り奇觀多く深山中の形勢なり故に平地を去る

事遠からされども加勢田官省符の兩莊に較ぶれば人物質素

にて貧村なり

莊中葛城嶺諸山

○坊峰 藏王嶽

廣口村の西北川筋の上二十町許にあり峰筋の西巖壁の中に藏王權現の像自然に彫りたるか如し因りて藏王か嶽といふ

○成高山

平村の北にあり高さ二十五町許那賀郡の境なり古城趾なりといふ

○經塚山

平村の北に當りて尤高し高さ三十町許なり泉州境にて葛城の峰通り山隊の行所なり

○七越峠

家數 七十三軒
人數 三百七十人

加勢田莊移村の長二十町許にあり當莊瀧平東谷三村各谷を異にす當村に至りて一谷となり三村の口を括りて一とし谷廣さより廣口といふなり村上下に分る下村より三町許南川の西邊に高さ五六尺の大岩あり是を伊都那賀兩郡の界とし此谷筋を境谷といふ上は石寶殿の峰への見通しを兩郡の界とす村の北靜川の上に瀧あり其下に雀か瀧戸立か瀧丁子か瀧といふあり小名大松は村の乾十八町にあり

○大宮四社明神社 境内山林除地 禁殺生

本社四社 一宮二宮三宮各四尺三寸に三尺 八寸四宮五尺一寸に三尺八寸

神樂所 拜殿 舞臺跡

鐘樓 藥師堂

攝社二社

宇賀神社 荒神社

村中にあり莊中の氏神なり土人大宮とも三尾明神ともいふ此地山の尾崎三あるより此名あり祀神詳ならず 或は帝釋天等の後世浮屠の稱と見ゆ神社には一二宮は素盞鳴尊一宮主ヲ神三宮は詳ならず四宮は八幡宮と稱すとあり此説も浮屠の説によりて改めたる神名なり共に借用し疑ふらくは丹生四社明神を祀れるならむ天正以前は

社殿甚壯麗なりしかど兵火に焼亡せりとそ神主を大富氏と
すふ

社僧 大宮寺 三尾山

莊中四箇寺の本寺にして眞言宗古義京仁和寺末なり神主社
僧の外供僧二人禰宜四人太鼓打一人あり

○小祠八社

八王子社

社地周八町村の
乾山上にあり

大將軍社

社地周八町上
廣口内にあり

大將軍森

森周十二間左次右
衛門垣内にあり

畑神森

村中に
あり

辨財天社

阿彌陀堂の
側内にあり

八幡社

法蔵寺の境
内にあり

子日權現社

村中に
あり

荒神社

社地
除地

○法福寺

眞言宗古義村中
大宮寺末
村中にあり

○小堂二字

阿彌陀堂

境内周五十六間上
廣口垣内にあり

觀音堂

境内周十間大
松垣内にあり

阿彌陀堂

境内周三十八間
同所にあり

○十六勢塚

大岩の北三町餘畑中にあり相傳ふ昔平家の殘黨十六人此地
に隠れたるに鎌倉より搜り求めて皆殺して埋めし塚といふ
近き頃塚を壊たんとしたる者ありて病みて死したりとて人
恐れて壊つ者なし

平村

多比良 小名大久保 下津川

田畑高 二百四十四石九斗一合

家數 七十八軒

人數 四百五十八人

廣口村の長三十町にあり谷の中にて土地高平なるゆゑ平と
いふ小名二あり村の長八町にあるを大久保といひ村の西
三十町にあるを下津川といふ

○小祠十一社

三十番神社

村中に
あり

大將軍森

社地周四十間
平垣内にあり

辨財天社

社地周二十間
村の西にあり

八幡宮森

社地周十間
村中にあり

牛頭天王社

衣比須社

手神社

以上三社社地皆除地
共に大久保にあり

小社

社地周
四町

奥宮

社地
除地

牛神社

社地除地以上三社皆
小名下津川にあり

八王子社

社地周二十間村の東にあり
小庭の森又福塚といふ

○福徳寺

經深山 眞言宗古義廣口村大宮寺末
阿彌陀院 村中にあり

○定福寺

眞言宗古義村中福徳寺末

小名大久保にあり大樹鬱茂として大林なり此堂飛驒匠工の
建つる所といふ堂の形甚異にして堂中に用ひたる板裡は手

田畑高 三百二十二石九斗六升八合

家數 百五軒

人數 五百十七人

平村の東七町にあり小名神野は村より寅卯の方十七町にあ
り堀越は其東二十五町にあり中畑は堀越の坤にあり大久保
は平村の小名大久保と接す

○小祠三社

八王子社

村中にあり天文元
年建立すといへり

八王子社

堀越に
あり

小社

社地周四十六間
神野にあり

○西方寺

眞言宗古義廣口村大宮寺末

堀越にあり鎮西四社あり

○小堂六宇

大師堂

村中にあり八王子社同
時に建立すといへり

護摩堂屋敷

村中にあり山
風の行所なり

觀音堂

境内周百八十二間堀越にあり傳へいふ文
治年中の建立にて慶長年中修復せり

金剛童子堂

境内周六町堀越にあり養老年中の開基といへり古
は七堂伽藍にて牛玉宮なといふありしとそ

瘞除觀音堂

堀越にあり瘴氣に驅める者立願すれ
は驗ありといふ近世香華の客多し

阿彌陀堂

神野に
あり

○東谷川

あり

東谷村

比賀志陀院

小名大久保

神野

中畑 堀越

水源三國山宿山金剛童子より出て三尾明神の東にて靜川に
合流す

○平川

間幅二間皆壯觀なり

○湖の瀧

不動瀧

壺寶瀧

村の西にあり高さ十間幅一間はかりなり

○湖の瀧

不動瀧

壺寶瀧

下津川の西の方溪に入る事八町に不動堂ありその後三瀧
あり南を湖の瀧といふ水増減ありて湖の満干の如くなれば
名つくると近來山崩れて此瀧は潰れたり其北にあるを不動

○向の瀧

阿彌陀堂

境内周二十六間
村中にあり

阿彌陀堂

境内周二十間
下津川にあり

○西福寺

眞言宗古義村中福徳寺末
下津川にあり

○小堂二字

阿彌陀堂

境内周二十六間
村中にあり

阿彌陀堂

境内周二十間
下津川にあり

斧削にて表は遺跡削なり柱の古き事千年をも経たりと見ゆ
本尊十一面觀音は行基の作といふ

源は平川と二川合して坊峠の西の麓を流れ三尾と稱する處に至りて下津川の流と合し大宮の前に至る

○時の瀧 乳の瀧 延二十三間 幅四間許

堀越より南の谷にあるを時の瀧といふ此水の下る多少時々相互にして時鼓を撃つに似たるより名づく其瀧の下を乳瀧といふ鐘乳石あり乳なき婦人此瀧水を飲めは乳汁よく出つといひ傳へたり

○西の瀧

時の瀧より西南に下り北に向ひて行く事二町許にあり高さ二十間大雨を得されは水細し

○文蔵瀧

大久保の東の谷底にあり源は宿山三國山の下より出て茲に至りて兩峽相迫りて懸崖をなし瀑布の懸る所上下相連なりて兩段となる下なるは西に向ひて落つ僅に二間餘上なるは東に向ひて落つ其高さ三十間許水勢激り落て奔蕩最甚しく流沫飛颯して聲雷の如し實に壯觀なり凡葛城峠の間瀧と稱する者往々有れども皆觀るに足らず唯此瀧のみ大に稱すへし

○極樂寺

眞言宗古義院口村大宮寺末 五條垣内にあり

○不動院 明王山 眞言宗古義若山中野島村明見寺末

村の東端にあり境内周二十間なり

○小堂三宇

地藏堂 境内周二十六間 村の東にあり

阿彌陀堂 境内周七間村の西にあり

地藏堂 妙見の北にあり

瀧村

多喜

田畑高 二百二十八石四斗六升

家數 四十四軒

人 數 二百二十人

東谷村の巽二十六町許にあり村居一溪の間に在りて南は佐野より西飯降までの數村と山を界し北は中畑越と山を隔て、其中間は地甚狭し東西は相連なる事四十餘町なり故に垣内の名九々に分る村名は舊村中不動院の東に千坪瀧といふありしより名つくるなるへし此瀧今は潰れて見えず

○妙見社

攝社星宮 鐘樓 拜殿

五條垣内にあり

○小祠七社

大將軍

辨財天社 社地周九十二間村中にあり(大)の森といふ

牛頭天王

八王子社 社地周二十八間村の西にあり

天王社 社地周八間極樂寺の北にあり

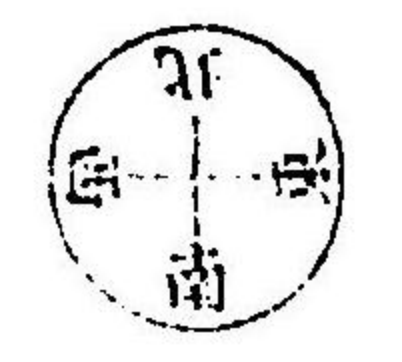
若宮 社地周六間村の長にあり

未宮

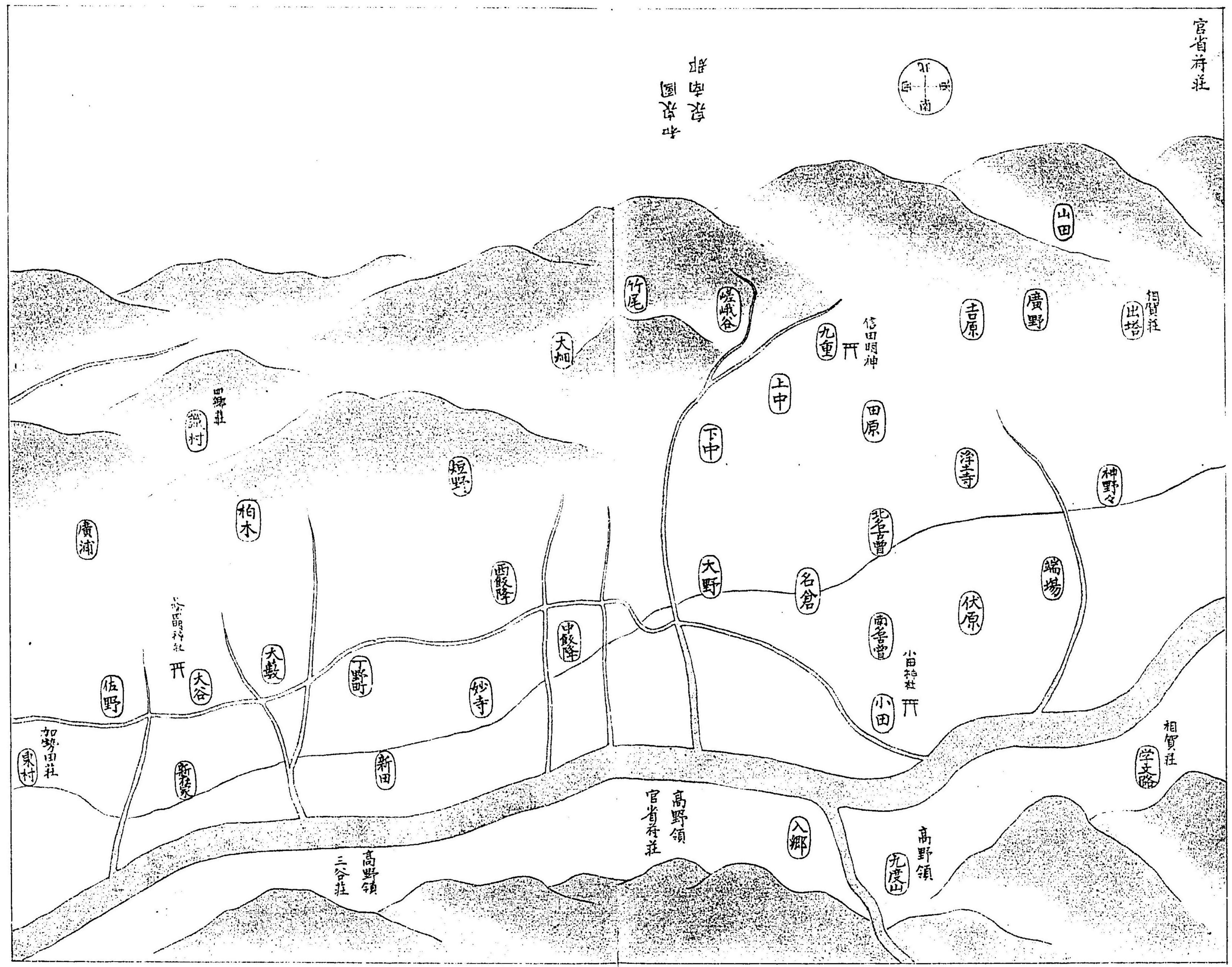
妙見相殿 社地周九十四間村の西にあり

大將軍社 社地周四間村の西端にあり

官省府莊



郡
泉
南
泉
國
如



紀伊續風土記卷之四十四

伊都郡第三

官省符莊

久和芸口也夫 總三十六箇村

官省符莊總て三十六箇村東西二里半許南北三里許東は相賀莊と界し西は三谷加勢田四郷の三莊と界し南は天野古佐布兩莊と界し北は河内、國錦郡に界す屬邑紀ノ川を跨りて川の南にあるを高野領とす官省符或は灌頂符とも書す高野山藏文今按するに官省符の熟字朝野群載及治曆三年の文書に見ゆ高野山藏參語集に其義を解きていふ太政官は上を行ひ民部省は下を行ふ高野政所の近邊の寺領を官省符といふは太政官よりは官符を下し民部省よりは省符を下すにより彼二を合せてしかいふ也とあり一説に官省符は灌頂符にして灌頂の事につ然れども古書に明證もなく官省の同音より誤れる事猶多かり故に今取らず當莊は古の村主郷井理郷及桑原郷佐野の地なり弘法大師高野山を申請し時慈尊院の地を並せ賜はり承和八年燈明料を賜はり貞觀十八年に伊都那賀名草牟婁四郡にて水陸の田を賜はり慈尊院村に政所を置て

紀伊續風土記 卷之四十四 伊都郡 官省符莊 佐野村

莊内の事を知らしむ其後永承四年に奏請して遠郡に散在して管治し難きものを官に返進し寺家政所の前の荒野並作田を替地に申賜はる是官省符莊の起りなり中古以降更に近村を加へ賜はりて數十箇村となる是より更に高野政所を兩所に置き政所上下といふ以上高野山藏永年間の文書に據る又其文書を飛村細山村四平原村其他小名多し此數村或は他莊に入り又小名の如きは今詳ならざるもあり又屬邑の中或は文字の異なる或は小名の本村とされるなりありそは各條の下に辨す高野領の 後世莊中を三に分ち上中下を以て稱す慶長檢地に上中下の別始めて見ゆ然して天正年間豊公新に二萬千石を高野領と定められしより慈尊院九度山山崎教良寺の四箇村を除き外は悉公領となれり屬邑のうち短野太畑竹尾嵯峨谷上中下九重田原吉原山田の數村皆葛城山下にありて頗山村にして大抵架田斜田にて僻陋の地なり丁野町妙寺中飯降大野名倉南北古曾の諸村は往還に散在し或は市店の形をなし且造酒家なと多く富農あり川の南高野領慈尊院は高野伽藍の一にて民舎又よし其他は普通の村落なり

佐野村

左也 小名折居 同村ノ内皮田

田畑高 千十一石八斗四升七合

家 數 百三十一軒
人 數 四百八十四人

加勢田莊東村の東六町餘にあり伊勢街道に村す村の名義詳ならず丹生社の告門に佐夜と書す靈異記に桑原狹屋寺あり時に下條に辨す佐野の文字應永元年の文書に始めて著はる高野山藏村の乾にあるを小名折居と云ふ村の北に大池と呼ふ池あり池の西の出崎に石碑あり銘に慶長中國主淺野紀伊守幸長奉行の文字あり此下土に埋れて字見わす村領に皮田あり

○小祠九社

稻荷社 社地周二十二間 村の長にあり

住吉社 社地周二十間 村の北にあり

小 社 社地除地村の北 松山垣内にあり

八幡宮 社地除地真明 寺の側により

○真明寺 眞言宗古義京勸修寺末

村の乾にあり右は慈尊院末といふ本堂鐘樓堂あり

○小堂二字

阿彌陀堂 村中に 大師堂 折居垣内にあり

○佐夜久乃宮

丹生ノ告門に遷幸伊都郡佐夜久乃宮爾太坐とあり佐夜は則當

村ならむ久乃宮は萬代宮常世宮等と同じく美稱なり今村中

小祠多けれども丹生明神を祀れる社なし按するに辨財天社村の長古道の側にありて社地もや、廣ければ疑ふらくは古の久乃宮の趾ならむ丹生明神は女神なるより後人誤りて辨財天とせしなるへし此例他にもあり

○桑原狹屋寺廢趾

小名折居に極樂寺安行寺田村寺六地藏等の字あり皆廢寺の地にして今もをりく、布目瓦を掘出す事あり按するに靈異記に桑原之狹屋寺といふ寺あり全文下條に出つ村名によるに此地則狹屋寺の廢趾にて其極樂寺安行寺等の如きは狹屋寺の子院なりしならむ桑原は古の郷名なれども其地開けて詳ならず然れども應永年間の文書に高野山藏政所下方桑原とあれば桑原の名下官省符莊の地なる事明にして又狹屋寺の廢趾當村にある時は此邊古の桑原郷なる事明白なり上官省符莊神野々村の字に桑原といふあり觀音寺開基地といふ或は其地狹屋寺の跡なりといふ然れども彼地は古の掛理郷の地にして桑原郷にあらざる桑原の字より附會の既なるへし詳に神野々村の條下に靈異記に曰罵僧與三邪姪一得三惡病二而死緣第十一 聖武天皇御世紀伊國伊刀郡桑原之狹屋寺尼等發願於彼寺一僧法事請奈良右京藥師寺僧惠禪師寺曰依網依網ノ連故奉仕十一面觀音悔過時彼里有二、凶人

○小祠二社

入王子社 松原といふ山上に あり地清神といへり 八幡宮 社地周五十六間村中にあり

○西明寺

眞言宗古義名草郡中野島村明見寺末

村中にあり古は本寺なし明和年中明見寺末となる

○廢阿彌陀堂

村の隅山中にあり 礎石のこれり

大谷村

於保多爾

田畑高 六百四十四石六斗九升九合

家 數 九十一軒

人 數 四百四人

佐野村の東八町にあり元久の文書に高野山藏大谷とある是なり此地兩方山の尾崎突出たる中の地なれば大谷の名あり

○篠田明神社

境内周四百八十間

村の乾にあり社八あり社地廣く松樹茂密にして古祠と見ゆ祀神詳ならず今社地を信田山と稱し篠田明神を祭るといふ九重村にも信田神社あれば和泉國信田神を祭れるなるへし和泉國信田神社は延喜式神名帳に和泉郡聖神和泉國神名帳に信太聖神社と見たり祀神は古事記に大年神張三神清須地神之女伊弉比武生子

姓、文、忌寸也字云上田ノ天骨邪見不信三寶ノ凶人之妻

有上ノ毛野公大翁之女一日一夜受入齋戒ヲ參テ行悔過居

於衆中ニ夫從外歸家而見無妻問家人答曰參行悔過之

悔過嗔怒即往喚妻導師見之宣義教化不信受曰

爲無用諸汝婚吾妻頭可所附破斯下法師矣惡曰多

言其不得逃之喚妻歸家即犯其妻卒爾閉着蟻蟻

痛死雖不加刑而發惡心濫罵令恥恥不恐邪姪之故

得現報也口生百舌雖萬言白慎莫誹僧候災

故也

○加持水

字松山垣内と呼ぶ處にあり清冷の水出つ山伏の行所なり

廣浦村

比古字羅

田畑高 百十石六斗

家 數 二十二軒

人 數 八十八人

佐野村の北八町にありて四郷莊に隣れり村の名義詳ならず舊は佐野の出村なりといふ

大藪村の神云々、大藪村の神あり、此神を祭れるなるへし、但し此神ならは一社にてあるべきを八社なるは後世他の神をも合せ祭れる歟

○小祠六

大宮明神社

村の乾にあり、祀神詳ならず、村中の氏神なり、左右に金剛界社、胎藏界社あり、按ずるに大宮は此社の類の名なるへし

草田明神社

社地周二十六間村の東にあり、草田某を祭るといふ、此宮しは村中小宮、左衛門といふ者支配せしと云

關明神社

村中にあり、古此處に關あり、因りて關の明神といふと云、おほつりなし

天神社

社地周五十二間村の長の山上にあり、祀神詳ならず

塞神 森

宿田山にあり、辨財天社に社なし

○元興寺

眞言宗古義京勸修寺末

村中にあり、寶曆二年までは慈尊院末なりといへり

○小堂四字

阿彌陀堂

村中にあり、境内に庵あり、元禄年中までは除地にて山の端にありしといふ

藥師堂

境内周七十八間、異沙門堂、北にあり、地蔵屋敷にあり

○草田山古城趾

村の長にあり、小高き丘の上にて、方六十間中に岩屋ありしといふ、今は田畑の側にあり、石を疊みて墳墓を作れり、即草田氏の墳ならむ、又村中草田明神は此人の勸請せし神なるへし

○丹生明神社 境内除地 慶勝寺の側にあり、社二社一社は五座一社は二座なり

○小祠三社 天神社 社地周四十二間 辨財天社 社地周四十二間 山之神森 社地除地以上三社 皆村の北にあり

○慶勝寺 眞言宗古義京勸修寺末 村の北にあり、本堂鐘樓堂あり

○小堂二字 觀音堂 村の長にあり 地蔵堂 村の北にあり

○經塚 的場谷の上により、來歴詳ならず

柏木村

迦志波岐

田畑高 四百五十三石二斗七升七合

紀伊嶺風土記 卷之四十四 伊都郡 宜省符莊 柏木村

新在家村

志雲伊都 大谷村枝郷

田畑高 百五十六石六斗九合

家 數 五十一軒 人 數 二百四十四人

本村の南にあり、往還の道を村堺とす、村中大川除に千間堤と云ふあり、南龍公の命を蒙りて築立たりといふ

○小堂一字

庚申堂 村の巽にあり

大藪村

於保也夫

田畑高 三百八石三升六合

家 數 四十軒 人 數 二百三十八人

大谷村の東四町にあり、村名應永年間の文書に見たり、高野古大なる藪ありしならむ

○伊勢兩宮 境内周五十間

家 數 七十一軒 人 數 三百五人

大藪村の北にあり、應永の文書に柏木村とも中柏木村東柏木村とも見たり、村居葛城の山足に在りて、東西三十町南北四町許南は大藪大谷佐野邊迄、西は廣浦に隣り、東は短野の小名廣野までに至れり、村名柏の木ありし地なるより起れるなるへし、村中中の段と云ふ處に灰の如き黒土の地あり、里人地土といふ水に逢へば、もろく日に乾けば石のごとしといふ是、萬貫などに見わたる地といふ土ならむ

○小祠五社

大梵天王社 社地周百十二間、西柏木にあり、鳥居の額に大梵天王とあり

抱拵神社 大梵天王の 小 社 村の長の側にあり、山にあり

小 社 三座、社地周四十四間、村の北にあり、相殿 四五町許山の上にあり

四社明神社 社地周百間、觀音寺の北山の絶頂にあり、森なし、丹生の神々祭れるなるへし

○寶藏寺 眞言宗古義京勸修寺末 村の長にあり、寶曆二年までは慈尊院末なり

○大師堂 寺の北にあり

○古城趾

坂道二町許小山なり、城趾の廣方二十間、今山林となる、土人は

岡某の城址なりといふ

○大瀧

村の乾瓦屋谷と云ふ所にあり土人大瀧と稱す高一間幅五尺といふ

丁野町村

智也字乃麻智 小名市原

田畑高 千二百六石四斗三升九合

家 數 四十九軒

人 數 六百三十六人

大敷村の東四町半にありて往還なり慶長檢地には丁、町とあり應永年間の文書に丁、町字尻江田と見ゆ高野 小名市原 本村の東にあり應永二年の文書に政所下方市原村と見ゆたり高野 後當村の小名とされるなるへし本村の東に穢多あり湯の森と云ふ

○小祠十三社

八王子社

若宮 醫王寺の相殿 側あり

辨財天社

社地周四十間小名市原にあり

八王子社三社

一は村中一は本村の丑方一は字中村にあり

若宮

和田寺の側あり

天神社

社地周五十六間上の芝生にあり

大將軍社

村北にあり

辨財天社二社

一は村中にあり一はおろく齋師の間の森にあり

塞神社

小名市原の北にあり

瓦秀倉二社

字上の平にあり一は雨師神といふ

廢牛頭天王社

村中にあり

○和田寺

眞言宗古義京勸修寺末

村の乾にあり本堂鐘樓堂等あり楠氏の由緒ありて和田を寺號とするにや

○醫王寺

稱磯山

境内周二百六十間

眞言宗古義京勸修寺末

開基詳ならず先年焼失して今假建なり持山後にありて方百間許古地と見ゆれども由緒詳ならず

○地藏寺

眞言宗古義京勸修寺末村中にあり

○小堂六宇

觀音堂二宇

一は村中にあり一は村の北にあり

藥師堂

村中にあり

阿彌陀堂二宇

一は村中にあり一は村の長上の平にあり

地藏堂

市原にあり

○廢阿彌陀堂

上の平にあり

檜の森

村の長にあり古は秀倉五輪等ありしよしにて村民尊仰す

○おりのうひ塚

本村の北にあり何人の塚なるか詳ならず

○舊家二家

地主 森田伊三郎

人 數 百十六人

丁野町村の巽四町にあり

○小祠三社

社地周四十間

村の巽にありて三社雙ひたり祀神詳ならず明暦年中勸請といふ

妙寺村

免字白

田畑高 九百一石四斗四升六合

家 數 二百三十三軒

人 數 七百二十七人

丁野町村の東五町にありて往還なり村二に分る北を本村とし南を新家垣内とす應永元年の文書に政所下方西伊摺里妙寺ともいふとあり 高野是に因るに當村古くは西飯降の内にて字妙寺とも云ひ後に別村とされるなるへし妙寺の名畠山記に高坊右近衛尉義貞名倉妙慈を所領すと見たり妙寺の義詳ならず相傳ふ大師の伯母妙法比丘尼此處に居す因りて名つくといふ然れども大師の伯母に妙法と云ふ者なし高野領長谷ノ莊宮邸阿彌陀寺の鐘銘に曰高野山延壽院奉入鐘

新田村

志雲傳雲 丁野町村杖郷

田畑高 百三十五石七升

家 數 二十五軒

○地 士

松本彌三右衛門

一口爲僧淨聖庵源時房尼妙法口法界衆生、也安元二年勸進入唐三度僧重源願主尼大學と見たる妙法尼の事を謬り傳へたるなるへし今妙法院遍昭寺といふあり或は鐘、銘にいふ妙法尼の由緒より出たる院號にて村名もこれより轉し訛れるか○村中に流れ井戸といふ井あり弘法の加持水といひ傳ふ

○小祠五社

熊野權現社 相殿 社地周十四間 村中にあり

八幡宮 社地周十四間 村中にあり

大 神 宮 新家の東の

八幡宮 社地周四町村の北にあり

○遍照寺 妙法院 眞言宗古義京勸修寺末

村中にあり本堂大師堂大日堂等あり院號の事村名の條に出たり

○地藏堂 境内周八間八幡 森の下にあり

○家 家 地士 池田又次郎

家傳にいふ池田信輝の臣秋田玄左衛門忠世と云ふ天文五年奉州尾崎に戦死す其子忠香池田家の女を賜はりて池田と改

はいふ村中上手垣内に大師の加持水とて清冷の水涌く處ありて村中觀音寺の縁起に舊村名を水金村といふ後轉訛してみしかのとなれりと見たり里人及他村にても水金村と多く唱ふ里人つたへて小名廣野は舊の本郷なりといふ

○醫王薄伽大明神社 境内周二百四十間

小名廣野にあり本地薬師といふ薄伽は佛語なり末社春日明神社あり本村の中に當社の舊地あり 社地周八間

○小祠九社

辨財天社 社地周四十間 寺の南にあり

大將軍社 社地周三十二間 村の長にあり

八王子社 寺の東

天神社 社地周六十間 寺の東にあり

秀倉一社 社地周二十間 寺の北にあり

八幡宮 社地周八十間 上手垣内にあり

不動明王森 社地周三十二間 村の北にあり

牛神社 社地周四十間 大將軍の南にあり

大日如來森 社地周十二間 寺の西にあり

○觀音寺 眞言宗古義京勸修寺末社の南にあり

○地藏堂 上手垣内にあり

中飯降村

奈通伊夫利 小名 高岸皮田

田畑高 五百六十九石四斗六升二合

紀伊續風土記 卷之四十四 伊都郡 官省符莊 中飯降村

ひ其子忠勝浪人して元和中尾州名古屋にて死す其長子武左衛門寛永中當地に來り代々當村に住す

○地士三人 下村孫次郎 梅村喜八郎 鈴木兵右衛門

○孝子 村民傳四郎といふもの母に事へて孝を盡す寛政三年金若干を賜ひて褒賞す

短野村

美自樂能 小名 廣野

田畑高 四百六十六石一升四合

家 數 六十一軒

人 數 二百五人

丁野町村の北にあり短野の名應永の文書に著はる 高野村に垣内三あり山の半腹なるを上手垣内と云ひ稍下なるを下手垣内といふ南に向ひて井手谷といふ谷を出れば小名廣野垣内なり南は西飯降と相接す井手廣野の名應永二年の文書に見たり 高野短野の名詳ならず慶長檢地には端野とあり或

家 數 百十九軒
人 數 四百四十三人

妙寺村の長八町にありて往還なり村中酒戸多く富衆の者あり本村に接して字谷垣内といふあり聖村といふ和名抄古の郷名に指理郷あり元久以下の古文書に指里と書す 高野村は 揖と同字揖の古體にて古寫本に多く見たり揖を伊布の假字に用ひたる例は和名鈔薩摩國郡名指須 以夫 とあり郷廢して後其名東飯降中飯降西飯降の三村となり東飯降廢して田地の字となる 中飯降の長に當りて大將軍ノ祠あり伊夫里は 械入の義なるへし 械は堤の水を通する具にして所謂堰なりいひりを約 今の俗是をいり又ゆり又わふりともいふ皆伊夫里の轉訛なり 源光行、海道記に何々のいりやいふ所此地紀ノ川を堰きて田 蘭に灌ぐに處々に械を入れて水を蓄ふ今村中にも一のゆり二のゆり等あり郷名是に因りて起れるなるへし 名草郡貫志莊 合せ考 村領に皮田あり高岸皮田といふ 土入村の條下

○丹生四所明神社 境内周二十間

村の北にあり勸請の時代詳ならず本社四社 礎前大 小あり及末社山、神社並に護摩壇あり 土入祀神を誤りて大 神宮等とす今取らず

○小祠七社

牛頭天王社 社地周五間村の北の山根にあり 天神社 社地周四十八間村中にあり
 八王子社 社地周二十八間村の北にあり 八幡宮 社地周五間村の北にあり
 大將軍社 社地周六間村の北にあり 辨財天二社 社地一は周十四間一は周九間共に村中にあり
 ○東光寺 有乳山 眞言宗古義京勸修寺末
 村中にあり本堂鐘樓堂經藏等あり

○小堂二字

觀音堂 境内周四十二間村中にあり

阿彌陀堂 境内周二十四間村中にあり

○古城跡

城山といふにあり高十五間東西四十間南北六十間東西西北三方に幅四間の堀あり土人傳へて田所氏の城といふ畠山記に田所莊左衛門尉國景は田所式部丞光意玄孫左京進信意孫又太郎國意一男中假降處知と見たる是なり

○舊家二家

地士 木下 藤右衛門
 同 木下 伊右衛門

其家傳へいふ姓藤原にて木下龜千代英直の後なり村中丹生明神本座出席の者にして明和四年地士となる

○地士

岡村平兵衛

西飯降村

爾志伊夫利

田畑高 三百三十三石四斗九升九合

家數 二十四軒

人數 百三十八人

妙寺村の北六町四十間にありて短野に隣れり

○丹生四所明神社 境内周二百四十間

本社四社 各方三尺四寸

攝社 八幡大神 相殿 九尺五寸
 春日明神 四尺五寸

村の乾寺坂山の内にあり慈尊院村の丹生明神を勸請すといふ

○小祠三社

辨財天社 社地周八間村の乾にあり 八幡宮 社地周三十間村の北にあり

八幡宮 社地周五十四間村の北にあり 眞言宗古義京勸修寺末

觀音菩薩の背面に掛籠籠池敷奇之靈所子し時正徳二年八月日三井氏源高重より高綱が乘りたる名馬生月を馬頭觀音と祭れり云々按ずるに東鑑建仁三年の記に佐々木四郎左衛門高綱入道自三高野一來綱三舎兄等と見たり高野往來の時なごの事には其由緒ありし事なるべし

○藥師寺 眞言宗古義京勸修寺末

村中にあり當寺は天正の兵亂に燒失し同十二年安藝國住人慶春坊再建すといへり

○觀音堂

境内除地

○廢觀音堂

大野村

於保能

田畑高 七百六十八石四斗九升一合

家數 百軒

人數 五百九十一人

中假降村の寅の方十四町餘にありて往還なり村居は寺領慈尊院村と川を隔て南北に相對す大野の名應永年間の文書に見ゆ山藏 廣野の義にして地形に因りて名つくるなり

○産土神社

境内森山除地

村中にあり辨財天を祭る末社三社あり

○住吉大明神社 村の北切馬山といふにあり其のうちに牛塚といふあり下にいふ

○大日寺 天女山 眞言宗古義京勸修寺末

村の北垣内にあり庭中に古松あり什物に龜石といふものあり大・三寸に四寸龜甲の形彫刻するか如くにして腹の處常

の石質ありて黒し其餘は風色なり龜文甚鮮にして腹下最自然の休を具ふ實に奇物なり疑らくは化石ならん手足首はなべて藏六の形なり

○藥師寺 眞言宗古義名草郡中野島村明見寺末

村の北上の堂山にあり本堂釣鐘堂等あり

○小堂三字

觀音堂 村の北にあり 大日堂

藥師堂 村の北にあり

○車瀬

村の南名倉川紀ノ川の落合を車瀬といふ傳へいふ昔 嵯峨天皇高野 行幸の時高野に行幸し給ふは宇多帝にて嵯峨邊に 御車を留め給へるより號くそ村の北に住古の森ありて森の内牛塚あり其時の御車の牛阻しにより其地に埋むといふ

○地士 西山 茶 助

其家傳へいふ鎮西八郎爲朝の男鎮西藏人左衛門佐滿隆の後なり滿隆伊豆より讃岐に移り其後熊野新宮に住し後那賀郡丹生谷の城に在城す夫より善女山の下高門の城を築き文治二年十二月入城す三代目を鎮西大學滿義といふ文治三

年三上、莊大野郷稻村に城を築き同七年大野城に移り高門城は第外記に守らしむ滿義の後胤大野佐滿家永享十二年氏を西山と改む其義鎮西と母方の高山の氏とを二つ合せしなり滿家より三代を西山大野滿友と云ふ延徳二年高野合戦の時戦死して大野落城す其子主殿滿勝所領に放れ大野土井に蟄居す其子を西山左衛門尉勝吉といふ當時の守護桑山重春より二百石つゝ合力あり其後淺野家よりも百石つゝ合力すといふ元和後地士となり代々當村に住す

大畑村

於保波多 小名 推平

田畑高 二百二十五石六升八合
家 數 三十五軒
人 數 百三十一人

短野村の長二十七町餘にあり村居葛城嶺の八合の處にありて上下に散在す北の方河州瀧畑村と峯を堺す瀧畑村に越ゆる所を藏王峠といふ瀧より峠まで登り一里許なりより河州瀧畑村へ二里なり大畑の名應永三年の文書に出つ高野山藏名義は幡掛松の條下に見ゆ

空海しるへの故事を傳へいへり按するに此地は葛城の山上にて役行者の事蹟は多かるべし空海の事ないふは後世の傳會なり

○津田氏城址

村の北葛城の峯筋山の頂に方六十間許の地あり坂道四十町許城主津田氏の傳詳ならず按するに那賀郡小倉ノ領主津田監物といふあり其人の岩なりし

○舊家

守 安 氏

其家傳へいふ役行者葛城を踏分けし時此家に止宿し法花經一部を書す其後子孫連綿として血脈相續し今に至りても聖護院入峯の時は止宿せらるる行者眞筆の經ありしか今傳はらず此經天授年間までは二卷傳へたるよしにて寛文記に紛失狀を載す其狀左の如し今は此狀も此家に傳はらず又庭に硯の井といふあり行者經を書きし時此水を汲めりといふ

立 申 紛失狀事

右件紛失狀之子細者守安 役行者の御眞筆の法花經一部を相傳して家内にあかめ奉る依之名字を守安とかうすると云云彼恩賞には常州伊都郡之津斷をさるへしと社へ御油の代を奏進する事于今無斷絶ニ雖然與州當國入部の折ふし依レ有亂政ニ彼御經六卷并重書等方失畢のこる所の御經四ノ卷七ノ卷有之行者以來の御置文のたしかなる事世の人

紀伊嶺風土記 卷之四十四 伊都郡 官省符莊 竹尾村

○藏王權現社 境内周十四町

藏王峠にあり森廣くして社は小祠なり雜樹繁茂し甚物凄し森の中に蛇穴といふあり今里人神を蛇王權現と云ひ峠を蛇尾峠と呼ぶは皆藏王の稱より轉して蛇穴のあるによりて誤りしなり

○小祠六社

丹生四所明神社 社地周六町藏王森の東にあり 若 宮 社地周三十間村の北にあり
葛城明神社 社地周二十間村の西にあり 荒神社 社地周三十二間村の東にあり
辨 財 天 社 社地周百六十間末社に村の西にあり 辨財天社 社地除地村の長にあり

○勝樂寺 眞言宗古義京勸修寺末

村中にあり本堂僧坊等あり

○行者堂

勝樂寺境内にあり山伏の行所なり笈掛石護摩壇龍燈松等あり此外村中に斧磨石三ツ井などいふあり皆役行者の故事をいひ傳ふ

○幡掛松

字砥石畑の上しるへにあり傳へいふ昔空海此地に來りしに旛此樹に掛るといふ高野領兄居村の條に詳なり幡掛松は高野領兄居村に恐らくは此地の傳ふる所は恐な懸石船井、清水御鉢などいふありてらん兄居村の條を併せ考ふべし

皆以しるところなり依之爲後代之子孫ニ加ニ連判ニ依紛失之狀如レ傳

天授六年庚申十二月十三日

同行 權律師聖祐判 同行 阿闍梨實海判

金剛峯寺先達法印權大僧都行成判

竹尾村

多計造

田畑高 百十五石九斗五升八合
家 數 十六軒
人 數 七十六人

大畑村の東方八町下大畑と相連なりて山の腹にあり應永年間の文書高野山藏に竹の尾と見ゆたり

○小祠七社

一言主神社 方四尺 社地除地北の五寸 境内にあり 若 宮 社地除地一言主、社の東にあり
八幡宮二社 社地除地村の西と坤にあり 小 社 社地除地北の山の上しるへにあり
大將軍社 社地除地村の東にあり 申、神社 社地除地村の坤にあり

○西明寺

眞言宗古義京勸修寺末村中にあり

嵯峨谷村

佐雅多留 小名西川

田畑高 百七十七石八斗六升八合

家 數 五十一軒

人 數 百九十三人

竹尾村の東九町にあり嵯峨は山城葛野郡の嵯峨と同しく谷の形状を以て名とす慶長檢地に佐我谷と書す寛文記に嵯峨天

○小祠五社

若宮八幡宮二社

社地周十七間山の上一あり一村の産土神なり

辨財天社

社地周十二間村の南山の上にあり

大將軍社

社地周十間村の西にあり

大將軍社

社地周八間北垣内にあり

○觀音寺

補陀落山

眞言宗古義京勸修寺末村中にあり觀音堂經藏等あり

○清水瀧

村より北の方溪に從ひて入る事十町計にあり高十間餘源は葛城の嶺の半腹より起る近年山崩れ瀧壺埋れて觀を損したれども瀧は奇なり

下中村

志毛奈地

田畑高 二百四十五石五斗八升七合

家 數 四十五軒

人 數 百七十六人

大野村の北二十一町餘にあり莊の中央にある故に中村とい

ひ後上下と分れて下中上中といふ應永二年の文書高野には

中村とのみ見ゆたり土人多くは當村を中村とのみいふ

○小祠四社

八幡宮

共ニ德瀧寺の側にあり

大將軍社

共ニ村領にあり以至上番社地除地なり

○德瀧寺

眞言宗古義京勸修寺末村の乾にあり

○不動堂

廢地廢堂

村の南にあり

上中村

迎美地奈

田畑高 三百石一斗八升六合

家 數 四十三軒

人 數 百五十六人

下中村の東北の方六町餘にあり

○小祠三社

入王子社

社地除地弘法寺の側にあり

大將軍社

社地除地村の巽にあり

辨財天社

社地周百四十間村の北山上にあり

紀伊嶺風土記 卷之四十四 伊都郡 官省符莊 上中村 名倉村

名倉村

奈具良

田畑高 六百十九石三斗六升二合

家 數 二百七十七軒

人 數 八百五十二人

大野村の東六町餘にあり往還なり村名古は長柄といふ承三年宇治關白頼通公高野に寄附せらるゝ數村の中長柄とある是なり後訛りて名倉と云ふ又應永二年の文書には名藏と書きたり高野又慶長檢地にも同し其義詳ならず村中に市場といふ垣内ありて今に市をなせり畠山記に高坊太郎兵衛尉義員妙慈名倉を領すといふ是高野領を支配せしなり

○小祠三社

若宮八幡宮

六尺 社地除地西脇五尺 寺の側にあり

辨財天社

社地除地廢寺の巽にあり

○西福寺

眞言宗古義京勸修寺末

村の北にあり境内に五輪の石塔の大なるあり正平十一年午三月十五日光明眞言一結衆等の字を彫む字体甚明なり

○地藏寺 眞言宗古義京勸修寺末村の北にあり

○三覺寺 巖山 眞言宗古義京勸修寺末

村の北にあり本堂庚申堂觀音堂開慶堂あり

○阿彌陀堂 村の四

○道ノ玉石

村の南二町許道の側にあり長七尺五寸横一尺五寸横にふしたり石色青し土俗傳へいふ古 嵯峨天皇（これ）宇多高野行幸の時此石上に立せ給ひし石故上に王の字を彫たりといふ此石に登る者あれば忽瘧疾を病むとて人怖れて近づく者なし

○御前芝 東西九間 南北四十三間

村の乾二町許にあり續日本紀 稱徳天皇天平神護元年

行幸紀伊國二進到伊都郡二とある時の頓宮の趾かともおも

へと此邊 宇多帝の舊跡多ければ 宇多帝御車を駐り給ひ

し地なるへしともおもはる

○舊家

高野領四莊官の一なり今に至るまで高野より米四石を與ふ

龜岡幸之進

舊記等ありしに高野御影堂に藏めしといふ

北名古曾村

幾多奈良須

田畑高 二百八十四石七斗八升

家 數 三十三軒

人 數 二百四十七人

名倉村の長六町三十間にあり舊南名古曾と一村なり應永の文書に那古曾と書す高野或は名久須又名楠とも書さし物あり村民も多く那具須といふ何れか是ならん詳ならず村の北に皮田あり

○住吉大明神社

境内周五十八間

天照皇大神 春日大明神 相殿

末社 辨財天 財天

村の北にあり境内に古木多く舊社と見たり

○瀧井寺 不老山 眞言宗古義京勸修寺末

村の西にあり本堂藥師堂あり葛城先達の行所なり

○護摩堂

北名古曾村の南四町餘にあり小名ト之段といふあり

○小祠二社

衣比須社 大神宮出雲大社相殿社地 除地與通寺の側にあり

八幡宮 社地除地郡卒院の側にあり

○典通寺 眞言宗古義京勸修寺末村の乾にあり

○阿彌陀寺 眞言宗古義京勸修寺末村の乾にあり

○都卒院 常照山 眞言宗古義京勸修寺末

村中にあり傳へいふ 三條院の御宇長和三年持經上人の開

基なりといふ

○宅地三箇所

村の乾にあるを高尾といふ人の屋敷地といふ東四五十間 南北四十間其

に小田氏の屋敷地あり共に其傳詳ならず又村中に隅田一族

堀坂氏の舊地あり方三十間許

○瀧の井戸

村の乾五町許にあり清水沸突せり里人用水とし其餘も田五

十石許の地を養ふといふ

南名古曾村

幾多奈良須 小名ト之段

田畑高 七百八石三斗九升七合

家 數 八十一軒

人 數 三百三十八人

小田村

遠味

田畑高 五百八十五石三升六合

家 數 百二十九軒
人 數 五百二十五人

南名古曾村の南四町餘にあり延喜式に小田神社と見られたれは尤古名なり又應永の文書にも小田村あり山崎名義名の如し

○小田神社

境内周二町

延喜式神名帳伊都郡小田神社

本國神名帳伊都郡從五位上小田神

村中にあり郡中丹生神社を除きては式内の神は當社のみなれば上古は大社にして朝野共に尊敬深かりけんに數度の兵亂を経て社地衰廢し祠も廢絶せしを 南龍公歎かせ給ひて境内に石の寶殿を建させ給ひ小田神社の字を刻ましめ給ふ森の廣さも古は境内方四町もありし由なれども今は周二町許なり此邊田地の字に神田といふもあれば古は神領も多かりしなるへし小田は地名にして祭神詳ならず或はいふ舊事記には小田ノ邊等カ職あり是によるに當社の小田は姓にて小田ノ邊此地に居り其祖物部建彦連公を祭りしより小田社といふ

○小祠三社

大神 宮

八幡宮春日明神相殿 極樂寺の側

稻荷社

村中にあり

牛頭天王社

清涼寺の側

真言宗古義京勸修寺末

傳法院

○極樂寺

金龍山

真言宗古義京勸修寺末

○早苗降明神森

境内周四十間

村中にあり一村の氏神なり境内大樹多し中央樺の大樹あり是を神の在す處として祠はなし古は神田も三段ありしに豊太閤南征の時停められたりといふ神名早苗降は早苗守の轉訛にして稻穀の守護神なり 詳に名草部和佐莊 實盛塚の條に見ゆ

○小祠二社

辨財天社

方五 村の東

八幡宮

村中にあり

○圓通寺

真言宗古義京勸修寺末

○横庵寺

真言宗古義京勸修寺末村中西の方にあり

○阿彌陀堂

除地村の西にあり

○御座石

村の西にありて地中に埋れたり傳へいふ古丹生明神弘法大師佛師能光と此石に腰を掛けて休み給ひし所といふ今阿彌陀一鉢あり按するに村名丹生郷といふをも合せ見るに丹生明神處々へ御遷座の時の故事に弘法大師佛師等の事を附會せしにて此は丹生ノ告門に伊都郡町梨の御門代十四圖一ノ里同三ノ坪 御川作給天とある地ならむ 町梨の名今傳はらず詳ならずされ其八段 長柄村の内に拾肆圖二ノ里坪三ノ段といふこと見ゆたれば此上の里なり長柄村は今の名有村にて此村より當村は川を隔て、南十一町餘にあれば町

村中にあり境内に阿彌陀堂あり

○安養寺

真言宗古義京勸修寺末村中にあり

○清涼寺

嵯峨山 吉野院

真言宗古義京仁和寺末

村中にあり傳へいふ 嵯峨帝これも宇多高野 御幸の時大師と共に樂師の像を作り給へる寺なり昔は七堂伽藍にて寺中も十二坊ありしに燒失して堂許残りたりといふ今も寺の東方に嵯峨の段と呼ぶ地あり

○小田堰

事は郡中山川の部に載す

入郷村

爾布賀字

田知高 二百七十五石五斗五升二合
家 數 七十五軒
人 數 二百九十七人

名倉村の坤十一町餘紀川の南涯にありて寺領慈尊院九度山兩村の間にはさまる村名古は丹生郷と書けりといひ傳ふ慈尊院の丹生明神の氏下の本村なれば丹生郷と云ふなるへし應永二年の文書山崎には丹生河村と書す

程當村にて合へるに腰掛石の里傳をも思ひ合すへし

○舊家

岡 佐 仲

高野四莊官の一なり高野學侶方より年々高二十四石を與ふ

○地士

守 安 禎 助

淨土寺村

白也字淨口

田知高 二百十六石二斗四升一合
家 數 二十九軒
人 數 百三十三人

北名古曾村の長十町餘にあり往還を隔て、相對す舊は伏原と一村なりしに慶長後別に分かる淨土寺の名詳ならず村中に蓮花寺あり淨土寺は廢寺か又は蓮花寺の舊名か今傳ふる所なし此村巫村なる故他村より賤しめて婚をなさす又産所村ともいふ 産所村の事詳に那賀郡山崎莊山村の條下に見ゆ

○蓮花寺

真言宗古義京勸修寺末村の北にあり

○引野池

村の乾にあり應其上人の作る所といふ此水淨土寺北名古曾南名古曾小田伏原の五村へ懸りて高千七百石餘を養ふ又此

下に新池といふもあり掛り高大抵同し

端場村

波瀲 皮母

田畑高 三百八十八石四斗八升六合
家 數 百三十三軒
人 數 五百九十九人

浄土寺村の巽五町許にありて皮田村なり端場の名義詳ならず

○大光寺

浄土真宗西派攝州富田本願寺末村中

○蓮香寺

浄土真宗東派和州箸尾教行寺末村中

伏原村

布之波良

田畑高 六百七十石一斗四升六合
家 數 百二軒
人 數 四百五十七人

浄土寺村の南十町餘にあり應永年中の文書高野に不死原とあり按するにふしはふし柴のふしにて柴原の義なり其地古

○観音寺 眞言宗古義京勸修寺末

村中により古筆の大般若經六百巻を藏ひ文治四年或は元久二年校正せし殿文三三巻宛隔て、祀しあり昔林し一様ならず校正後文治四年或は元久二年宛り書は南都東大寺に在し轉し來れりいふ 文治元久頃の書寫にて六百巻全備したるは奇寶といふへし

○三重塔廢趾

村の坤田地の側に小林あり林中に大塔の礎石存せり其形那賀郡國分寺の廢趾塔の芝にあるものと同し土人傳へて観音寺古伽藍の跡とも大門の跡ともいひ或は此邊の田地にサヤ寺屋敷といふ字あれば古の狭屋寺の境内かともいふ狭屋寺の跡に辨す 其説皆明證なし今大塔の礎石存するを見るに日本後記に延暦二十四年五月遣傳燈法師聽福於紀伊國伊都郡立三三重塔爲三聖躬平護也とある塔の趾ならん相賀莊出塔の廢趾といふ所あり其事借用したし詳に出塔村の條に辨す 村の北道光寺の壇といふ地あり山の崩れし時古墳あらはれし事もありしといふ又相賀莊山田村大聖不退寺に古作の二玉あり行基の作といふ 古老傳へて舊神野々村古伽藍の地にありしといふ此等に因るに此地古大伽藍の地なりしにより側に三重塔をも建しならむ

○御幸道

村の東岸上村との界にあり里人傳へて 宇多帝高野山 御

荒野にて柴原なりしを開發せし故に此名あり
○観音寺 眞言宗古義京勸修寺末村の西にあり

神野々村

加字乃々

田畑高 七百八十三石二斗三升三合
家 數 五十四軒
人 數 百九十八人

浄土寺村の東九町餘にあり往還の街道なり古は紺野村と書す高野山麓の所の正平中の文書に紺野とあり又應長檢地にはしめて承文書に政所紺野村區懸院承任供見たり慶長檢地にはしめて神野と書す名義詳ならず當村の産物に鎌砥を出す村の長に小名極樂庵といふ地あり聖村にて熈坊四軒あり出塔松原市脇浄土寺野村神野六箇村の墓所なり

○小祠七社

荒神社 二間 社地周八十間 八幡宮 社地除地村
住吉社 社地除地村の東にあり住吉の伏拜と云ふ
大將軍社 社地除地村の北にあり古村の遺跡なるへし
大將軍社 村中にあり地土森田氏 王子権現社 社地周八十四間村の長にありて王子の孫といふ此所の事猶未にしてす

幸の時の道といひて紀伊見時より名倉村に通る往還なり此道に經地蔵と云ふ石佛あり

○古戰場

村の長にありて王子森といふ芝あり相傳ふ信長公高野責の時高野方と生地新左衛門と此所にて合戦ありし地とぞ

吉原村

興志波良

田畑高 四百二十三石三斗三合
家 數 九十二軒
人 數 三百九十八人

浄土寺村の北二十八町許にあり吉原の名應永の文書高野に著る

○小祠六社

辨財天社 社地除地野賢寺にあり
塞神社 社地除地
十六善神社 社地除地 金毘羅社 社地除地大神宮辨財天相殿共に野賢寺の側にあり
○普賢寺 龜尾山 眞言宗古義京勸修寺末
村の北にあり観音堂經藏等あり

○不動堂 鏡宿 雨蓋
 村領葛城の峯の森の中にあつて葛城先達の行所なり百年許前までは峯の祠中に鏡を以て神躰とせし故其地を鏡宿といふ後其鏡を山田村のもの取りて堂山に埋みたりといふ今鎮守一社あり鏡非といひて井の形に凹たる處あり雨蓋といひて雨乞をなす所なり

○地主二人 松岡 右近 松岡 織江

山田村

耶麻取

田畑高 四百二十六石九斗八升五合
 家 數 九十八軒
 人 數 四百七十五人

吉原村の長六町餘にあつて葛城の山足に村居して東南は相賀、莊出塔村に隣る山田村主の名元久元年の文書に著る山野村主は古の郷名なり詳に下條に辨す

○葛城明神社

境内森周六十四間

辨八幡宮相殿 辨財天相殿

村中にある山田吉原二村の氏神なり

○小祠四社

八王子社 村の北にあり

山神社 社地除地

小 社 社地除地二社共に村中にあり

白山権現森 不退寺の裏にあり祠も鏡宿ありて里人敬崇す

○大聖不退寺 葛城山 眞言宗古義京仁和寺末

村中にある本堂僧坊二王門經藏等あり

○大師堂 除地村中にあり

○廢不動堂 除地村中にあり

○嶽ヶ鼻

村の北の方河州加賀田村へ越ゆる山路にあり奇巖なり

○古戰場

村中北谷といふ所なり土俗いふ天正年間に高野衆徒と松山新助と合戦ありて松山勢敗せり松山新助は備中國松山の城主松山丹後守次男にて畠山紀伊守に仕へ河内國にて三萬石を領し後新入と改めたる人とぞ

○村主郷

郡中古の郷名に村主あり村主は舊職名にて後其名今傳らす按ずるに其地は加美郷揖理郷の間にありて大抵今の上官省符莊

の地なりしならむ高野山藏むる所の元久元年の日前宮造宮役免除狀に保元年中造内裏時山田村主兩莊事云々の文あり郷廢して後當村の近郷に其名残りし事知るへし

廣野村

北畠能

山田村 吉原村 新田

田畑高 百十三石七斗三升
 家 數 各本村に籠る
 人 數 同

吉原村の東にあり

○辨財天社 社地周四十四間村中にあり

田原村

多波良

田畑高 三百五十七石一升八合
 家 數 五十一軒
 人 數 二百九人

北名古曾村の北二十五町餘にあり乾の方九重村に隣る田原の名應永四年の文書に著る高野村名解をまたす村中より鎌

紀伊雜風土記 卷之四十四 伊都郡 官省符莊 廣野村 田原村 九重村

を瀧く砥石を産す

○小祠五社

八王子森 社地除地村の北にあり

反之森 村の北にあり一本杉ありゆへに杉の森といふ

辨財天森 社地除地村の北にあり

丹生明神社 社地除地末社に伊勢春日相殿の社あり

慈尊院七社明神社 村の坤にあり末社に宮守明神社あり

○醫龍寺 稻塚山 眞言宗古義京勸修寺末

村の東にあり文祿二年の棟札に弘法大師建立の地にて本尊薬師も大師の作といふ事を記せり然とも本尊今は焼失せり鐘樓堂經藏等あり

九重村

久連字

田畑高 三百三十二石四斗七升二合
 家 數 四十二軒
 人 數 二百三十人

上中村の長十五町にあり古此地は九重の塔ありしに今廢して其礎の残れる地森になりて村の北にあり本尊大日の像は今妙興寺の釋迦堂にあり村名此より起る

○信田明神社 境内除地

本社五社 各五尺
各七尺

末社六社

村の南にあり上下中村田原九重四箇村の氏神なり五社を四箇村より分ちて支配す祀神は泉州信田森より勧請すといひ傳ふ或は傳ふ第一社天津彦火瓊杵命第二社天照大日靈貴第三社速日命第四社木花開耶麻命第五社勢長麻命といへり然れども是近年いひ出たる説にて従ひ里人當社を土龍封しの神と云ひ傳へて氏下四箇村には土龍絶つて無し因りて土龍封しの符を別當寺より出す境内に楠の大樹あり圍三丈餘輪圍陰離たり社地の古き事知るへし

別當 神宮寺 眞言宗古義京勸修寺末

宮の側にあり小堂ありて僧坊は廢すといふ堂付の高臺石四斗あり

○小祠七社

辨財天社 社地除地村中にあり 小 社

嵯峨天皇社 村の南嵯峨段といふ所にあり 嵯峨帝此地に 行幸ありしといふ説によりて後人社をも建てしなるへし 詳に嵯峨谷村の條下に見ゆ

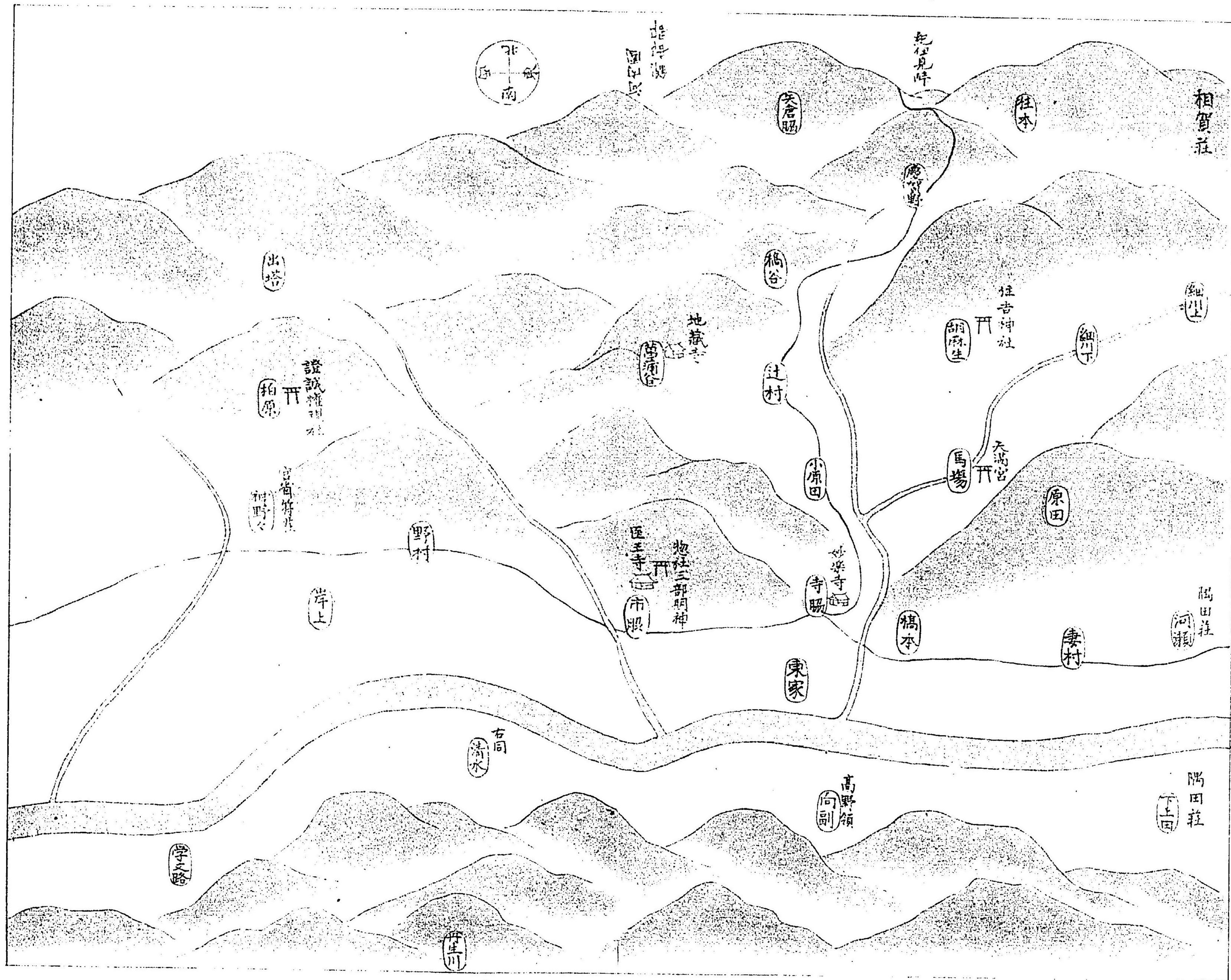
○辨財天四社 社地除地村の南信田の祠前に溪水を隔て、あり土人四辨財の社といふ世俗に江ノ島竹生島殿島天の川是を四辨天

といへば其神を祭れるなるへし

○妙興寺

眞言宗古義派の寺なり村中にあり

○六地藏 村中にあり



紀伊續風土記卷之四十五

伊都郡第四

相賀莊 安布稚 總三十二箇村

相賀莊總て三十二箇村東西一里餘南北三里餘東は隅田莊と
堺し西は官省符莊に接し南は丹生川に至り高野領三尾川北
又の二郷に界し北は河内國錦部郡に界す當莊は古の賀美郷
の内にして萬葉集に大我オホキとある則此地なり中古以來相賀と
書す大我相賀音近きを以て轉したるなり 市脇東家寺跡三箇村の
田地に相賀産といふ字
わ甘露寺親長郷記に合賀宿とあるも此地なり其名義詳なら
ず此邊の諸莊往古坂上氏の山緒なれば此莊も其管内なりし
ならん 烏羽上皇紀伊國七箇莊を根來寺に賜ふ時此莊を以
て其一とす其後谷内郷は 古佐田東家より北柱本
に至るを谷内郷といふ 性川氏の領とな
りて夫より南は恩地氏の領となる俱に楠氏と婚を結び其旅
下に届して 南朝に奉仕す天正の項に至りて性川氏豊太閤
の爲に亡さるといふ當莊は浪華及泉州堺よりの高野街道に
して紀伊見峠東家學文路等の地旅舍多く橋本町は河上の諸
村運漕輻輳の地なれば郡中の都會にして最繁昌なり

紀伊續風土記 卷之四十五 伊都郡 相賀莊 柏原村

○大我野

東家村の坤陀羅尼寺の前の曠野にて東家寺脇市脇邊の惣名
なり今相賀臺といふ是其地なり宗祇の國分は大我野は美濃
にありとするは誤なる事下に載する歌の端書にてもしるへ
し

萬葉集

大寶元年辛丑 太上天皇大行天皇幸于紀伊國時歌

トノニハキコモモクワカマカノアノカサシキホリセト
山跡庭間往歎大我野之竹葉薊敷慮爲有跡者

柏原村

加志波波良

田畑高 三百二十四石六斗四升二合

家數 三十九軒

人數 二百二十五人

官省符莊神野々村の長十三町餘にあり村名は柏木村と同義
なるへし

○證誠權現社 境内除地

本社 社八 末社子日權現

村の巽にあり村中に傳ふ所の古文書正平年中當社寄附狀數

通また建武年中別當西光寺に田地を寄附する状ありまた生地相摸守の寄附の鏡あり 形圖にして正而に梵字あり背而紋なし耳ありて懸くへし大八九寸許大抵三百年物なり

別當 西光寺 馬場村神宮寺末

○小祠四社

三輪明神社 村の西にあり 拜殿あり 塞 神 村端にあり 石を祭る
辨財天社 村の西にあり 生垣相摸守 村の北の守木尊なりしといふ 稻荷社 村の北にあり

○古道

村中に大道といふ字あり又神野々村東界に御幸道あり紀伊見峠より菖蒲谷を経て慈尊院村へ通する高野往還の古道なり

出塔村

傳多布

田畑高 二百十石一斗一升四合
家 數 三十九軒
人 數 百九十九人

柏原村の北五町許にあり出塔は出岬といふか如く此地に突出たる山の形によりていふなるへし 塔はたわの傳にて山のたわみ

○徳明寺

淨土真宗東派和州籠尾教行寺末

野村

乃

田畑高 三百七十九石二斗八升六合
家 數 百二十七軒
人 數 三百九十人

岸上村の長四町半餘にあり地平行にして南方紀川に臨みて懸崖高さ二十間許懸岸の下清泉涌き出て潺々たり土人呼て瀧井といふ當村は井甚深く六七間にして水を得る故に一村の中に井は纔に三つありといふ村中陰陽師ありて那賀郡山崎莊白草村の如し故に他村より婿を通せず

○小祠五社

金尾羅社 蓮華寺山にあり 大神宮 壽命寺の傍にあり 社地周十四間
櫻木明神社 衣比須社 並に壽命寺の境内にあり衣比須は舊市場にありしに後世市廢して社を今の所に移す

角神 社村の東隅にあり給鹿の森といふ古生地新左衛門の氏神に祭り錢を奉る
壽命寺 總本山 不動院 眞言宗古義市脇村觀音寺末

○小祠六社

八王子社 四尺三寸 二尺四寸 疱瘡神社 塞神社二
牛頭天王社 辨財天社 以上皆村中 除地にあり

○五重石塔

村の北入口辨財天森の端にあり高さ六尺五寸横一尺四寸二百年以來の物なり村名を出塔といふを以て日本後紀に見わたる三重塔の舊跡とおもひて後人の建しならん然れども村名の塔の字に泥める誤なり三重塔の事官省符莊神野々村の條下に見ゆ

○樂師寺 前光山 保壽院 眞言宗古義馬場村神宮寺末

岸上村

傳志乃字廻 皮田

田畑高 四百十四石九斗五升
家 數 二百四十一軒
人 數 九百人

柏原村の南八町許にあり皮田村なり

○照光寺 淨土真宗西派攝州富田照光寺末

村中にあり舊は蓮華寺と號す元文中今の名に改む

○小堂二宇

觀音堂 村の東除地にあり土地新左衛門の念し佛さいひ傳ふ 大日堂 村の西端除地にあり

村の南にあり岸根より出る流泉なり高さ二十五間許横五尺許弘法大師杖にて突しより湧き出たりといふ當村及岸上村の高百五十石許の田に灌漑す

○錢坂城跡

村中にあり周三百五十間東南北は高さ九間西は平地四間餘の空堀あり生地氏の城跡なり生地氏 大和の恩地河内の恩智紀が同姓といふ 本姓は坂上姓にて田村將軍四世の孫正六位上志摩椽坂上仲澄の後なり仲澄は 圓融院の御時の人にて采地近江國にあり其子兵庫助武澄其子東市佐直澄永治二年四國に渡りて没す夫より家衰ふ直澄の子權大夫孝澄源家に屬し關東にあり孝澄の子彦太郎朝澄承久年中軍功ありて當莊にて采地を賜はり則城を禿村東岡 今其地詳ならず に築き畑山城と名づく朝澄の孫右衛門大夫長澄 市脇村に此人の墓し立輪石塔 其子兵部源尹澄 或は早澄 伊都郡司となる楠正成の妹を娶る其縁にて正成か旗下に屬して軍功を立つ其頃姓を生地と改む尹澄の子

右京進安澄父と同じく千劍破赤坂等の城に籠る建武三年に至て尹澄戦死す尹澄五子あり左近太夫知澄平太安澄安澄父の遺跡を新太郎澄平源次郎澄藤五進澄あり嗣き楠正行正儀等と常に軍事を議す正行討死せし後故郷に歸りて正平三年に死す其子兵庫頭盛澄 南朝に仕ふ其子右馬允益澄元中年中千劍破城に戦死す其子小太郎俊澄弟今菊叔父藤五等と共に諸國に流離し應永元年攝州池田十郎教正に寄る其頃島山基國に屬し其德意に因りて將軍義滿公より舊地を與へらる夫より後本國の北口三軍の旗頭となる永享の初畑山城を此地に移し相賀新城と號す是を生地中興の主とす俊澄の六世の孫を安藝守忠澄といふ忠澄子なし甥石見守政澄を養ひて子とす其子新左衛門吉澄或は英澄 天正二年島山滅亡の後織田氏及豊臣氏に屬す 以上生地新左衛門吉澄度長慶長五年關原の役に江州に於て討死す其二男に小太郎清永村に住し名を市助と改め氏を北川と改む夫より世々清水に住す其餘子孫諸村に多し 大畑菜の家譜には天文二年生地石見守能野より錢坂に城を築くありと云

市脇村

伊都郡

田畑高 三百十三石一斗七升三合
家 數 四十八軒
人 數 二百一人

野村の東十町許にあり土人いふ村中總社明神の境内に古市あり市の津領宮に納むといふ事古文書に見わたる則是なり里人の傳へに古は七日地に村名は其市場の脇の義なり永承三年關八月廿七日市ありしといふ村名は其市場の脇の義なり永承三年關白頼通公高野參詣記云十月十三日午刻着御紀伊國市御借屋民部卿去陵吹山之南三十町許木御川の北不經幾占三樹木蒙所へ御邊龍泉石幽奇之地云云と見わたる市御借屋も此地なるへし市の名古き事知るへし村中京道といふ傍に古道と呼ぶ字ありあり又村中に町と呼ぶ字あり

○總社三部明神社

境内 社より遊觀所 まで三町許

本社 幣頭堂 寶 藏 拜 殿 八間
鐘 樓 末 社 四神 相殿

伊勢街道の北にあり東家寺脇市脇野四箇村の産土神なり此莊根來寺の領地となりし時當社を以て莊の鎮守に勸請す今猶根來寺より供料等寄附の文書を藏ひ又正和神事の定書あり古文書の部 に出せり 此外 繪旨 院宣等も數通ありしか皆火災に燒失せり寶藏に古寫大般若經の略冊あり奥書に承久三年歲次辛巳散位從五位下中臣連遠經一男中臣忠基とあり祠前に古

き石燈籠一基あり正平十年十一月一日と彫りたり正平の頃は生地費川兩家の産土神と稱し相賀莊二十九箇村の總産土神にて生地氏神なりしといふ此石燈籠は生地氏の建しならん神主を山木某といふ

○小祠三社

天野社 丸山といふ所あり 辨財天社 觀音寺の境内あり
痘瘡神社 觀音寺の境内あり

○觀音寺

眞言宗古義高野山正覺院末

村の北にあり本尊は生地氏の守本尊にて舊錢坂城内にありしを落城の後當寺に移すといふ境内に經藏あり末寺一箇寺野村並あり

○醫王寺

總持山 眞言宗古義高野山正覺院末 傳法輪院

惣社の西にあり傳へいふ昔北條時頼入道此地に來り當寺を建立して禪宗の伽藍とす其後大に頽廢して今は堂跡とて十間に六間許の芝畑中ありて除地なり礎石も猶存せり其舊跡の北數歩に假堂を作り本尊藥師如來を安す甚古佛なり傍に最明寺の像あり三尺許の座像にして殊勝の古物なり時頼自彫めりといふ又堂中に大なる額三枚あり舊の本堂の額なるへしその内大醫王禪寺の五大字は臨濟三十二世天龍山人

東家村

登字解

田畑高 三百三十四石九斗六升六合
家 數 百三軒
人 數 四百六十五人

市脇村の東五町にあり小川を隔て橋本町と接す人家多く町をなし紀伊見時を越て高野に至る街道なれば旅舎もあり東家の名義詳ならず一説に東家古はあつまやと唱ふ山家集にあつまやと詠き山を東嶺の峰といひしならん歟といへども定めかたし今按ずるに東家は姓の假字にて峠は村の北の山をさしていへるにや

○小祠三社

稻荷社 社地周四 十間餘 衣比須社 社地 除地

八幡宮 表二尺廣四尺社地周
廿六間餘村中にあり

○陀羅尼寺 眞言宗古義菅浦谷村地藏寺末村中に

○廣地藏堂 村の南にあり今石
佛一區のみ存せり

○相賀臺殿

堰口村領にあり谷内川を堰きて當村及寺脇市脇三箇村の田地に灌く懸り高五百石許

○舊家五家 六十人地主 堀江 平右衛門

世々士著の士にて封初以後世々六十人地主たり

地主 一色 榮次

家系に其祖一色公保六代の後胤一色小十郎といふもの丹後より慶長年中當所に来り住し同八年淺野家に仕へ五十石を賜はる大阪陣に泉州にて戦功あり淺野家安藝に移りし時當所にとまり世々士著の士となる 淺野家の書翰數通を藏む古文書の一部に出でり

地主 榎本 貞藏

家傳に其祖楠左衛門尉正玄八代の孫樫本金哉といふもの河内國石川郡水分村より享徳中當地に来りしより世々當村に住すといへり

地主 脇 文兵衛

家傳に其祖を宇佐美豐前守祐西七代の孫大和守爲興といふ

大和より當地に来り住す爲興九代孫惣右衛門宗興といふもの脇氏と改むとそ

野川 仙助

家傳に其祖を宇佐美豐前守祐西といふ祐西十三世の孫主計頭爲長といふもの始て野川氏と改め世々高野領推出村に住す應安年中當所に移り農民となるとそ家古文書數通を藏む 古文書の一部に出す

古佐田村

同左太

田畑高 二百六十四石二斗四升一合

家數 三百九十軒

人 數 九百五十六人

東家村の寅の方四町許にあり古佐田古記に小佐田と書す小狭田の義ならむ此邊坂上氏に縁ある地なり姓氏録に佐太、宿禰あり坂上大宿禰の同祖なり若此地より出し氏にはあさるか坂上氏の事詳に陵山の條下に見たり

○陵山社 三尺五寸 一尺五寸 奥、宮

○廣觀音堂 境内周廿四間今方二間の石塔のみ残り又觀音寺と影める類あり古佐田橋本の藏所なり

○經塚 境内周十二間塚上 に寶篋印塔あり

○陵山 村の北にあり高四五間の墳を起して所々石にてふきたり四方に堀を作る堀幅三間周一町半許山間にして堀も又圓なり

樹木其上に蒼鬱たり里人傳へて田村將軍の塚なりといふ按するに當郡坂上氏の住して其由緒多き地なきは 靈異記曰伊之族屋寺尼等云々彼里有三四人一姓文忌寸字曰上田三郎とあり文忌寸姓氏族に見ゆて坂上大宿禰の同祖實直の後なりとあり又當郡藤原生村の八幡を坂上氏再興せし事八幡の祝辭に見ゆ又市脇村の醫王寺に五百餘年を經し石塔あり坂上長澄敬白の字を彫り又慶賀野に古城跡あり里人傳へて坂上某の城なりといふ又馬場村に恩地氏の末葉あり恩地は坂上大宿禰の同祖なり又高野山町石の施主に坂上氏尤多し又丹生社文正恩地氏弘安比の文書に坂上姓の人多く見ゆ又姓氏録に佐太宿禰は坂上大宿禰の同祖とあり當村の名此より出するなるへし又類聚抄に伊都郡の地名に村主の名あり野縣御影堂所藏元久元年の文書にも又村主の字有り姓氏錄載する所村主と號するは皆異國人の子孫也坂上氏の祖阿知使主は後淡路守の末なれば當郡村主の名亦山ありけなり其外此邊に坂上氏の文書所持の者多し三谷村山内氏所藏寛治の文書に坂上清澄經澄等有又海部郡由良莊横濱村の字佐八幡永仁四年の棟札に神主坂上實綱とあり同郡衣笠三尾川村坂上明神社天授六年の棟札に神主坂上實綱とあり社古き棟札に坂上長澄坂上正澄坂上清澄等の名あり皆同族なるへし清澄園師年譜に坂上金吾字正法名阿念山其莊内按部任職なりとあり皆同族にて此邊より出し見ゆ又名草郡山口莊にも坂上氏の事あり并せ見るへし

里人の傳へ謂れなしといふへからすされとも田村丸は國史に山城國に葬りし事彰然たれば此地に其墳の有へき山なし田村丸は坂上氏にありて格別に名高き人なれば世俗に坂上と云へは皆田村將軍とす此墳も坂上某の墓なるより田村丸の

地藏堂 觀音堂 念佛庵

○堂三宇

眞言宗に改宗す庚申堂は明暦三年天王寺より勸請すといふ

○庚申寺 眞言宗古義橋本町應其寺末

陵山にあり昔は天台宗にて攝州天王寺末なりしに安永二年

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

の時守本尊とし深く祈請して遂に夷賊を退治し大同中此地

村の南にあり縁起に本尊地藏尊は延暦中田村將軍奥州征伐

に七堂伽藍を建立して此本尊を安置すといへり惠心僧都か

畫けりといふ阿彌陀像信譽上人の六字名號あり

墳とは誤りしならん今誰の墓とも定めかたけれ其墳の形區廓廣大にして上世の墓と見ゆれば坂上氏其祖を葬りしならん疑らくは阿知使主などの墓なるへし天子に非して陵と稱する事河風土記に有度采女殿子の墓を豐炊洲の陵とあり思ふに土人傳の餘りみまきと稱し遂に陵の字を替り來りしと見ゆ土人傳の外にて曲玉を拾ひたる者あり長一寸許にして少しまかり兩頭に穴を穿れり又骨石を拾ひしものあり

橋本町

波志母登

田畑高 古佐田村に籠れり

家 數 上に同じ

人 數 上に同じ

東家村の坤にありて紀川の流に傍へりもと古佐田と一村なり應其上人豐太閤の歸依僧にて古佐田村高の内貳拾七石五斗五升の地を免許ありて町を開かしむ上人紀川に百三十間の橋を架す橋本の名これより起れり此橋三年許を経て大水の爲に流没せり此地和州より船積にし來る諸品を積替又旅人等當所より船にて府に下る且伊勢街道の官驛にして市郷軒を連ね郡中尤繁華の地なり東家村との界に板橋あり紀川に臨みて 君公の別館あり今は廢して郡の府廳となる

將軍に仕ふ其下葉縫殿頭義種は島山持國に屬し河内國若江ノ城に住す三郎左衛門義道は島山政長に屬し甚三郎道範は島山卜山に仕ふ甚三郎義正は島山植長に仕ふ天文二年五月三好長元湯川光春等植長廣城合戦の時義正城中東の丸にて自殺す義正の男三郎左衛門清安叔父池永孫三郎清徳の義子となり島山高政に仕へて在田郡廣莊内を領す其子五郎右衛門清信は湯川民部少輔直春に屬し天文十三年湯川家没落の時領地に放れ廣莊柳瀬村に蟄居す元和五年 御入國の時柳瀬村にて地士となり代々相續す後當所に移り姓を池永と改む今の惠次郎は命士の格を賜ふ

家傳に元祖は小西善介秀勝といふ隅田一族にて島山に屬し三好を討つ其後當郡細川村に住し氏を吉田と改め土着の士となる秀勝の子幼き故に母方の伯父吉田助惣の子源右衛門を義子とす源右衛門六弟あり淺野家に仕へ元和五年安藝に移る源右衛門のみ當國に残り世々當所に住す

土屋孫兵衛

家傳に 繪旨古文書數通を藏す文書部土屋兵庫助及土屋越後守等の名文書の内に見たり皆其祖なり近郷にて尤著き舊

○市衣比須社

町内にあり昔此地に一六三八の日市ありしと今猶鹽市あり故に土人市夷といふ

○應其寺 中興山 普門院 境内周七十四間

眞言宗古義高野山興山寺末

本堂 鐘樓 護摩堂 僧坊

町内にあり開基は應其上人なり什物短冊書翰等種々遺物あり

○道場屋敷趾 除地周十六間

町内にあり

○舊家 地士 竹田 武藏

家傳に隅田一族にて紀州園部莊貴志山路兩村地頭職にて代々伊都郡幸生村に住す島山家に屬し三好を討つといふ其後竹田仁右衛門といふもの元和年中隅田組の地士と成る子孫今當所にあり

六十人地士 池永惠次郎

家傳に新田大炊助義重の五男額田次郎經義といふ上野國新田郷額田村に住し鎌倉將軍家に仕へて代々鎌倉に住す元弘建武の亂に額田掃部助正忠同左馬助爲綱等新田義貞に隨ひ頗戦功あり明徳三年 南北朝御和睦の後右京亮勝忠義滿

家なり

○地士 榎坂喜之助 榎坂官兵衛 池永雄次郎

妻村

郡麻

田畑高 百七十二石二斗八升九合

家 數 二十四軒

人 數 八十一人

橋本町の東五町にあり妻の義詳ならず

○大將軍社 村中にあり

○八幡宮 村の西島船子岩の傍にあり

○阿彌陀寺 眞言宗古義高野山興山寺末

村の南にあり本尊阿彌陀像は安阿彌の作といふ又惠心僧都

の畫ける三尊彌陀一幅を藏む

○妻、森

本國の名所にして萬葉集に見たり其地今詳ならず按するに當村は古よりの官道にありて妻の名あれば此邊の森なり

しなるへし名京郡にも郡麻社妻神戸など古昔に見ゆ今も妻村といふもあれば彼地ならんし知るへからず猶あふへし

萬葉集

大寶元年辛丑冬十月 大上天皇大行天皇幸紀伊國時

歌十三首の中

城國爾不止將往來妻社依來西尼妻常言長柄

○椿ノ森

村中阿彌陀塚の巽の方にあり舊椿樹ありしといふ今は僅に塚の形なるを舊地と稱す按するに萬葉集に紀伊國行幸路次の歌に巨勢山の列々椿と詠める歌あり宗祇或は後世和歌者流の著書に巨勢を本國の名所とあるを據とし當村の近郷に河瀬村あるを以て此椿森を舊跡といふなるへし然れども巨勢は大和國高市郡の郷名なれば其説誤なり

寺脇村

且良和傳

田畑高 百五十八石六斗三升三合

家 數 四十軒

人 數 二百九人

東家村の北一町にあり村中に妙樂寺といふ古寺あり村居其

○觀音寺

眞言宗古義菖蒲谷村地藏寺末

村の乾にあり

○小堂二字

藥師堂

愛宕堂 村領にあり

小原田村

遠流長太

田畑高 百七十三石二斗五升四合

家 數 三十七軒

人 數 百六十七人

寺脇村の北九町山間の小なる原にあり故に村名とす

○牛頭天王社 境内周百六十間

村の南三町にあり中央二社左右二社あり一村の産土神とす

○小祠三社

熱田明神社 社地除地村の西にあり 権現社 社地除地村の西の山上にあり

役行者社 村の西にあり

○藥師寺

境内除地

○廢圓藏寺址

眞言宗古義菖蒲谷村地藏寺末 村中にあり

境内除地

紀伊續風土記 卷之四十五 伊都郡 相賀莊 小原田村 辻村

脇にある故に名とす市脇の脇に同じ村中戸數三箇一は逆旅商賈怨夫の類なり慶長檢知帳に東家寺脇村とあり後に分れしなり

○大森二十六社權現社

村の南川邊少なき森の中にあり祀神詳ならず森の西は妙樂寺の舊跡なり田地の宇を寺内といひ寶塔の趾を溝内といひ四門の跡を四の御門といひ土藏屋の跡を藏の腰といふ

○湯ノ神ノ森 村中にあり社地四十間 祀神詳ならず社なし

○妙樂寺 丹生山 眞言宗南都西大寺末

村の北高丘にあり弘仁十一年 嵯峨天皇の 勅願寺にて大森の社の西に七堂伽藍を草創す其後永仁の頃最明寺再興ありて今の地に移す寛正四年に焼失せり文明五年僧悟阿諸方に勸進して勸進狀今 再建せしを織川氏高野資の時野山の衆徒燒き拂ひしといふ 今寺邊の田中に本堂大日堂の基石あり 今只一堂一僧坊のみあり當寺は舊空海の姪如一尼の居し所にて以後尼寺となり永仁六年關東より祈禱寺三十四箇寺を定めし内尼寺七箇寺の其一なり古物は皆焼失して只弘法の作といふ大日本像一軀行基の作の藥師木像二軀弘安元年觀心寺より來る西大寺の興正菩薩の書二冊元中元年田地寄附狀のみを藏む鎮守社あり

村領藥師山にあり今藥師堂一字鎮守辨財天社のみ残り本尊藥師像空海の作といふ又土の大黒百輪などありて空海の作といふ昔空海此處にて誦經の時檜葉にて加持手水をつかひし故とて今に榊とふくら柴の二本に檜の葉を生ず

○城山

村領にあり長八十間横六間の地なり

辻村

郡白

田畑高 二百八十五石六升四合

家 數 四十七軒

人 數 二百二十人

小原田村の北五町にあり高野より京攝への往還は東家より寺脇小原田辻橋谷慶賀野柱本を経て紀伊見峠に至る街道なれども古道は當村より岐れて二つとなり一は西に折れて菖蒲谷を経て出塔柏原神野々に至り紀ノ川を渡り慈尊院村に至る今に菖蒲谷の路を京路といひ神野々に御幸道と云へるもありて 宇多帝行幸の時も此道より御幸ありしと見ゆ一は小原田の西の山手藥師寺の上の山を越えて市脇の京道に

出づ當村より兩道となるを以て辻村と名つく古は此道往還なりしか應其上人橋本に橋を掛けてより今の道を往還せり

○牛頭天王社 境内周八十四間

本社 表六尺 横七尺 末社 若宮八幡宮

村中にある三百年前矢倉脇村より勸請すといふ神事は九月二十八日なり

○藏王權現社 境内周五十六間

村の西にあり神事六月二十日なり

○辨財天三社 二社は村中にあり一社は村の東街道の側にあり

○阿彌陀寺 眞言宗古義菖蒲谷村地藏寺末

境内に阿彌陀堂あり此堂舊街道の側にありしか元祿五年此に移す什物釋迦入滅の像一幅兆殿主の筆といふ傳ふ

○舊家 武 兵 衛

祖先詳ならず古文書五通を藏む文書部に出す

○地土 林 又 六

菖蒲谷村

志也平夫を爾 小名田ナノ

田畑高 三百七十石四斗四升
家 數 五十八軒
人 數 三百八十一人

辻村の西八町にあり古此村の谷菖蒲多き歟又は他所よりは宜きか村名是より起れるなるへし村中地藏寺の巽に當りて菖蒲池といふ池あり今は名のみにして菖蒲はなし小名あり田和といふ

○權現社 表三尺八寸 横五尺四寸 境内周二町

本宮社 新宮社

末社二社 八幡宮 春日社

村中にあり一村の産土神なり

別當 親音寺

○大夫宮 境内周三十間

本社 表三尺五寸 横三尺五寸 末社二社

村中木村孫大夫といふもの先祖を祀れりといふ

○加佐塞神社

村の東にあり土人瘡神と稱し瘡病には此神に祈れば速に應驗ありといふ塞の神の號の上に瘡といふことをそへていふにや

○辨財天社 村の北にあり

○廢小祠十社

辨財天大將軍稻荷八王子第六天王鬮森等なり鬮森は鬮を燒て神に供するを例としたりといふ今は皆小森のみ存す

○地藏寺 境内周百六間 禁殺生

眞言宗古義高野山高室院末

本堂 護摩堂 鐘樓 大門 鎮守二社

弘法大師加持井

村の西小名田和にあり相傳ふ開基は天平九年行基此地に來りて伽藍を構へ自地藏の像を彫みて安置す則今の本尊子安地藏是なり其體は左手に玉を載せ右手に錫杖をつかす眼中に玉を用ひす細密の工にあらずして眞に古佛なり脇立不動毘沙門又行基の作といふ堂舎天正の兵火に罹りて寺寶等悉く燒失す正保五年 南龍公御再興ありて御紋の御幕並に水引佛前の器物等御寄附あり根來寺盛なりし時寺領も若干ありしといふ村中六人衆といへるものあり當寺領の百姓の子孫なりといひ傳ふ

○觀音寺 眞言宗菖蒲谷地藏寺末

本堂 經堂 僧坊

村中にあり權現及大夫宮の別當寺なり本尊普賢菩薩は行基の作とそ目に玉を用ひす古佛なり脇立不動毘沙門も同作といふ寛文記には延命寺といふ寺號を改めたるにや

○廢堂二字

觀音堂 地藏堂

○赤坂池 應其上人のほり池といふ

○古城址

山上にあり周八十間松山新助の城なり天正六年二月織田氏高野資の時松山某高野の衆徒と戦ひ落城すといふ戰場は山田村領にて地藏寺の北二町許にあり松山某城を逃れ走る其徒戰死する者の首を集めて埋みし處なりとて地藏寺の巽一町半許に小山といへる處に塚あり武家高名記に左の感狀あり

今度織田信長高野表江人數被差向一處菖蒲谷前而二月十四日已尅御合戰其方一番鎧被入事無比類御手柄無申測候賊以寺中大慶不過辨

二月十六日

一 薦坊新美判

地藏院

又島山家譜に文龜三年三月島山右衛門佐基家菖蒲谷の地より出て島山と一戦すト山菖蒲谷の城を攻るとあり

○墓所

村中字經の尾山にあり大師の伏三昧にて禽獸の害なしといふ

○田和古戦場

小名田和にあり島山記に天正九年八月平信孝侍従を大將として高野山を攻させらる時先鋒高山右近久次森勝藏齋藤新五郎林佐渡守多賀新左衛門山田三左衛門島山民部少輔滿宣同左衛門佐直政神保長三郎等紀州伊都郡に打入と云云爰に高野山より林藏院釋迦牟尼院隔田の一族龜岡田所の人々菖蒲谷に出張し田和地藏堂に陣す九日信長公の勢信孝卿菖蒲谷に押寄せ大に戦ふ林藏院釋迦牟尼院鐵炮を放ち手しけく防く味方死亡に及ふ十日島山民部少輔同左衛門佐岡新六田和堂の甚長といふ者に通過し火を放ちて焼立田和地藏堂空く一片の煙となる次第に高野に攻め近き山下を焼拂ひ諸寺領没滅せらる

○舊家

其家傳へいふ舊は鈴木氏なりしに 朝廷より命ありて木村

山神社

辨財天社四社村頭に存在す社地皆除地なり

○廢小祠

森のみ存在す土人實殿といふ

○西福寺

無量壽院

眞言宗古義菖蒲谷村地藏寺末 村中

○大恩寺

天王山般若院

眞言宗古義菖蒲谷村地藏寺末 村の乾

○彌勒寺

村中にあり

○小堂二字

毘沙門堂 村の乾

不動堂 村の南

○舊家

地士 贊川 喜兵衛

家傳にいふ相馬太郎良門の後胤贊川六郎左衛門將望の玄孫筑後守將雄永祿天正の頃島山家に屬し軍功に依りて谷内郷十三箇所並に和州吐田郷河州佐備寛弘寺二箇所代々知行し長敷城を築きて是に居る其後信長の爲に落さる三代の孫贊川宗喜一子仁兵衛淺野家に仕へ橋本に住す元和三年土着の士となり子孫今當村に住す淺野家よりの文書數通を藏む文書の部に出す

に改む根來盛なりし時三拾石の助力あり又五百年前まで口六郡の糶屋より米三斗つゝ此家に納む又はたせ馬一疋に錢百文つゝを取る是皆熊野權現天竺より御鎮座の節御度を負ひ御供せし故といひ傳ふ按するに當村熊野權現社あり熊野より此地へ勸請せしなるへし又家傳に信長公の時は菖蒲谷一村を領せしといふ

橋谷村

渡志多爾

田畑高 三百九十一石七斗七升五合

家 數 六十一軒

人 數 二百二十八

辻村の北八町にあり村中小谷川多くして土橋を掛く橋谷の名是より起れり

○八王子社

境内除地

村中にあり一村の産土神とす

○牛頭天王社 惣三尺二寸横二尺九寸 境内除地

村の乾にあり境内に釋迦堂あり

○小祠五社

慶賀野村

計伊賀屋

田畑高 百五十石三斗八升三合

家 數 三十二軒

人 數 百二十三

橋谷村の長九町にあり名義詳ならず

○衣美須社

村の巽にあり一村の産土神なり永享六年の棟札あり奉造營一蛭兒大明神玉置丹治、重政とあり

○小祠二社

山王權現社 村の東

明神社 村中にあり

○廢八王子社 村の南の山

○大福寺 寶登山 松樹院 眞言宗古義隅田莊境原村小峯寺末

村の南にあり本尊不動如意輪觀音空海像あり皆古物なり

○地藏堂 村中にあり

○一の瀬瀧

村の乾矢倉脇村との境にあり高十間許水勢甚猛にして吼る聲雷の如く人語辨しかたし

○地士

北村 伴次

矢倉脇村

也俱其和幾

田畑高 百四十八石二斗四升三合

家 數 四十三軒

人 數 二百五十五人

慶賀野村の乾八町谷の内にあり慶長檢地帳には矢藏脇と書せり土人の傳へに當村慶賀野村邊に坂上氏の城ありしといふ今慶賀野村に城垣内城口城山東堀添等の字あり則其城跡ならん然る時は當村其城櫓の脇に當れり故に矢倉脇と名つけしなるへし

○牛頭天王社 境内周百二十間

本社 表五尺 三寸

拜 殿

末社 若宮社

村中にあり一村の産土神なり

○八王子社四社 二社は村中二社は村の東にあり

○地藏寺 眞言宗菅蒲谷村地藏寺末 村中にあり

○廢徳禪院 養叟和尚墓趾

村の北葛城山の半腹にあり養叟は洛北紫野大徳寺の第五世にて 後花園天皇より特に宗惠大照禪師の號を給ふ退隱して當村徳禪院に住す一林和尚の法兄なりもと藤原氏にて洛の東山靈山の麓に居る八歳にて東福寺九峯和尚を師として僧となり法名を宗願といふ養叟は字なり後年大徳寺に入り大用菴を草創して住す後權貴を避くる所ありて葛城山紀伊見峠の風景を愛してこゝを居とす贊川氏徳禪院を建て、住せしむ石工に命じて自像を刻ましめて山の半腹に残し長祿二年六月廿七日八十三歳にて遷化す徳禪院兵亂に廢し、石像も又先年の山荒に倒れ散りしを後又舊地に安せしに其像の首缺けて無し近來大徳寺より其趾を搜索せしに及びて叢間を開き小路を作るに至りて不慮に石首を得たり是を缺像に繼くに符合して全體を得たり又一奇事なり

○孤支瀧

村の乾二十町許其間谷狭く山高く一線路纒に水に傍ひて通す孤支瀧谷底にあり高二丈幅五尺許懸流瀧下の勢懷を洗濯すると覺ゆ

○唐瀧

孤支瀧の西南十町許谷奥にあり懸流高四丈幅五尺許其北に

本社 表五尺 横三尺 拜 殿

末社三社 八王子社 波利采女社 蘇民將來社

村の北にあり一村の産土神とす

○小祠三社

辨財天社 山王權現社 小 社 祀神詳ならず以上三社村領に散在せり

○極樂寺

眞言宗古義隅田莊境原村小峯寺末

本 堂 經 藏 鎮守摩利支天

村中にあり除地交れり

○笈掛岩

村の北四十町許葛城峯の脇にあり修験者の行所なり

○古戰場

正慶中湯淺孫六赤坂城に籠り楠正成か寄手を防ぎ糶米を紀州阿瀬川より運はしむ正成和田恩地安間高安等三百人に命じて湯淺か兵を紀伊見峠に破る事太平記三補實録に詳なり

○舊家

地士 小林彌太郎

其祖を小林右近長行といふ長敷城主性川宗雲に仕ふといふ

岡四郎五郎

これ京攝より高野に至る街道なり慶安元年より傳馬所となる

○牛頭天王社

境内周百間

柱木村

波志良毛登 小名紀伊見峠

田畑高 二百三十九石六斗七升五合

家 數 百十四軒

人 數 三百八十三人

矢倉脇村の東十町にあり名義詳ならず小名紀伊見峠紀河の界山嶺にあり麓小名沓掛より登り八町道平易なり本村の乾十五町といふ民家山嶺にありて大抵茶店逆旅の家にして家最宜し茶屋より一町許にして三本松といふありこれを紀河の界とす三本松より下る事八町にして河内國天見村に至る

馬場村

嬰々

田畑高 二百三石二斗三升
家 數 三十一軒
人 數 七十九人

古佐田村の北十町許にあり村の入口細川西流して下にて谷内川に合す村中に相賀八幡宮の遊觀所の跡ありて少しの森の形残り古は其所に流鏑馬などの馬場ありしより村名となれるならん

○小祠二社

八幡宮 社地除地村の南にあり

辨財天社 社地除地村の西にあり磯部の宮といふ

○阿彌陀寺 眞言宗古義富浦谷村地藏寺末

村の西にあり此外に阿彌陀堂里坊等ありしか今廢して其地詳ならず

○舊家

澤野 利石衛門

家傳にいふ雲州尼子孫四郎勝久の弟助四郎通久の末子尼子伊織久邦天正六年當地に來り澤野と改め當村に住してより代々相續す

原田村

渡良歌 皮田

田畑高 百六十九石六斗二升八合
家 數 七十三軒
人 數 三百三十九人

馬場村の東六町許にあり皮田村なり

○教善寺

淨土眞宗西派攝州富田本照寺末

○法身寺

淨土眞宗東派和州箸尾村教行寺末

並に村中にあり

胡麻生村

吳麻布 小名 向カマシク壇

田畑高 四百五十一石六斗二升四合
家 數 八十二軒
人 數 三百六十六人

馬場村の北七町廿間にあり小名を向壇といふ又糠塚といふ所あり村名慶長檢地帳に胡門と書す或書に御門と書す村中八幡宮は數村の氏神にて古は樓門ありて今も其跡存す是

に依るに氏神の門ある處故に御門といひ村名ともなれるならん海部郡山良興國寺の前に門前といふ村名ある類なり門をモウと唱ふるは後に訛れるなり

○八幡宮

境内周五町

本 社 方三

攝 社 若宮八幡宮 相殿 熊野三社權現 高良大明神 相殿 日吉大明神 相殿 牛頭天王

權五郎宮 三尺

拜殿 鐘樓 寶藏 鳥居

村中にあり胡麻生橋谷慶賀野柱本馬場細川上下妻古佐田橋本小原田等十一箇村の氏神なり按するに本國神名帳に天手力雄氣長足魂住吉神あり即此八幡宮なるへし境内も廣大に社殿も壯麗にして莊中の大社なり此神社三神合殿に祭れるを以て神名帳には神名をならべ奉りに今八幡宮と稱するは氣長足姫命一座を指していひしより轉して世の徧く知る所の稱を取て略し唱ふるならん寛文雜記に石清水八幡宮を坂上氏人の勧請する山見わたり正平二十一年の鳥居の額あり表に八幡大菩薩と記し裏に正平二十一年丙子六月日とあり其頃坂上氏此地を領して社殿等壯麗にし神主別當等を置き石清水の祭式を又て神事を行ひしより終に古義を失ひしなるへし其後文龜二年に坂上氏人再興

す文龜の祭天正九年春高野衆徒費川氏を責る時當社を焼拂ひ大に衰廢に及ぶ寛文其後天正十四年費川氏の後裔費川海部といふもの造營すといふ村民某の談古は藥師堂樓門別當寺等もありしに天正以後類廢して今礎のみ存す又禰宜神主神子等も昔は八人ありしに今は神主一人禰宜二人神子一人あり寶庫に文龜二年永祿十二年の祭文を藏ひ其餘行平の脇指小鍛冶の刀等の神寶あり神主を神垣内氏といふ

○小祠十一社

辨財天社九社 八幡宮

水神社 總て十一社村領に散在す皆除地なり

○大師寺 境内周八十四間

○光誓寺 淨土眞宗河州三日月置教寺末村の東にあり糸谷川の東の方なり

○小堂五宇

地藏堂 村の北にあり

愛染堂 村の東にあり

觀音堂廢跡 村の南にあり

○牲川氏宅地 古墓

村の南字大崎にあり長藏城主牲川氏の下屋敷なり又同所に

古碑あり牲川氏の墳といふ牲川氏は多々良氏三家の一なり
 多々良氏は百濟國餘璋王子琳聖太子七代後貞成王の族にし
 て實は六條判官爲義の末子なり貞成王の妹一に姫崇徳帝に
 仕へて大内局と號す 帝是を源爲義に賜ふ二子を産む兄を
 大内權守惟義といふ貞成の家を續く弟を多々良五郎義春と
 いふ山記に大内義春三浦大助義明か第四女に養婿と成る其
 六郎重興とす 緣によりて保元平治の逆亂に誅戮を遁れ治承年中源頼朝卿
 に従ひて功をなし伊豆國江川莊を領して三代を經たり承久
 亂後に多々良太郎重範當國那賀郡野上莊に移る楠部頭盛
 仲か女を娶りて三子を産む盛仲は正成の祖父嫡子野上孫三郎頼重次男
 牲川三郎左衛門頼俊山記三三男江川左衛門重幸山記二是を
 紀伊の官軍多々良の三家といふ皆楠正成に従ひて南朝の功
 臣なり嫡子頼重は熊野新宮に退き明應三年大内義弘紀泉兩國を領せし時縁
 なを以て大内に従ひて周防國に下向す三男重幸は吉野にありて 皇威
 を佐け南北和平の後山に降る高政没落の後細川氏總に仕ふ天正十
 二年縁實一際に興し豐太閤の爲に所領沒收せられ泉嶺の間に漂浪す中に就
 て頼俊數々軍功を顯はし千劔破落城の時楠正行と共に十津
 川の郷に遁る頼俊の子筑後守義春文明年間十津川にて野武
 士を集め當郡へ討て出て守護山尾張守の幕下となり城を
 長敷に築き谷内郷十三箇村にて一萬石を押領す義春の子參
 河守義信猶當郡及河州にて二箇村森屋村 光寺村合せて十五箇村を

細川下村

保曾池渡邊志毛

田畑高 百三十一石九斗五升
 家 數 四十四軒
 人 數 百五十九人

六社權現 五尺八寸 一尺八寸 末社二社 鳥居
 村の東の山根にあり寛文記に熊野新宮を勧請すとす
 別 當 神宮寺

眞言宗新義若山延壽院末

○小祠七社

辨財天社六社

○阿彌陀寺 境内周三十八間

○不動院 境内周三十二間

眞言宗古義隅田莊垂井村大高能寺末

村中にあり

○小堂一宇 境内周十二間

○長敷城址

村の西山上にあり牲川氏の城址なり此城地葛城の尾崎南に
 張り出て上平にして長く屏風を列するか如く東西の隔をな
 しこれより西を谷内郷といひ東を山郷といふ峯胡麻生村に

胡麻生村の北八町半にあり葛嶺の一小溪の間であり谷尤狹
 し溪流杉尾村より出て村中を流る故に細川の名あり昔は上
 下合せて一村なりしに寶曆の頃より二村に分つ

○小祠四社

痘瘡神社

辨財天社

○不動寺

○觀音堂

村中にあり葛城先達の行所なり左右に愛宕と痘瘡神との小
 祠あり

細川上村

保曾池渡邊美

田畑高 百七十八石二斗八升二合

家 數 三十軒

人 數 百五十二人

細川下村の北六町にあり

○新宮大明神社

本 社 四尺八寸 三尺

若 宮 三尺八寸 二尺八寸

境内周三町四十間

若 宮 三尺八寸 二尺八寸

紀伊根風土記 卷之四十五 伊都郡 相賀莊 細川上村

至りて盡く其端東西に分れて二峯を起すその間僅に數十間
是城跡なり東の頂上平なる處南北四十間東西 二峯間北の方にて相
連りて橋を架するか如し南方に堀切の跡あり文明中性川筑
後守義春始めて當城を築きて其子孫此に居る其孫宗雲の時
永祿元年松永輝正此を責む宗雲敗れて城を遁る松永入りて
是に居る永祿三年宗雲の子宗喜松永を責めて城を取かへす
宗喜の子道可豊太閤の命に背き天正十五年豊太閤の軍に破
られて落城すといふ 以上性川氏の家譜に依る或は天正年間會川筑
後守義春此に居る時に信長此を攻めて遂に敗るこ
いふ主人傳へ云ふ城山の西麓野村より城に向ふ處城坂とい
ふあり信長の勢城坂より大筒を放つ城丸に掛りて砕けしと云

學文路村

加平呂 小名茂原 畑天神 有岡

田畑高 四百八十七石二斗七升
家數 百七十九軒
人數 七百九人

岸上村の南紀川を隔て十五町許高野領馬場村の坤八町餘に
あり應永の文書高野に官省符忝村とあり其頃は高野の領に
して官省符の内に入りしならん村名は忝の義にして少童の
事か高野山の麓なれば古は此地に男色を講ぐものありしな

又苺萱父子の作とて地蔵像二體あり境内千里前の墓あり
もこの村の南玉屋興次といへ縁起あり其略にいふ 崇徳天皇御時筑
る茶店の庭中におりしなり縁起あり其略にいふ 崇徳天皇御時筑
前の守護職加藤兵衛尉繁昌といふもの子なきを憂ひて香推
箱崎の兩社にいのりしに託ありて箱崎の松原の西石堂口の
川邊の石を懐にせしより懐妊して産む所の男子を石堂麻呂
と號く後成長して繁氏とよひ左衛門尉に任して父の職を襲
ふ仁平の頃遁世し叡山に登り叡空上人に戒をうけ法號を等
阿といふ又法然上人の徒弟となり黒谷に居し後高野山に修
行して苺萱道心といふ 世人此處を苺萱堂といふ苺萱の名は筑前に昔別
より國人苺萱殿と稱 苺氏の妻懷妊なりしか繁氏を慕ひて出たる
せしに云ふ 繁氏の妻懷妊なりしか繁氏を慕ひて出たる
旅中播州明石の大山寺にて男子出生せしを父の幼名により
て又石堂といふ十四の頃此里に來り玉屋興次といふ者の家
に 興次は舊筑紫にて玉田興藤次
清忠といひしものなり やとる母長途に勞れて永萬元年三
月二十四日命終せり法號を建泰妙尊といふ當寺に墓あり石
堂麻呂翌年高野にて父に逢ひてともに剃髮し信生房道念と
いふ後父子とも信州善光寺にいたりて庵室を結ひてそこに
終れり依りて今善光寺の門前石堂町に苺萱山西光寺寂照院
に親子地蔵とて此父子彫刻の佛ありといへり其事の實否知
るへからずといへ共其事世人徧く傳ふる所なれば姑く録す

らん小名茂原は村の巽八町にあり畑天神は村の南八町にあ
り昔は戸數も多かりしにや畑山千軒の謠村中にのこれり有
岡は村の坤八町にあり

○牛頭天王社 境内除地

村中にあり拜殿あり側に藥阿菴とて宮守の小菴あり

○天満宮 境内除地

小名畑にあり一村の産神とす

○小祠十社

天神社 荒神社 八幡宮

八王子二社 金比羅社 辨財天社 福原辨天
といふ

辨財天二社 稻荷社 右何れも除地に於て
村領の所々に散在す

○廢相賀天神 小名畑の天神
にあり社なし

○西光寺 延命山
無量壽院 境内周六十二間

眞言宗古義馬場村神宮寺末

本は村中にあり三十年前焼失して今阿彌陀堂屋敷へ移す本

堂護摩堂あり

○仁德寺 如意孫山
能辨院 眞言宗古義高野山惣持院末

村中にあり舊は苺萱堂といふ元文中仁德寺と改む 海部郡西
莊村にあり

し寺號を讀り 苺萱道心の像千里前の像石堂九十四歳の像あり
受けしといふ

○室三字

阿彌陀堂 村の東
にあり 藥師堂 茂原に
あり

地藏堂 村中にあり六地蔵の
内の第一なりといふ

○廢地藏堂 村中にあり
礎のみ存す

○弘法大師腰掛岩

村の東二町許にあり禿物狂といへる謠に作りし岩なりとそ

○杖の梅

空海讃州より杖に突き來りしを此地に挿しに生ひ出たりと

いふ古木は枯れて今は小き梅を植ゑたり梅の縁に因りて側

に天神の小祠あり

○しつく岩

村の南二町にあり硯材となすへし

○古戰場

島山記曰永祿六癸亥年三月島山高政を岡高坊の人々御屋形

と仰き奉り遊佐勘解山左衛門尉直基尊崇し奉り被官の人々

威を振ふ神保山城守定誠領知の事に依り高野の僧徒等大に

怒りて田所治部左衛門尉正業龜岡兵部丞秀宗等其勢七百餘

騎にて學文路に打出けり本より神保山城守定誠等一千五百

餘騎三月晦日の午尅より紀州禿に於て相戦ふと云云高政よ

り僧徒をなたりれ和陸に及ぶ

○舊家

平野 作左衛門

家傳にいふ其祖は佐伯姓にて天長中空海の母阿刀氏に附屬し讃州より當地に來り那賀郡中野村に住す末孫佐伯大千代大夫の男孫六大夫吉元といふ者當郡鏡坂の城主生地新左衛門吉澄に縁あるにより天文中學文路村に移る文祿四年關白秀次公高野登山の時當家に御休息あり鎗一筋殘し置かる其鎗今家に傳ふ二代目孫右衛門吉次學文路平野掟を領し平野と號す慶長十九年眞田左衛門に屬し大坂に籠城す明年平野合戦に持鎗を折る幸村與ふる所の鎗なりとて家にあり子孫代々當村に住し莊の長たり勤功數度ありて官より屢金を賜ひて褒賞す

大畑 才藏

家傳にいふ其祖は日高郡龜山城主湯川民部少輔直光の末葉湯川次郎右衛門信光といふ天文二年生地石見守に屬し石見守中野村の鏡坂城に至る時信光も學文路に來り代々住して姓を大畑と改む生地家より永樂錢四十五貫文宛與ふ其子惣右衛門信家其子次郎大夫は慶長年中關原の役に生地家に屬し彼地に戰死す其子與三左衛門信實淺野家に仕ふ其子與

三左衛門尹光元和五年 御入國以來農民となり代々當村に住す

○地主

小林仙太夫

丹生川村

爾布賀波 小名田麻 青淵

田畑高 百四石三斗一升五合

家數 六十四軒

人數 五百二人

學文路村の巽四十二町高野領河根村東二十五町にあり弘安八年の文書に高野丹生川郷とあり此村莊の南端にあり高野領内に深く突入り丹生川の崖につきて人家あり故に丹生川村といふ村中谷合長くして一里許あり溪流或は激湍となり或は深淵となる所あり奇狀愛すへし小名二つ田麻といひ青淵といふ又村領の内高野領三尾川郷東郷村と北又郷の間に斗折地行して長く突入り銅嶽の地に至るあり其所を雪生といふ

○丹生社

境内除地

本社 三册 二册

攝社二社

末社九社

本地大日堂

拜殿

舞臺

村中にあり一村の氏神なり社前の中流に一大石あり蓮花岩といふ明神影向石といふ寛文雜記に伊勢丹生神社の末社慶雲以前の鎮座なり古き書物は寛正五年の失火にて焼失すどあり社の東八九町にわらん谷といふ谷あり藁蓋谷の義にて鎮座所のよしにいへるか

○小祠四社

辨財天社

小社三社

○圓通寺 白性法院 眞言宗古義仁和寺末除地

村中にあり本堂僧坊釣鐘堂あり

○丹生淵

村の東にあり高さ三丈許直下して奇觀なり此所丹生明神曹鎮座ありし故丹生淵といふとそ

○熊瀧

丹生川の下にあり

紀伊續風土記卷之四十六

伊都郡第五

隅田莊 須陀 總二十一箇村

隅田莊南北總て二十一箇村東は大和國宇智郡と界し西は相賀莊に接し南は相賀富貴の諸莊高野に接し北は河内國錦部郡に接す幅員東西一里半許南北三里餘此莊及相賀莊は古の賀美郷の地なり賀美は上の義にして此地紀川上にして郡の上頭にあり故に名とす隅田は古くは萬葉集に角田川原と出たり粉河寺縁起に寛平元年の事を記して隅田莊の名あり是莊名の物に見わたる始なり隅田の名義を考ふるに郡中の東北隅にある地なるより起れるにて隅田アミタと書を正義とすへし今須駄と唱ふ此莊紀川に跨りて南北を以て稱す南を河南郷といひ又隅田南莊といふ高野山藤弘安八年文書北を隅田河北莊といふ利生護國寺河南郷又上田郷の名あり上田古名なり事は又北莊を二分して山郷中筋の稱あり中筋は河南山郷の間をいふ大和街道筋より出たる名なりその稱寶徳の文書利生護國寺藏にあり山郷は山手の方をいふ此莊紀川を挟みて岸高く四

紀伊續風土記 卷之四十六 伊都郡 隅田莊

方稍開けて平田なり故に隅田上田等の名あるならん國界に至りては南莊は谷奥深只野戀野三箇村は大和國峯奥深田殿火打三箇村と對し其中間細き谷川ありてこれを界とす北莊は上原平野二箇村は大和國畑田木原二箇村と對し其中間信土川を以て限とすこれ今の國界なり古の界は是と異にて大抵山峯を以て界とせり北は葛城峯三國界より起りて南の方信土山にて山岡相連りて長堤を築きし如し其山の背を以て界とす紀川の南山岡又南北に連りて堤の如く富貴村高野に至りて折れて東に突出る事一里許にして南の方に折れて筒香莊高野に至るかくの如く山脈自然連續してこれを以て國界とせり然るときは今大和に隸する峯奥深田殿畑田木原の四箇村皆紀國の領内にして隅田莊の隸村なり畑田木原二箇村隅田莊に隸する事葛原氏隅田地頭職補任狀に出堀原村葛原氏藏正文書峯奥深田殿は名義を以て證とすへし詳に只野村中世の後に以來強弱相争ひ遂に大和國より隅田莊の地を押領せし者ありしに慶元建業の後これに因襲して國界を分ちしより今の姿とはなれるなるへし此莊を領するもの古の事詳にしかたし中世以來葛原氏隅田地頭職に補せられ世々此地を領し宗族蔓延して或は隅田黨と稱し或は隅田一族と稱し其黨二十

五人あり或は三十一人ありて隅田莊中を分ち領せしなるへし元和 封初に至りて二十五人の内十五人を撰ひ給ひこれを隅田組地士といひ俸米各三十石を賜ふ其詳なるは下隅田黨一條及境原村葛原氏の條下に出せり

○隅田黨

莊中著姓數家あり此を隅田一族といふ其古書に見ゆるは太平記に元弘三年五月隅田高橋を兩六波羅の軍奉行として四十八箇所等并に在京の人畿内近國の勢を合せて天王寺へ被差向し其勢都合五千餘人云々遂に楠の爲に打負け五千餘人の軍兵残り少なに被差打成一追々京へそ上りける其翌日何者のしたりけん六條河原に高札を立て一首の歌をそ書たりける

渡邊の水いか計り早ければ高橋落ちて隅田流るらん
又近江國番崎宿蓮華寺過去帳曰元弘三稔癸酉九月九日於近江國馬場宿米山麓一向堂前合戰討死自害交名荒々注
文事此合戦の事詳に太不記に見ゆたり高橋參河守時英同孫四郎業時同又四郎範時同五郎盛時同孫四郎左衛門元時隅田左衛門時親同孫五郎清親同藤内左衛門尉八村同與一真親同四郎光親同五郎重親同新左衛門尉信近同孫七國村同又五郎能近同藤三國近同

西山喜右衛門 吉田 佐市 中島村 野口 太郎
竹田 竹藏 上田 太次郎 中島村 堀坂仁右衛門
平井九左衛門 惣野村 宇生嘉右衛門 莊大夫
境原村 平兵衛 上兵庫村 總兵衛
其傳は各其家の條に詳にす

境原村

左邊比叟良 小名 湯屋野谷

田畑高 百七十六石三升二合
家 數 四十七軒
人 數 百五十九人

相賀莊細川上村の東十一町にあり村名相賀隅田兩莊の界にあるより出つるなるへし小名湯屋野谷の湯屋は浴屋の義なり湯屋産屋等を村端莊端に置くは昔の風俗なり

○小 社 龍神 辨財天 社地周四十間
○小峯寺 寶雲山 法蓮院 境内 東西七町 南北一町半

眞言宗古義京仁和寺末
本堂 僧坊 觀音堂 護摩堂
行者堂 大師堂 鐘樓

三郎祐近云々又島山記曰永正十六年己卯三月紀州高野の寺僧隅田一族と領分を爭論し上田又四郎を追崩し其勢三千餘騎吉野川を越ゆる隅田の高橋までを攻入ける是によりて岩倉の城より隅田藏人葛原三郎兵衛尉松岡右京進傳井五郎左衛門尉等三百餘騎にて討て出て相戦ふ云々詳に下邊井村岩倉城の條下に出つ又天文二十三年利生護國寺に於て隅田黨誓紙あり其列名三十一人あり又永祿天正の頃隅田二十五人の稱あり島山家に屬し生地贊川根來湯川等と同じく屢軍功あり三好實休と久米田鬨戰の時隅田二十五人一樣に後光の指物を指す一族幕の紋は摺麥なり島山滅亡の後信長公に屬し軍功あり 封初隅田二十五人の中十五人召出され各三十石を賜ひ隅田組といふ
隅田 久兵衛 堀坂 茂兵衛 松岡 右京
隅田作右衛門 野口角右衛門 堀坂仁左衛門
生地 傳兵衛 隅田 三助 野口 七兵衛
竹田仁右衛門 西山 喜八郎 上田傳右衛門
島 孫之丞 那賀 津田 市兵衛 日高 平井九左衛門
右十五人の内或は斷絶し或は藩士となり本系支派さまざま變革ありて當時隅田組と唱ふるもの十四家あり
中道村 上田傳右衛門 松岡四郎左衛門 隅田作右衛門

村中により役行者の開基にて山臥の行所なり古は寺中五坊尾崎坊西之坊中之坊南之坊東之坊ありし由天正の兵火に罹りて堂舎齋記等皆灰燼となり寺の來由詳ならず古き寶篋印塔二つ十三重の石塔あり字体見分きかたし末寺五箇寺あり村中東光寺細川上村阿彌院大福寺柱本村橋樂寺寺傳に小峯寺とは大峯に對せし名といふ信否知るへからす其餘傳説あれども皆後の附會と見ゆ

○東光寺 眞言宗古義村中小峯寺末
○舊家 カサネ 葛原平兵衛

隅田一族の本家にして其祖は鎌足公二十六代の裔散位藤原忠延といふ文永五年系圖并正安元弘弘安永仁頃の感狀建久元久建保頃の文書數十通古券の類數百通を傳へたり古文書部又文書の宛に隅田三郎左衛門尉殿隅田葛原殿などあり世々隅田莊の地頭職にして隅田八幡宮の俗別當職を兼たり楠正成と合戦して功名を顯したる由の感狀もあり亦天文の誓紙に葛原忠といふあり亦此家の祖なり慶長十五年九月其祖葛原與一兵衛といふ者死す其墓村中にあり來國秀の鎗を持傳へたり又葛原の祖 朝廷の命を受けて 禁中にて三面の狐を討し事ありといふ文書あり其狐の尾なりといひ傳へて今尚傳へたり村中に文右衛門といひし者あり葛原の本家といふ家斷絶す平兵衛は其同家なるより葛原の嫡流といはれり

杉尾村

須藤乃遠

田畑高 百十五石三斗五升二合
家 數 二十八軒
人 數 九十六人

境原村の北二十町許にあり山谷の間に在りて家居散在す四面に山環合して其底にあり永享の文書葛原にすみの尾村とあり明徳の文書利生に炭尾とあり慶長檢地帳にも墨尾村とあり山谷の隅にして山の尾筋より出たる名なるへし今の村名は後に轉せしなり村の乾六町ばかり鳥屋の谷といふ所に瀧ありなれ落る瀧なり夜々此瀧にて雞の聲ありといひ傳ふ其西の側に又高さ三間許の瀧あり何れも水多からず

○小祠三社

辨財天社

社地周十四間 寺の左にあり

八王子社

社地周十四間 村中にあり

大將軍社

社地周十四間 村中にあり

○明王寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村中にあり堂下は除地なり長祿三年の棟札あり鎮守春日社あり

霜草村

志毛久左

田畑高 二百八十五石二斗六合
家 數 四十五軒
人 數 百六十六人

境原村の東十一町にあり建仁の文書澁草とあり葛原澁草は其地に生ずる草の澁味あるより起りしなるへし當郡高野領ふ所あり葛葉集に水澁といふ事見 當村は烟草を名産とす土宜に能はたり水のさひたるをいふなり 應すと見わたり村中に地藏堂ありその前の田に作るを尤賞

○辨財天社二社

一社は村の東にあり一社は村中にあり皆除地なり

○寶幢寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末 村中にあり堂下除地なり

○地主

堀内與十郎

山内村

也麻字知

田畑高 七百四石三斗一升七合
家 數 百八軒

紀伊續風土記 卷之四十六

伊都郡 隈田莊

霜草村

山内村

平野村

○不動山

明王寺の後の山なり女人結戒の地にて申の時を過れば人登らず山臥の行所なり上り六町樹木茂密木葉道を埋め石角樹根を攀ちて漸に登るへし巔に大石磊落として或は丈或は五六尺重疊錯落縱橫正斜其狀縷形すへからず石根多く地を離れ人力を以て運ひ置くか如し竹を以て其空隙を探るに其深さ知へからず頂より乾に當り山脚までの見通しに大石錯置して是も人の置くか如し一奇といふへし相傳ふ役、小角葛城より金峯山に石橋を架けんとして一夜に石を此處に集め葛城の神をして是をなさしむ葛城の神夜のみ出て晝は出さるにより橋ならずして石を集めしはかりにてやみし跡なりといふ葛城の石橋の事は靈異記并袖中抄に詳なり金峯山にもありといふ頂上大石の指出たる下に三社あり不動金剛童子八大龍王を祭る社地周十七町明王寺の奥院といふ

○舊家

新右衛門

杉尾村を開發せし家なり弘安年中葛原三郎兵衛尉忠長より興へしといふ太刀を所持す其外古き物を傳へしに近年火災にて盡燬すといふ

人 數 四百二十七人

霜草村より良の方十町許にあり當村平野にて四面山ありて一區域をなす故に山内の名あり田畑并に戸口多く此邊の大村なり

○辨財天社

社地周十五間 村中にあり

○岨明神

村の西の小山にあり古松を神とす西の二丈枝皆地に付けり

○東覺寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村の北にあり境内に八大龍王社葛城明神社あり高野葛城先達の行所なり又痘神社あり

○壽福寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末 村中にあり

○安樂寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末 村中にあり

○地藏堂

村の東端にあり

平野村

比良農

田畑高 二百二十九石一斗九升一合
家 數 三十二軒
人 數 百人

山内村の東十三町許にあり和州木原村と東西細川谷を隔

て、人家相對す

○小祠二社

辨財天社 社地岡六十四町村中にあり一村の氏神なり 牛頭天王社 社地岡八十町村中にあり

○時光寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末 村中にあり

上夙村

迦美自由久 小名 小平

田畑高 百八十六石八斗三升七合

家數 四十二軒

人數 百二十五人

平野村の南十九町許伊勢街道にあり東は大和の畑田村と界す慶長檢地帳に宿村とあり加勢田莊下夙村に對して上夙村といふ名義名草郡夙村の條に辨す街道にある十四軒は高治年中 官より造らしめ給ふ所なりといふ村の南端切通しをなし道を通す是を戸立山といふ村中に膏藥を賣買す不動石下への邊巖下の清水を汲みて煉る弘法の加持水といふ不動石の西の山を神倉山といふ其邊に車越といふ所あり稱徳天皇神龜行幸の時御車の越ゆし所といふ意ふに古道は此邊に有しならん戸立山より西往還に小坂あり大越峠とい

ふ坂の南に粉河田といふ田あり粉河縁起に觀音の佛供田なる由をのせたり今に年々此田より作り出せる米三升を粉河に寄す昔の餘波を遣せり小名小平は大越峠の南にあり

○極樂寺 淨土眞宗和州蘇我村光專寺末

村中にあり本堂中堂あり堂下除地なり

○慈願寺 淨土眞宗西派海部郡和歌浦性應寺末

小名小平にあり堂下除地なり

○待乳峯城址

島山記に天正九辛巳年八月織田信孝高野攻の時志貴若木源右衛門といふ者高野珠徳院に従ひて待乳山に出張し出城の大將となり戦功を顯すといへども終に敗走し待乳の出城より高野へ引退くとあり

○戸立山 前に出

○待乳山 待乳川 角田川 鹿嶋

待乳山今大和に屬す 紀和の界古今の別ありて所謂信土山は古は兩國の地大和守野郡に屬するより後入古今界の別なる事を知 待乳川は今の堺川なり平野上夙の間紀和の兩山相迫りて中間僅に一帶の流を通す其兩山相迫る處兩岸奇巖錯立して目を驚かす奇觀なり鳥帽子岩のそき石不動石などいふ名あり 不動石は岩に不動な彫付たり弘法の作

いひ 川底の岩石敷か如し堺川紀川に合流の所古道あり今傳ふ 往還より南の方紀川に傍ふ角田川は堺川合流の所より相賀莊妻村領鳥帽子岩までの間岡田莊中紀川の流をいひて別に川あるにあらず 或は今の堺川の事すれども堺川は萬葉集に見ゆる待乳の山川にて岡田川原なといふへき川原にあらず疑 庵崎は芋生村の條下に辨す

萬葉集一 大寶元年辛丑秋九月 太上天皇幸于

紀伊國時歌

調首 淡海

朝毛吉木人乏母亦打山行來跡見良武樹人友師母

同 三 辨基歌

亦打山暮越行而處前乃角太河原爾獨可毛將宿

同 四 神龜元年甲子冬十月 幸紀伊國之時爲贈

從親人所誦娘孀子堂朝臣金村作歌一首并短歌

天皇之行幸乃隨意物部乃八十伴雄與出去之愛夫者天翔哉
輕路從玉田次敵火乎見管麻裝吉木道爾入立眞土山越良武
公者黃葉乃散飛見乍 親 吾者不念草枕容乎便宜常思乍公
將有跡安蘇蘇二破且者雖知之加須我仁默然得不在者吾者
子之往乃萬萬將退跡者千遍離念手婿女吾身之有者道守之
將問答乎言將遣爲便乎不知跡立而爪衛

同 六 石上乙麻呂卿配土左國之時歌三首の中

紀伊國風土記 卷之四十六 伊都郡 岡田莊 上夙村

同 九 大寶三年辛丑十月 太上天皇 大行天皇幸紀

伊國時歌後人歌二首の中

同 七 羈旅作

白袴爾丹保布信土之山川爾吾馬難家戀良下

同 十二 寄物 陳思

椽之衣解洗又打山古人爾者猶不如家利

同 羈旅 發思

乞吾駒早去欲亦山打將待妹乎去而速見乎

同 新千載集別題 不知

誰よのそやどり我ぞとん待乳山

夕越行とふ人も恥し

後撰集雜四 遠冠國よ待る人我京にけりありと聞て

あひ侍にほうてき恥あらととささりおせと

とみ人去らそ

いしゆるを待乳の山の櫻と恥

待てどもとそにさくのか恥しき

拾遺集卷二 題まらば 讀人まらば

みか人夜はゆち山乃時鳥

お暇し心よ音こそ暇あるを

新古今集秋上 題まらま 小野 小町

誰をを待乳の山れをみ暇へし

秋と契れる人そあるらし

同 戀二 戀歌せて 太上天皇

ふれめそ之人をまつち山取りと

ふ暇まし物をいさよひの月

新古今集夏 題まらば 天曆 御製

かく計待乳の山れほどよきま

心えらてやよそよ鳴らん

同 戀二 題まらば 鎌倉右大臣

我せこ夜はゆち山の葛の侍ら

たまさるよよよくるよしもの暇

新古今集 百首歌奉りし時待花 前攝政左大臣

咲やらぬ花をまゆち山れ端に

人たれめなる春の白雲

芋生村

伊毛布

田畑高 三百七十八石七斗六升九合

家 數 三十一軒

人 數 百十人

上夙村の西南五町許往還の南にあり村中紀川に添ひて古道あり萬葉集庵崎の角田川原の歌ありて庵崎の地今詳ならず按するに當村の芋生は伊保の音便に轉せしならん然らば庵崎は庵村の出崎の義にて今村領に紀川へ突出たる崎あるをいへるならん此地芋のよく生ずる處なれば村名さなるをいへるならん此地芋のよく生ずる處なれば村名さなるをいへるならん中に青木の太木あり本口九尺八寸廻りを青木の森といひ八幡宮御宿の由申傳ふとあり其青木今はなし

○隅田八幡宮遊觀所 東西三十四間 南北十四間 除地

村の西往還の南二町にあり隨身門あり松、大樹一株あり

○小祠三社

辨財天社 三社村領にあり 社地皆除地

○東光寺

境内周四十六間

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村中にあり

○石佛

紀川の流れの中にあり佛鉢を彫りたる石なり高さ九尺餘なり

○舊家

竹田氏

隅田一族の内なり

垂井村

多留草 小名壇

田畑高 二百六十九石六斗四升二合

家 數 三十九軒

人 數 百十六人

上夙村の西十町餘にあり村領に岩倉池といふ大池あり村居其堰口にあり垂井の名は其池水の滴るより出づ明德三年文書利生護國寺藏に隅田、北莊に宮脇といふあり此村の事なるへし小名壇といふ八幡宮の境内なり慶長檢地帳に宮之壇村として一村とす

○隅田八幡宮 境内東西二町 南北四町 禁殺生

本社三間 拜殿 樓門 御供所

神輿藏 透廊 鐘樓 僧座

神子座 三重塔今廢りて礎あり 三昧堂

經藏 護摩堂

末社十八社

若御前社 松童社 加和羅社

今宮 八王子社 四所明神社

若一王子社 武内宿禰社二社瑞籬の内 外にあり

八島社 衣比須社 客人社

邊津意社 春日社 辨財天社

猿田彦社 岩倉明神社

辨財天社 以上三社 外にあり

伏拜所 遊觀所 二所本社より南の方にあり伏拜所より本社まで三町といふ其間馬場なり

村の西南にあり莊中十六箇村の産土神なり 神功皇后 譽田皇子と共に衣奈浦より大和國に趣かせ給ふ御道すから此所に暫御滞留まし、地なる故に後世其遺蹤に入幡宮を勸請し奉りしなるへし境原村葛原氏の祖此八幡宮の俗別當職に補せらる長治以下の補任狀數通あり社傳にいふ應保元年空山上人鶴岡八幡宮を勸請すとて勸請板といふものを傳へたり此を勸請板といふは誤にして此時祭事等の式を鶴

岡の例に倣ひたるよりかく誤り傳へしならん舊は七堂伽藍の社堂備はれり今阿伽井放生池等の跡あり隅田、地頭職を俗別當に補任せらるゝを見れば其盛なる事を知るべきなり永祿元年松永彈正當所を略せし時社頭堂塔を焼きしといふ然れども今も尙十六箇村の氏神なれば古には及はされども社頭の壯麗は他の宮の比すへきに非ず古文書三四通あり神寶古鏡一枚あり千數百年を經し物と見ゆ背面に文字四十字餘あり朝鮮の文字も交れり文義通しかたし寺家の説は 皇 后三韓にて得給ふ鏡なりといひ傳ふ或は武庫山より奉納せしなりといふ

- 別當 大高能寺 高尾山 三王院
- 本堂 藥師堂 觀音堂 僧坊

八幡宮境内にあり眞言宗古義京仁和寺末なり末寺二十一箇寺あり

- 阿彌陀寺 垂井村 東光寺 芋生村
- 中光寺 中下村 圓光寺 中島村
- 清光寺 上兵庫村 地藏寺 下兵庫村
- 西光寺 河瀬村 念佛寺 下田村
- 東光寺 赤塚村 福王寺 野村

- 阿彌陀寺 須河村 總福寺 彦谷村
- 光明寺 谷奥深村 西福寺 只野村
- 時光寺 平野村 東覺寺 山内村
- 安樂寺 山内村 壽福寺 山内村
- 明王寺 杉尾村 寶幢寺 霜草村
- 不動院 相賀莊細川上村

- 神主 中島村 猪西 左内 大禰宜 一人
- 禰宜 一人 神子 一人
- 供僧 六人 乾之坊 中之坊 角之坊 壯之坊 磨之坊 新之坊
- 宮使 一人 承使 一人

○阿彌陀寺 眞言宗古義大高能寺末 村の西端にあり

○岩倉池 村領にあり應其上人の穿る所にして隅田、大池といふ池水六箇村に掛る莊中葛城の水皆此池に落つ

○岩倉城址 其所詳ならず島山記に曰永正十六日卯年三月高野僧徒隅田一族と領分を爭論す上田又四郎一度追崩し其勢三千餘騎吉野川を越り隅田の高橋まで攻入ける依之岩倉の城より隅

田藏人葛原三郎兵衛松岡右京進榎井五郎左衛門尉三百餘騎

にて討て出散々に相戦ふ終に討負引退岩倉を攻動す事烈火の如くなりといへとも隅田一族堅く守り旬日を過ける間島山植長より平大隅守國春高坊太郎左衛門義順を遣され雙方喫ひに成るとあり疑らくは中島村霜山の城の事ならむ

○舊家 地士 隅田 半右衛門

隅田組一族二十五人の一人なり其家傳に鎮守府將軍藤原利仁の裔にして世々河内國高見東代新郷といふ所を食邑とす天文年間傳三郎といふ者松永彈正の爲に邑を失ひ隅田一族に縁を求め當村に移る天文の誓紙に新俱氏といふあり此人ならん元龜三年又彈正襲ひ來り傳三郎討死す其子を市兵衛といふ隅田の一老となり隅田と稱し隅田旗頭となる相賀莊細川村長敷城に移る 封初久兵衛三郎作右衛門兄弟三人隅田組地士に 命せられ三十石宛を賜ふ島山秋高の感狀を持傳へたり 古文書部に出す

中島村

奈連百麻

田畑高 四百九十一石七斗四升一合

家 數 六十五軒

人 數 二百五十六人

垂井村の坤五町許にあり紀川と岩倉の川との間なれば古は中島の形ありしならむ

○隅田入幡宮伏拜所

八幡宮の正面に當り往還の北にあり

○圓光寺 眞言宗古義垂井村大高能寺末

村の西にあり境内に辨財天小社あり社地は除地なりもと別區なりしを寺へ取こみたるならむ

○霜山城跡

村の長の方にあり東西八十間南北五十四間高さ十間堀廣さ五間深さ二間本丸二、丸の姿今に残れり今は林山となれり島山記に曰永祿戊午年九月隅田一族番城云々同十一戊辰年十月遊佐勘解由左衛門尉直基島山秋高を迎へ奉り伊都郡垂井村の北岩倉池の西下山の城に入れ奉るとある下山城是なり里人唯島山城跡といひ傳ふ城跡の少し東に岩屋と稱するものあり古墳なり

○舊家 地士 花園 増右衛門

其祖を隅田孫四郎といふ隅田二十五人の其一なり隅田の食

邑河州に多し河州花園村に陣屋を構へ一族順番に詰む孫四郎在番の時一族知行没せらる孫四郎此より花園村に住し遂に花園と稱す後當村に來り代々地士となる島山氏等の感狀文書七通を持傳へたり古文書部に出す

地士 野口國太郎

隅田一族の一人なり天文の誓紙に野口澄秀とあるは此家の祖なり其孫角右衛門 封初三十石を賜ふ後地士となりて代々當村に住す

地士 塙坂 仁左衛門

隅田一族の一人なり其祖を塙坂出雲守といふ當郡名古曾村に住す天文の誓紙に塙坂出雲秀とあるは此人なるへし其子小右衛門中下村に住す其子孫兵衛より當村に住して二子と共に大坂に籠城す後 封初の時三十石を賜ふ

中山莊大夫

隅田一族の一人なり舊は戀野村に住す今に土居と唱ふる地あり明和中當村に移る天文の誓紙に中山貞とあるは此家の祖なり一空といふ人の文書を藏ひ古文書部に出す

中下村

智字牙

田畑高 百九石八斗四升六合

家 數 二十九軒

人 數 八十九人

芋生村の西五町許にあり村の名義詳ならず或は村中多く中田下田にて上田なし故に中下村といふといへり恐らくは鑿說ならん隅田八幡宮の文書に祭料を擧げて中村より十貫下村より十貫とあり今隅田の中に中村下村なし古二箇村なりしを一村として音にて中下と呼ひしならん

○小祠二社

山王社

社地周三十間西の森といふ所 辨財天社 社地周十八間東の森といふ所

○中光寺

境内周四十六間

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村の北にあり

○高橋

村の西北に橋あり高橋といふ川を高橋川といふ岩倉池の水流紀川に落る所なり此邊に高橋判官居住せしとなり高橋

判官は平家物語に出たり太平記に隅田高橋とある高橋は此

所の人なるへし太平記の文に論の條に載す高橋椿とて花形の少しかはりた

る椿あり古は大木なりしか今は枯れて小木の椿を植ゑたり

○賣藥家

青木 利助

村中利助といふ者愈癩散といふ癩の藥仙命膏といふ切疵の妙藥などを製して諸方に賣出す利助の先祖應其上人岩倉池を穿るに頭取世話す因りて上人自筆の書翰を贈る家に傳へたり又其家に靜の舞の衣裳の切なりとて錦の切を藏む又寶珠舍利あり是は弘法能作生といふ

上兵庫村

迦美比也字矣

田畑高 百五十五石三斗二升六合

家 數 十六軒

人 數 五十七人

中下村の西四町半街道にあり村の名義下兵庫村に詳なり

○清光寺 境内周三十八間

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村中にあり

下兵庫村

志毛比也字矣

田畑高 六百六石九斗六升九合

家 數 八十六軒

人 數 百六十八人

上兵庫村の西の方往還にあり正安の文書に利生藏國寺藏西兵庫とあり上下二村舊は一村にて古き文書には唯兵庫村とあり慶長檢地帳には兵庫村上兵庫村とあり然れば下兵庫は本村なるへし兵庫の名此地を領せし人名より出たるなるへし護國寺の傳へに下兵庫村は舊は寺地村とて寺の領地なりしといふ果して然りや否を知らず村の西端に關カケといふ小名あり家

○城跡

中島上兵庫兩村の間の岡山にあり長さ三町堀切等の跡あり村中惣兵衛といふものゝ先祖平野彌大夫同權平の居城といふ彌大夫權平は父子ともに大坂にて戦死す弟次郎左衛門古郷に歸り農民となる

○舊家

平野 氏

代々當村に住す事は城跡の條に出つ

數軒茶屋三四軒あり飯頭を製して關飯頭といふ

皆古佛にて殊勝なり佛畫數幅あり古の堂舎の跡今田地の内
に多くあり續むる所の文書悉く
古文書部に載す

○小祠二社

辨財天社

天神社 二社皆村中
りて除地なり

地藏寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末
村中あり

○利生護國寺 覺王山 利生院 境内高二十石除地外山林周二十一町

眞言宗律派南都西大寺末

本堂

方五間

釋迦堂

護摩堂

僧坊

庫裏

施餓鬼所 四町許

村の北にあり眞言律三十四箇寺の一にして行基菩薩の開基
なり行基 勅を受けて畿内に四十九院を作る護國寺其一な
りと古は兵庫寺といふ 古文書に 數百年の後伽藍坊舎悉く廢
見ゆ

し兵庫荒野芝といふ沙彌願心といふもの此地を知行し弘安

中當寺に寄附し最明寺時頼再興すといふ永仁六年關東祈禱

寺を三十四箇寺と定めらる本國にては當寺及び金剛寺妙樂

寺 寺傳 と三箇寺なり其定書に當寺を利生護國院とあり 南

朝の時代の 繪旨院宣其餘寄附狀等數通あり中古當寺隅田

黨の氏寺となり其黨の連判狀を傳へたり庭上に大樹の松あり

太閤駒繫の松といふ文祿三年太閤秀吉公高野參詣の歸路

此寺にて止宿ありしといふ本尊大日は行基の作其外釋迦像

河瀬村

加字是

田畑高 三百七石五斗八升六合

家數 二十八軒

人數 百二十五人

下兵庫村の西往還にあり古き文書には神瀬又高瀬とかけり
村居紀ノ川に添へれば河瀬の名あるならむ

○辨財天二社 並に村領
にあり

○西光寺 眞言宗古義垂井村大高能寺末

村の東にあり古き地獄の畫大幅五幅あり拙畫なれども三百
年も歴し物と見ゆ

下上田村

志毛字源款

田畑高 四百七石二斗四升一合

家數 四十一軒

人 數 百四十九人

下兵庫村の南四町許にありて紀ノ川を隔て、相對す上田は

其名古し靈異記に紀伊伊刀郡桑原之狹原寺の事を記せる

條に上田三郎といふものあり此地に住して其名あるならん

南隅田、莊を上田郷といふ其地甚高く相賀、莊とは格別に段

をなす故に上田の名起るならん下上田は上田郷の内の川下

にあるを以て下といふなり慶長檢地帳にはた、上田村とあり

り中道村高野山の寺領になりし時高不足にて此村より五石

餘其不足を補ひしといふ

○小祠五社

大將軍社

社地除地村
の坤にあり

八幡森

社地周八間村の東
にあり今社なし

入王子社

社地周八間大塚と
いふ所の西にあり

松尾社

社地除地村の
東端にあり

辨財天社

社地周二十四間
村の西端にあり

念佛寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村中にあり境内に八幡社あり社地は除地なり舊別區なりし
なるへし

○廢寺二箇寺

圓日寺跡

奥南寺跡

圓日寺は禪宗奥南寺は地頭小島壹岐守といふ人の菩提寺の

由なり兩寺廢せし時圓日寺の本尊は高野へ賣る奥南寺本尊
地蔵は今村中にあり
○小島壹岐守屋敷跡
村中にあり土居といふ此村の領主にして隅田の一黨なりと
いふ今泉州の陶器莊に移り住す名草郡山口の小泉與太夫は
此家より養子に往きしなりとぞ

久保吉之右衛門

赤塚村

阿連郡連

田畑高 三百五十五石七斗六升三合

家數 三十軒

人數 百十二人

下上田村の東十五町餘にあり村の名義詳ならず村中に土居
跡あり上田氏の下屋敷ならん又清水の井あり大師の加持水

といふ

○小祠八社

八幡宮二社

水神社

衣比須社二社

辨財天社

五大明王社

八王子社

以上八社村領に散在す

○東光寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村中に

○地藏堂

隅田八幡宮伏拝所にて除地なり

○古墓

村の坤にあり上田播磨守の墓といひ傳ふ

○地主

田中助三郎

戀野村

古比屋

田畑高 四百八十三石三斗三升

家 數 百五軒

人 數 四百三十五人

芋生村の川の南赤塚の東にあり名義詳ならず村の西端赤塚村との界に細谷川ありて其谷に掛る橋を糸の掛橋といふ又其所に通する道を糸の細道といふ中將姫當麻より在田郡に通へる路なりと云橋の東南に雲雀山といふ山あり其南十町許山中に中將倉といふ岩山あり中將姫の住みし處といひ傳ふ中將姫の事いふ事蹟を傳ふる其村の西に山王祠あり祠の側に藤の大樹あり樹七尺あり樹に一本あり樹三尺三寸橋の樹を覆ひて上に登る事幾丈を知るべからず藤の大樹のくまきほ他國

須河村

須賀字 小名 茶谷

田畑高 五十五石三斗二升四合

家 數 二十五軒

人 數 百四十五人

赤塚村の巽十八町にあり溪北に向ひ少しく潤けたり天文の

頃新に開きし村なり天文十九年上田家より須河谷を開くことを免す文書村中源五郎の家にあり須河谷は菅生谷の義にして山菅の生ひ茂りたる谷にてありしならん小名あり茶谷といふ

○川津明神社 社地周百間

村中にあり一村の氏神なり拜殿并に末社衣比須辨財天山神等あり

○小祠二社

明神社

八王子社 皆除地にあり

○阿彌陀寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

只野村

多野原

田畑高 七十六石一斗二升三合

家 數 十軒

人 數 五十三人

戀野村の東南十六町許にあり慶長檢地帳に田戸野村とあり谷の中にあり兩山對立して中間に谷川一條あり是を紀和の界とす村居谷に傍ひて散在す古は田殿と書す今大和に田殿

谷奥深村

多爾於夫池

田畑高 四十六石五斗八升四合

家 數 十三軒

人 數 五十七人

只野村の南二十四町にあり東は大和と界す慶長檢地帳には谷大深とあり名義谷尾深の義ならん只野より兩山の間一條の溪水に沿ひて谷奥深に至る溪中大和の地近年多く桃を種

村あり只野と相對して一細流を隔つるのみ舊は一村なり國界古と變りしより分れて二箇村となり文字を以て分らしなり

○川津明神社 社地周百四十間

村の南にあり本社尺四 拜殿末社等あり

○小祠三社

八王子社二社

辨財天社 三社皆除地なり

○西福寺

眞言宗古義垂井村大高能寺末

村の南にあり境内に古墓あり永祿中和州野原衆隅田の一黨高野山僧と合戦の所にして其時討死の人の墓といひ傳ふ此邊に熊立場といふ地あり

さて桃源の如し村居の兩面山益高く谷益窄りて藥研の底に居るか如く日光を視る事暫くの間なり大和の峯奥深村と相對す峯奥深村は田殿村と同様にして古は本國の地にして谷奥深村と一村なり谷の窮りは高野領の西富貴村にして細谷川下は只野を経て戀野と大和火打村との間に流れて紀ノ川に入る當村より彦谷村へ越ゆる峠を堀切といふ峠は十字街なり西に下れば彦谷へ行き南行すれば筒香なり北行すれば橋本なり牛馬通して道宜し峠より望めは四方皆峯にて波濤の重疊するか如く深山といふへし

○川津明神社

村の西南彦谷へ越ゆる山際にあり村中の氏神なり只野谷奥深彦谷須河四箇村皆川津明神を氏神とす本宮は峯奥深村にあり峯奥深大和領になりしより村々引別れて各村に祭り來れり

○八王子社二社

共に陸地にあり
眞言宗古義垂井村大高能寺末
村の西南にあり

○光 明 寺

村より登り十八町餘此邊の高山なり東南は寺領富貴筒香に亘る故に又筒香莊に出せり

○七後山

彦谷村

比古多爾 小名 峠 嶽

田畑高 百十九石二斗六升九合
家 數 二十一軒
人 數 百二人

谷奥能村の西二十五町にあり彦谷の彦は彦山彌彦山の彦と
同じ義にして響谷の義なるへし 萬葉集に山響の字をやまひこ
或は响をよめり谷中響と法せり俗にこたまさいへり新六帖に世の中に空し
き谷のひくくをばたれ山彦と名つけそめけんさあり彦の義此文にて明なり小
名峠嶽の二所あり

○川津明神社 社地周百四十間

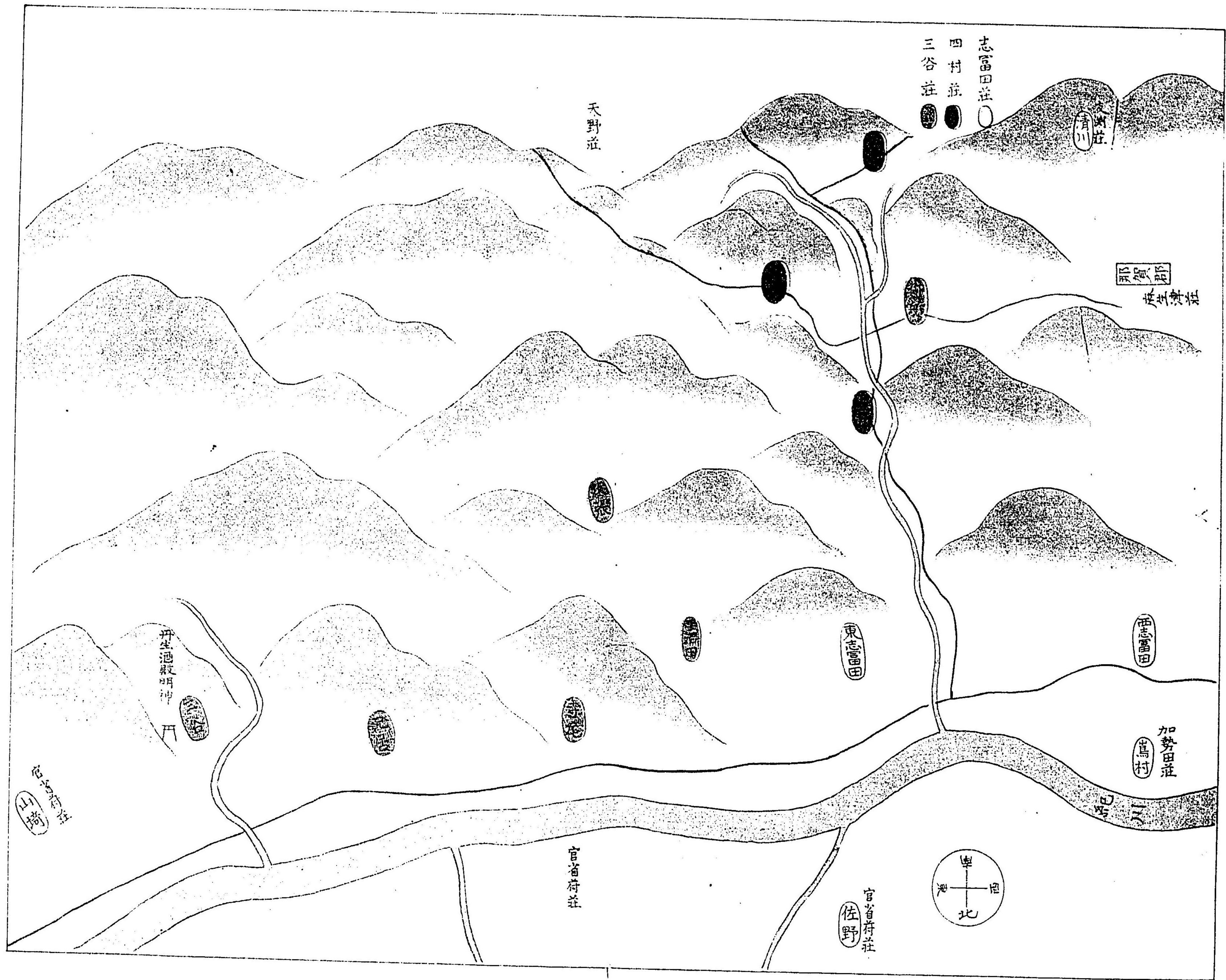
○總福寺 眞言宗古義垂井村大高能寺末

○舊家 上田甚五郎

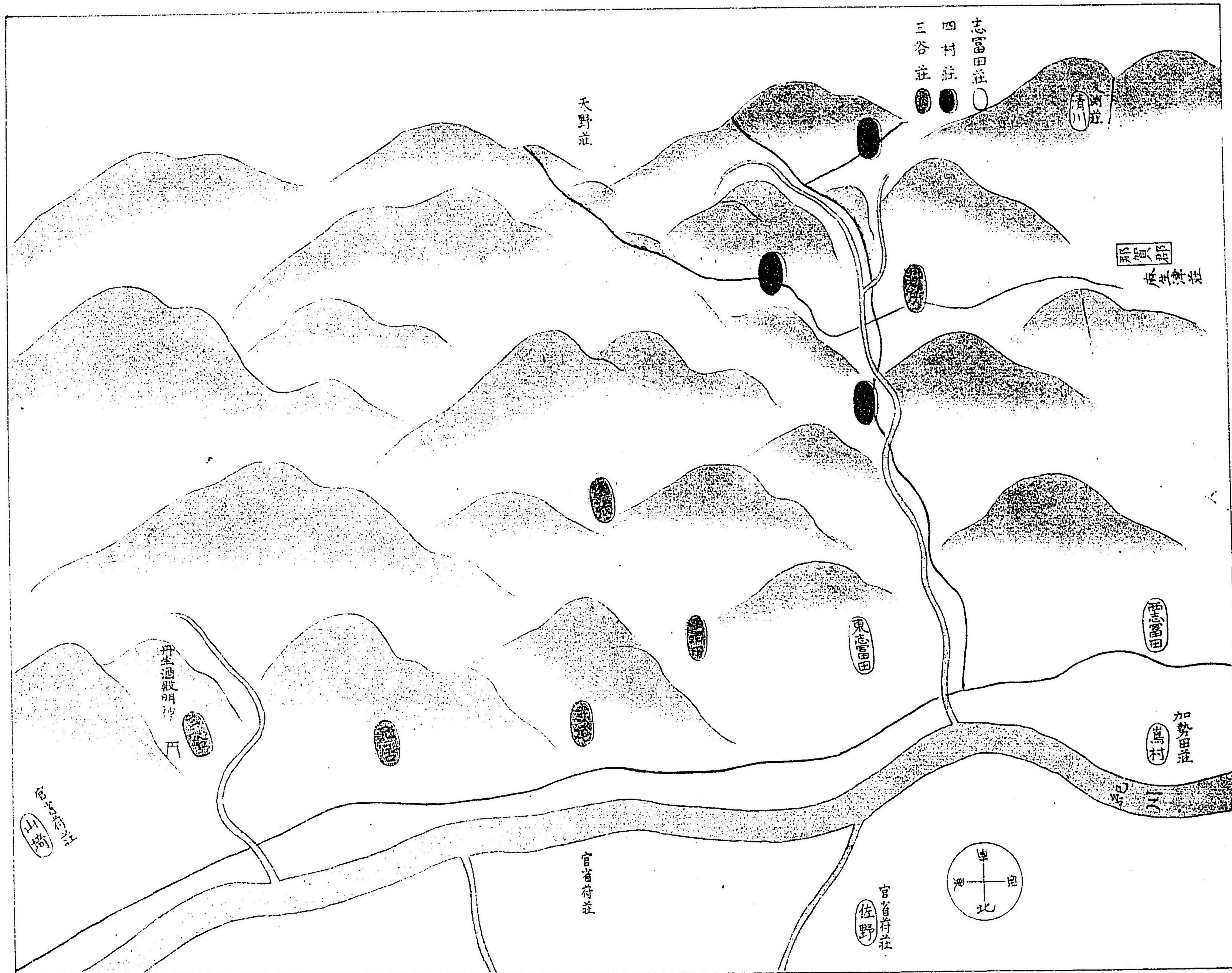
隅田組の一人なり武具等備はり持て調度なども多くあり

○舊家 地士 上田嘉重郎

文書を藏む 古文書部
に出す



日本書紀卷之四十四 大和國 葛城郡 葛城山



志富田庄
四村庄
三谷庄

天野庄

那智郡
麻生庄

丹生池殿明神

東志富田

西志富田

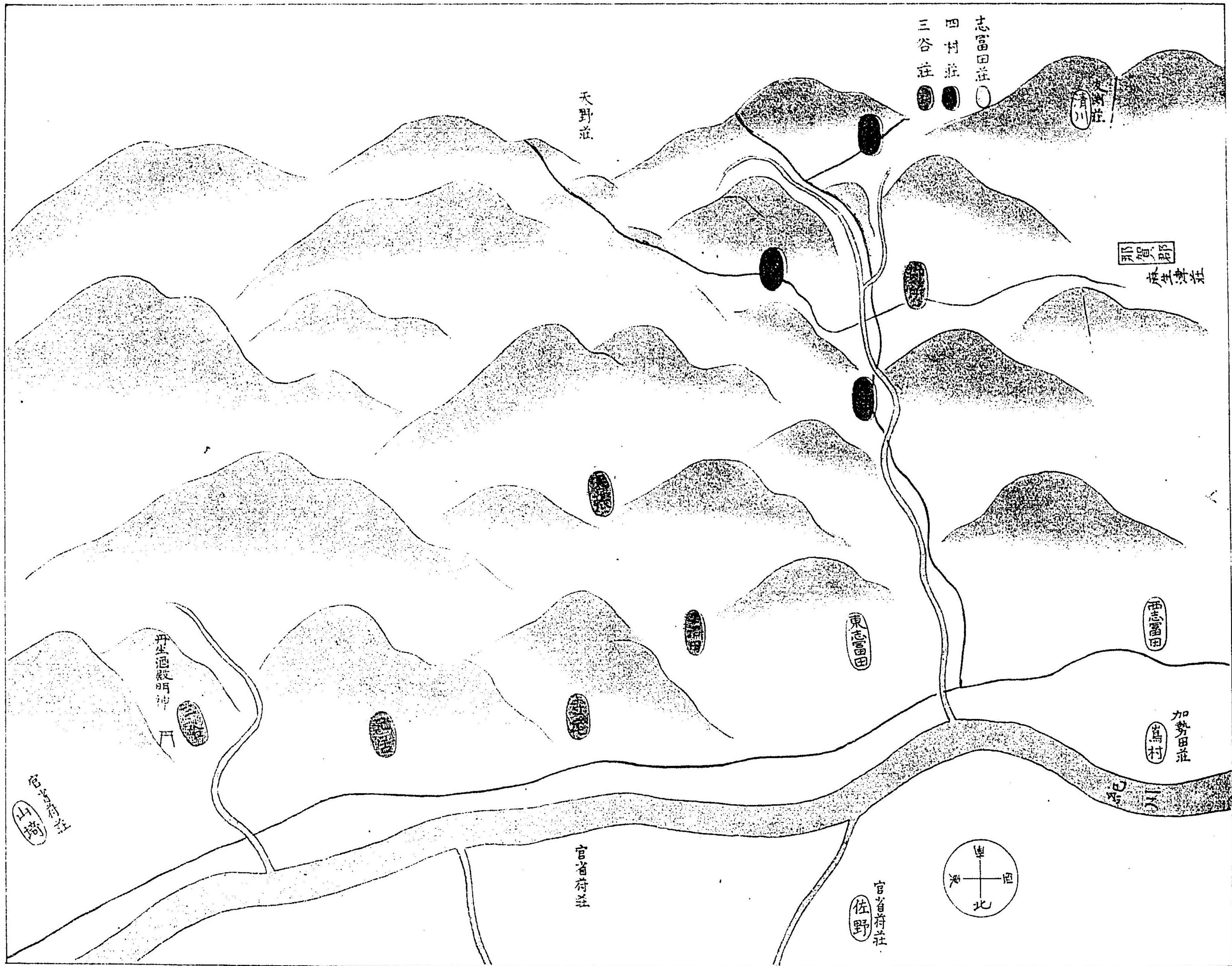
加勢田庄
葛村

官道符庄

官道符庄
佐野



山崎



紀伊續風土記卷之四十七

伊都郡第六 高野領

志富田莊 紫夫田 總二箇村

志富田莊總て二箇村東は平沼田村と界し西南は麻生津莊に接し南は皮張村及四村莊と界し北は紀ノ川筋及加勢田莊島村と界す其廣袤東西一里餘南北十二町許志富田は丹生告門に濫田邸乃御門代御田作給ふとある濫田にて古記多くは濫田と書す志富田と書すは建武四年の文書に始めて見はる志東富田氏志又康永二年の文書に志富田莊内字佐本谷云々志見たり天野社萬葉集に水濫シの語あり水のさひたるをいふ又隅田莊箱草村を建仁の文書に濫草村と書す并せ考ふるに濫田は田地のあくつよき田をいふなり志富田の文字に改めしは此村甚貧村なる故に訓同じきをとりて好字に改めしと里人いへり此莊天承元年より根來寺領となり後高野寺領となる谷川三あり一は南の方四村谷より流れ出て東西兩村の間を経て紀ノ川に落つ次は西村の西の方より出てともに紀ノ川に入る其西にあるを鬼ミ川といふ

紀伊續風土記 卷之四十七 伊都郡 志富田莊 西志富田村

西志富田村

爾志志夫田

田畑高 四百三十一石四斗三升一合
家數 七十九軒
人 數 三百二十四人

加勢田莊島村の南五町にあり村の西に橋あり重綱橋といふ
○若宮 境内周五十六間

本社 祀神 蟻通明神

末社二社 辨財天社 多聞天社

村の良二町餘にあり蟻通明神の説東志富田村の條に出たり

○小祠二社 社地周二十七間村の坤十町 大將軍森 におり社樹を祭る社なし

里神社 村の南二町半にあり祀神蟻通明神なり土人森田の翁 守と呼ぶ莊の氏神蟻通明神御休息の所なりといふ

○地藏寺 村の申の方五町半餘字白原といふ所 におり寺山一町に三十間陸地なり

○地福寺 村の戌の方二 町半餘におり

○長福寺 村の巽三町半餘に あり本堂僧坊あり

○慶寶福寺 村中におり古は七 堂伽藍なりといふ

○小堂二字

大日堂 境内周三十四間村中にあり

一宿地藏堂 境内周十六間村の西四町餘小名一宿といふにあり弘法大師一宿せし所なりといふ

○妹山

村の西にありて紀川の南の崖に臨み北の方兄山と川を隔て相對す東西打越八町許南北五町許頂上廣く平にして唯草叢生するのみ總て樹木なし兄山に對するを以て古人妹山と號つく萬葉集にせの山にたゞにひかへる妹の山と詠したる則是なり里老の傳へに昔雛子長者といふ豪富あり此山上に居住す故に雛子山とも長者屋敷ともいひ其下の川邊を雛子川原といふといへり 妹山は川の北より望む時は飯盛山の山頂にて別に屋敷と呼ぶを以て後人或は妹山はなしといひ或は川の中にある船岡山は即妹山ならんといふ説あり昔地形を畫にせざるは説なり按するに粉河寺縁起に曰伊都郡志富田村の豪富人宇大乃白貴三信於觀音ノ靈驗ヲ述ニ其住宅ヲ改メ草庵ヲ爲シ神會ニ見たり所謂志富田村の豪富は則此雛子長者の墓窟なるへし又淨土瑠の章曲に雛子の事を作りしと雛子の稱に取りしなるへし

○岩月山 廢寶輪寺の上の方にあり

○妹春井 八町にあり

○院墓 境内周四十四間村の東十三町山の上にある

○額墓

妹山の西糠塚山にあり院墓は織田氏高野責の時僧徒院號あるもの、戦死せしを埋みしならん額墓は其餘の戦死の者を

毘沙門社 辨財天社

衣美賀社 大黒社

八王子社

留主事社

村中にあり一莊の氏神なり蟻通明神祀る神詳ならず今按するに高野山藏ひる所の正應年間の文書に天野三之宮氣飯神社を書して蟻通明神とす然れば蟻通明神は即氣飯明神の別名なるへし毎年正月十一日御田植といへる神事あり神職福宜あつまり田植の状をなして米を誂く參詣の人これを拾ひ十五日の粥に入れ食して年中の邪氣を除くといふ二月十六日六月晦日八月十八日神事あり境内留主事社は神職の祖先を祀るといふ十月十一日は留主事祭と稱し專此社の祭をなす瑞籬の内に自然石を雕みて高麗狗とするあり高さ五尺許なり小兒兩足の間をくゞれば疱疹からしといふ本社は北四十間許に遊觀所あり前に周圍一丈八尺の杉樹あり又周圍一丈三尺許の大藤樹あり花の時甚奇觀なり又櫻の大樹あり神主井瀬川氏あり

別當

神宮寺

氏神の側にあり本堂釣鐘堂僧坊等あり

○大將軍社 社地周五十間村の西二町許山上にあり

○釋迦寺 境内周四十間村の西にあり

埋みしや或は敵の首を埋みしならん 額墓はわが又ひたひと加して首をいふなり

○天澤 院墓の長にあり

○舊家

地士 奥田喜太郎

家系詳ならず正和の文書三通を藏む古文書部に出せり

○地士四人

宇治 貞右衛門

湯淺 清右衛門

森田 勘右衛門

森岡 兵左衛門

東志富田村

比賀志志夫多

田畑高 四百八十五斗八升一合

家數 七十軒

人數 三百二人

西志富田村の東にありて村居接す

○蟻通明神社

境内周八町餘

本社 尺方九

末社四社

○儀覺寺 境内周五十間村中にあり

○現福寺 境内周四十四間村の東にあり

○西方寺

○金折寺

○觀音寺

○西明寺堂

○清譽庵 以上各村領所々に散在す

○廢滿願寺 升形山

村の西二町許山上にあり今藥師堂一字のみ存す境内南に向ひて深あり四村谷といふ四村莊の水此に來る藥師堂の東二町許に大岩高く聳わたるあり岩邊に升形あり其傍に大師の石像を安置す此地眺望最よし下に三重のなたれ瀧あり一の瀧の底に高麗狗あり蟻通明神前の難狗といひ傳ふ

○雅真僧都墓

村中にあり弘法大師の法孫なり事は高野山の部に出たり

○鞍出淵

紀川筋にあり崖際水中に長に向ひて穴あり周四間許深さ知るものなし土人いふ昔人天野の魚板淵にて馬に水飼ひしに馬過ちて淵に沈む其鞍此所に出つ故に鞍出淵と名づく

いふ此穴に五尺許のスツル隙ありといふ

○舊家

志富田氏

元祖は兵衛太郎といふ當所の領主なり建武の頃 南朝に屬せしか足利家より 南朝を討奉るへしとの御教書あり下文に出せり外に 後醍醐天皇宸筆の色紙畠山修理大夫より與ふる雪舟の墨畫、屏風守國の刀月山、刀等を藏む天正中より土民となる宅地東西一町南北一町餘あり子孫今荒川莊に移る

廢帝御坐河内國之間凶徒可被内通紀州之由有共聞早屬畠山阿波次郎殿馳向且構要害差塞道候上可誅伐凶徒之狀如件

建武四年正月二日

判

志富田兵衛太郎殿

○地士

久保田民右衛門

四村莊

興平編 總四箇村

四村莊總て四箇村周僅に三里許一の小溪にて志富田莊の南にあり東は天野莊に接し西は友淵莊及那賀郡麻生津莊に界し南は志賀莊に界す三面山を負ひ北の方開けて其溪流志富田莊兩村の間に注ぎ紀川に落つ四村莊の名は村數によりて名つくるなり星山星川は莊中の本村にして其名此地の大名家なり里人の傳へに昔星墜る事ありしより起りて上に在るを山とよひ下にあるを川と名つけしなり此地即丹生、祝文に出づる丹生の社地の西界及御手印縁起載する所高野の四至に西界星川とある地即是なり莊中に墓所なく又火葬を禁す傳へいふ莊中往古は丹生明神の神職の者の居地なりといふ

星川村

保志編

田畑高 百石三斗四升一合

家數 二十九軒

人數 百三十八人

志富田村の南尺町にあり村名始めて嘉祿三年の文書に見ゆ天野村居谷川を隔て東西に分る名義星山村の條に載す

○八王子社

境内周四十間

本社 方五尺

丹生明神 合祀 高野明神

東星川の谷の端にあり一莊の産土神なり下の八王子に對して上八王子といふ境内に觀音堂あり天文十二年元龜二年同三年の棟札あり昔より社事嚴に執行ひしと見ゆ神主を久保氏といふ御所村に住す

別當

神宮寺

宮の境内にあり寺に虚空藏あり當社の本地佛なりといふ

○八王子社

境内周六十間

本社 三原五尺 三尺五寸

丹生明神 合祀 高野明神

上の八王子社より一町半許下谷の西にあり又一莊の氏神なり上の社に對して下宮といひ又右宮ともいふ上の社の境内にある觀音堂は當社の本地堂なりといふ按するに上下二社祀神今一神なれども祭日異なる上宮は九月十三日六月十三日午の日本地佛の異なるは舊は同社にあらざるならむ相傳ふ往古は專當社を氏神とせしに大水にて社流失せしより上の八王子を氏神とすといふ往古は當社は異神を祀りしに後世

八王子を莊の氏神とせしより亦八王子を舊の氏神の地にも建立せしならむ今の本地佛と祭日とは舊の氏神の遺事なるへし

○八幡宮

境内周二十四間

西星川にあり一村の氏神なり

○大福寺

東星川にあり本堂僧坊經藏等あり寺より三町餘末の方高き所に感應山といふ伽藍趾あり夫より三町許小谷を隔て南の方に塔屋敷といふあり何れも礎石など存す舊弘法大師建立の寺なりしに天正の兵火に焼失すと今大福寺の本尊藥師は即古伽藍の本尊といふ其餘堂内の佛皆古佛にて地藏尊など最殊勝にて不動は殊に威容あり最大佛にて小堂に藏むべきものにあらす皆古伽藍の佛ならん亦脇土廣目多間の二天は伽藍中門の佛なりといふ感應山は古伽藍の時の山號大福寺は伽藍の時の寺號なるへし

○不動窟

上の八王子社の傍の谷にあり

○城屋敷

村の東山上にあり織田氏高野攻の時高野より砦を築きし所といふ

星山村

保志也麻

田畑高 六十一石八斗七升八合
家 數 二十八軒
人 數 百十人

星川村の南六町許にあり當村八幡宮の南一町許山の原に星岩といふあり大さ方六尺許村名星の墜たるより名つく星岩は星の墜て石となりしなりといふ

○辨財天社

村の西四町にあり一村の氏神なり

○八幡宮 境内周百二十間

本社 八王子合祀 天満宮合祀

末社 稻荷社

村の巽にあり峯の森といふ又一村の氏神なり

○常福寺 境内周九十六間

村中にあり境内に入幡宮あり古き鰐口あり 銘に文明二年十月六日願禮堂備州新田莊寺見村施主千代村太郎五郎實之盛とあり

○舊家

宇野源次兵衛

家系に據るに元祖は六孫王經基七代の孫宇野七郎親治といふ

親治六代の孫を大炊助義治といふ戰敗れて家族と共に當村に來り公文岡田某の家に寄る岡田氏子なし義治を猶子とす織田氏高野實の時義治六代の孫甚左衛門朝治高野に與力して織田氏の軍を防ぐ朝治の子を喜大夫治昌といふ大坂に籠城して戰死す治昌の子を源兵衛信治といふ當村の名主たり子孫代々此地に住す家に永徳二年の御教書を藏む

御所村

吾志典

田畑高 百十九石三斗二升六合六勺
家 數 三十三軒
人 數 百五十四人

星川村の南八町にあり人家所々に散在す村名は古高野 御幸のとき御假屋など建てし地なるより起れるなるへし

村八王子神主久保氏の家を御所と呼ぶ傳へいふ古 天子行幸の時此所にて御願により路傍の石に御腰を掛け給ふ今に御腰掛石といふあり其邊の松樹に隠從の人々集り御腰に管絃を奏す其所の松を鐘樂の松といふ今は枯失せたり御願益重らせられ御殿を建て、御養生ありしといふ其事蹟なる証なれども村名によれば或は然る事ありしならん

○小祠二社

○藥師寺

天神社 社地周百二十間村の南一町にあり一村の氏神なり 天神社 社地周四十間村の西五町山ノ上にあり

村中にあり境内に般若經藏及釣鐘堂鎮守八幡宮あり寺の坤少し離れて堂あり此寺の本堂にて堂屋敷除地なり本尊藥師外に地藏勢至十二神將等ありて皆古佛なり多くは星川の伽藍にありし佛を此に移せるなりとそ地藏尊など他どつりあはさる大佛なり根來寺の塔は覺鑿御所村の塔を移したるなりといひ傳ふ

日高村

比駄迦

田畑高 四十九石五斗五升
家 數 二十五軒
人 數 百十一人

御所村の巽十五町にあり星山の西にありて東面の原なり名義は郡の日高と意同しかるへし

○三社明神社 境内周八十間

村の北一町餘にあり祝神太神宮八幡宮春日明神にて一村の鎮守なり

○阿彌陀寺

村中にあり持佛堂大般若經藏等あり

○地藏堂

村の西二町餘日高峠にあり麻生津よりの高野街道六地藏の第四なり

三谷莊

美多爾 總三箇村外二村附

三谷莊三箇村平沼田皮張莊名なし今地形によりて姑當莊に附す總て五箇村三谷郷の名は建仁以下の文書に見ゆ 社藏此地東は官省符莊に接し西は志富田莊と界し南は四村天野兩莊に接し北は紀ノ川を隔て、官省符莊と界す寺尾兄居三谷皆山の裾に村居し平沼田皮張は山中にあり大抵梯田斜田にて平田少く莊中小谷多し皆北方紀ノ川に落つ按するに三谷村莊中の本村にして村中東西中と三谷あり因りて三谷の名起る莊名亦是より出るなり

寺尾村

天羅遊

田畑高 五十九石八斗九升八合七才

家 數 十九軒

人 數 六十八人

志富田莊東志富田村の東にあり古村中山の尾崎に南藏寺といふ寺あり故に寺尾をもて地の小名とし後遂に一村の名となれるなるへし按ずるに村中辨財天社明和四年の跡に沼野上村とに似たり正保園に野々上村とあり辨財天社の北に大なる沼ありは沼野上村本殿を得るは沼野上村の稱するならん 當村より天野明神は哭の方一里許にあたる

○辨財天社

村の北にあり一村の鎮守なり社方四尺境内に別當天女寺あり社の森の北に大沼あり古の紀ノ川筋といふ

○小祠二社

八王子社 村の坤西にありいふ所にあり

辨財天社 村の北の方高野山麓の麓にあり社前に清泉あり四圍井といふ一村の飲水す

○南藏寺

寺尾山 境内 東西三町 南北二町 大師堂 觀音堂 釣鐘堂

- 明王院 谷福院 門之坊
- 元福院 正藏院 阿遮梨寺
- 長壽院 中之坊 榮壽院
- 教泉院 千壽院 教善院

○三藏院

村の南三町寺中にあり古三十六院の其一といふ釣鐘あり

兄居村

阿爾草

田畑高 百十六石六斗二升八合三勺一才

家 數 三十七軒

人 數 百五十人

寺尾村の東五町紀ノ川邊にあり兄居菰安兒井と書す名義詳ならず當村喜三右衛門といふ者楠氏の系圖を藏す

○諏訪明神社

境内 東西三十六間 南北三十九間

鎌八幡宮

經 殿 拜 殿 御供所

村中にあり鎌八幡宮は社壇の中に樫の大樹あり圍二丈許是を神とし祭り鎌八幡宮と稱し別に社なし祈願の者鎌を樫樹

鎮守社 不動石像

村の南三町にあり此地を寺中といふ高野山の乾の尾崎なり古弘法大師伽藍を茲に開基し避寒の地とす寺院三十六坊あり天正の兵火に寺院堂舎悉焼亡し今僅に小堂一二字及三藏院のみ残り其他寺院の名今田地の字に残れり三十六坊の内六坊の棟今に殘る其餘は只 高野山より大師堂燈明料二斗五升伽藍修葺料三石九斗を寄附す境内石不動は高野葛城先達護摩修行の處なり

古三十六坊

本坊南藏寺

三藏院現

養福院

以上六院株あり以下只名のみ存す

- 梅 院 北之坊 瀧藏院
- 正藏院 地福院 善慶院
- 成慶院 來徳院 阿彌陀院
- 成智院 己淨院 利福院
- 林藏院 積藏院 長床院
- 念佛堂 養智院 梅本院
- 俊藏院 幸福院
- 水本院 來福院

に打入れ是を神に獻すといふ祈願成就すへきは其鎌樹に入ること次第に深く叶はざる者は落つといふ根より上二丈許の處鎌を打つこと幾のことく寸地の空際なし鎌の深く入るものは樹中を貫きて芒刃外に出る事一寸餘もあり實に奇といふへし其鎌は大小好に従ひ社前に賣ものあり祈願の者或は一時に千挺も打者あり然るに其木齧蒼として繁茂す事は左の碑文に詳なり舊村中諏訪次郎右衛門といふ者村の鎮守諏訪明神の境内に假殿を造りて八幡宮を奉す神靈社内の樫樹に託る樫樹の側の小社は諏訪の神なるを鎌八幡宮の名盛にして本社名の神名を人しらす或は誤りて天照太神宮とす諏訪の家代々神主たるに元和六年の火災に舊記灰燼となり傳説の詳なるを失ふ諏訪の末葉今望月嘉八郎といふ地主にて神職を兼たり高野山より鎌八幡宮神酒料として大豆高六斗寄附あり石槨に樫の字を用ふるは俗に従ふなり

三谷莊兄居村鎌八幡記

造化之理鬼神之迹交錯糾紛、非智力之所得、而測之而感福、詳歟不詳、不可得、而誣焉、焉則尊奉、惟虔、焉耳、亦安、暇、求其所、以、然之、故、哉、伊都、郡、兄居村、高野、管内也、其地有、神、稱、鎌八幡、無、祠、以、一、大石、樫、樹、爲、神、像、相、傳、神、元

在_レ讃岐國屏風浦_ニ以_レ旗_ニ與_レ長搭_ニ爲_レ神像_ニ長搭俗呼_レ熊手_ト神后征_レ韓_ノ之日軍中所_レ用祀_ヲ以_レ爲_レ神_ト云弘法大師開_レ高野山_ヲ以_レ爲_レ隱棲修禪之地_ト神追_テ至_リ茲_ニ土人取_テ而寄_レ之_ニ楡樹_ニ然後告_レ於野山_ニ山僧來_テ而迎_レ神_ヲ以_レ祀_レ諸_ノ山上_ニ今_ノ所謂熊手八幡是也其寄_レ神_ヲ於楡樹_ニ僅_ニ數日神靈遂_ニ此樹_ニ能_レ爲_レ威_ニ爲_レ福_ニ祈禱輒_ニ應焉故_ニ遠近香華無_レ虛日矣稱_レ曰_ニ鎌八幡_ト其稱_レ鎌者何_ノ由_レ神之所_レ好_レ而稱_レ之也其好_レ者何_ノ蓋人之祈_レ神_ニ者必釘_レ鎌_ヲ於樹身_ニ稱_レ謂_レ獻_レ神_ニ鎌大小有_レ等多少惟其所_レ欲_ニ或_ハ十_ニ或_ハ百_ニ或_ハ千_ニ素無_レ期極_ニ蓋樹_ノ高五丈許圍_ニ三抱大幹直立去_レ地_ニ三丈許始_レ有_レ枝枝葉鬱_ニ鬱蔽_ニ數十武之間_ニ大抵釘_レ鎌_ヲ自_レ根_ニ以上_ニ二丈許遍體無_レ空隙_ニ重疊稠密殆_ニ如_レ蚬毛_ト其始_レ釘_レ入_レ樹_ニ僅_ニ二三_ニ分久_ニ而入_レ深_レ或_ハ二三寸_ニ或_ハ五六寸_ニ至_レ其深入_レ者_ニ則鎌鋒貫_レ幹_ヲ出_レ外_ニ者殆_ニ寸_ニ寸_ニ亦奇_ニ矣夫金之克_レ木_ニ是其常而亦_レ好_レ金_ニ此果_ニ何_ノ理_ニ也豈非_レ神靈所_レ憑_レ不可_レ以_レ常理_ニ測_レ者_ニ耶其爲_レ威_ニ爲_レ福_ニ而世之尊奉_ニ唯度_ニ固_ニ宜_ニ矣余嘗_レ閱_ニ王世懋_ノ學圃雜疏_ニ曰_ニ朝州有_レ鳳尾蕉_ト好_レ以_レ鐵爲_レ莖_ト將_レ枯_レ釘_レ釘_ニ其根_ニ則復生_ニ亦異物也此即_ニ皇國_ノ所_レ謂_レ蘇鐵也又周亮工_ノ閩中談餘_ニ曰_ニ閩_ノ南郊外_ニ二十里有_レ菴_ト

三谷村

美多爾

田畑高 二百二石九斗二升三合九勺四才
家 數 百四十一軒
人 數 四百九十八人

兄居村の東十二町許にあり村名承久の文書にあらはる_ニ高野_ノ村の東西中_ニ三谷あり名義是に起る山村なれども莊中_ニては平田多しとす當村より南の方天野明神へ二十八町なり

○丹生酒殿明神社 境内周三町二十九間

本 社 方一 間半 祀神持場明神
末社一社 十二 間 祀神持場明神

皮張明神	皮付明神
土公神	大將軍
八王子	八幡宮
熊野權現	金峯山白山權現
信田明神	住吉明神
西宮明神	十二王子

本地堂 本尊彌勒菩薩 舞臺 寶藏

村中にあり一莊の氏神なり按ずるに貞和五年の寄進狀に三谷酒殿とあり_ニ天野_ノ社_ト又石燈籠并に花生には丹生酒殿又酒殿と

肥後風土記 卷之四十七 伊都郡 三谷莊 三谷村

株_ニ高數丈圍數抱歲結_レ子_ヲ大如_レ椶_ノ椶而味甜苦取_テ爲_レ果實_ニ性好_レ鐵將_レ枯釘_ニ其幹_ニ則復_レ生_ニ亦異物也事雖_ニ相類_ト無_レ神異之可_レ言則亦非_ニ其比_ニ也余奉_レ命_ニ撰_レ風土記_ニ天保壬辰之歲巡_レ省_ニ此地_ニ有_レ威_ニ神之威靈_ニ金光院前法眼真尊師來_テ請_テ曰_ニ願_レ有_レ記_ニ夫辨_ニ其山川_ニ採_レ樵_ト異事_ヲ余今日之任也義不可_レ辭_ニ爲_レ記_ニ其梗槩_ト俾_レ刻_レ之_ニ石_ニ至_レ其所_ニ以_レ然_ニ之故_ニ非_レ所得_レ而論_ニ也

天保六年乙未春三月 仁井田好古撰

○小祠五社

大宅辨財天社 村の西 辨財天社 村の東

水 神 社 村の東紀_ノ川 若 宮 村の長にあり土人

八王子 社 社地周八十三間村

○極樂寺

村中にあり本尊無量壽如來安阿彌の作にて鎌八幡宮の本地佛といふ

○石地藏堂 境内周十五間村の長

○幡掛松 境内周十五間村の長

村の長浦島とあり古は榎樹なりしか老枯せし故其跡に松を幾度も植替へしと今若木の松にて古の地を表するのみ

○舊家 地土 望月嘉八郎

のみ刻む丹生酒殿を主として祀る事詳なり傳へいふ本社丹生明神は 崇神帝の御宇大和國丹生川上より神を持して此地に降臨し給ひ後天野村に移り給ふ故に森を神山といふ丹生明神此地に降臨の時初めて神酒を獻す是神前に酒を獻する初めなり故に又酒殿とも稱すといへり文曆元年の文書に御神山去建曆二年正月十八日奉_レ納_ニ御寶殿_ト又曰是爲_レ大明神根本垂跡地_ニ之故也又曰御神山者東限_ニ御手洗谷_ト南限_ニ天野_ト横峰_ト西限_ニ栗栖谷_ト北限_ニ谷合_ト也 井_ノ天_ノとあるは即此地なり攝社狩場明神村中竈門屋敷にて誕生ありといふ祭禮九月二十日なり○丹生明神降臨の地天野丹生明神の祝辭に紀伊國伊都郡奄太村の石口に天降坐とあり當村の東慈尊院村古奄太村といひてそこに降臨ありといふは恐らくは誤なるへし古奄太の名此邊より慈尊院村九度山村までの總名なるへし九度山村の長廣平の田地を安へし田島といふ又庵田とも書す 明神此地に降臨の事は酒殿社別當福林寺寶永中の鐘の銘及社記に詳なり丹生狩場二神の始末は天野社の條下に見ゆ神主は天野社神主丹生氏兼帶す

別 當 福林寺 神山 酒殿院

明神の境内にあり本尊不動像七尋瀧より出現す或は弘法大師の作なりともいふ高野山より護摩料三石を附す釣鐘堂殿

摩堂あり山號鐘銘には神降山とあり

○竈門明神社 境内周十六間

社 方三 奥津彦命 合祀

村中竈門屋敷といふにあり神山の地主神にして丹生明神降臨の時煮焼をして御供を奉る故に竈門明神と稱す右の由緒に依りて天野社神職の輩社入りの前紀、川に積し百日當社に參詣し幣帛を捧げ後社入りをなすといふ又天野總神主代替りには當社に來り始めて裝束を著し後神職に叙すといふ或は傳ふ此地特出明神誕生之地なり明神誕生の時此神產湯を煖め奉りし故竈門明神といふこと此説恐らくは誤なりん 竈門屋敷に丹生明神影向の所あり又本地堂 本尊藥師如來境あり

○小祠二社

八王子社

○龍谷寺

○梅林院

○廢西明寺

○觀音堂

○類切地蔵

○古城趾

境内周五十三間

境内周三十六間

村中にあり此所古墳多く残り銘字漫漶して讀むへからず里民いふ此中に古の城主并に家臣の墓ありとぞ

ひの印石といふ岩に銘の跡あり

○古城趾

村の西奥谷といふにあり其東に土居谷といふあり又泉水谷ともいふ此二谷の間を城屋敷といふ城屋敷の内南の方山の尾筋高き所を城の壇といふ東西一町南北三町許の地なり此處田地に釋迦山矢倉屋敷矢倉堂樋の口馬廻し天の峯などいふ字あり又此下の田地に土居本土居之段門垣内泉水中屋敷などいふ字あり皆古居城の時の屋敷地なりといふ 又土居谷に石あり城の壇、當城誰人の居城なるか詳ならず村中に川端氏といふあり城主の家老の家といふ又大宅氏といふあり二家老の家といふ土人の口碑には三位中將桃小太郎の城といふ此人吉野の花を見んとて六川川邊まで行しに一家老亂をなし城主六田川にて自殺し其家斷絶すといふ其説いふかし

○上様堤

村の長四町許の堤をいふ 大猷大君高野山大塔御建立の時材木を此地に積みしか折ふし大水出て其材を流せり因りて堤を築きて材木を集む 上の普請にて出來たるゆへ上様堤と呼ふなり

○三谷堰

村の南天野街道にあり紀、川より十五町にあたる自然石に大日地蔵阿彌陀三尊を刻む中尊の頬少し切れたり

○七瀧

酒殿明神の南三町餘にあり懸泉縁に一丈許瀧壺は大にして深さ六尺許丹生明神始めて降臨の地といふ瀧壺の水底に岩あり里民の傳へに不動牛に乗り通ひし足あとありといふ夏月雨を祈るに必此地に來る

○宮瀧

丹生明神の西の谷にあり兩崖壁立して懸水高からされども甚幽邃の地なり六月晦日天野神社人六人を率て此瀧に胡瓜を供す是より前胡瓜を食ふことなし村中小兒其供せし胡瓜を食へば疱瘡輕し河虎の患を免るるとて皆是を食ふとぞ

○不動瀧

村中の山際にありなたれ瀧なり

○御供岩

神山の南五町許にあり丹生明神天野御鎮座の時三谷より御供を獻せし石なりといふ

○鋒、御跡岩

神山の南十町權兵衛坂といふにあり丹生津姫尊天野へ御通

村の東界にあり當村より西寺尾村まで掛れり其間三十町許なり

○阿母御前墓

村の東山西垣内にあり山西氏藏むる所の紛失狀に據るに明德頃の人にして山西氏の女なるへし

○舊家二家

隨門新五郎

其祖を大伴常家といふ隨門明神の末裔なりといふ常家隨門明神の神職たり家に文暦元年の紛失狀及建武二年住居事下知狀一通を藏む又建治二年天野社神職丹生友家より田地處分の證文一通あり今に至りて住居の地は除地なり亦狩場明神御影一幅丹生氏より常家へ附屬すとて藏む其文書は皆文書部に出せり

山西政之進

家傳に其祖は散位坂上經澄の裔にて經之寛治三年より三谷村に住し此近邊の地を領すといふ 家系に 寛治三年領地山の事に因りて請裁定の解狀并に證判の文書を藏む其文に依りて考ふれば經澄の先祖より此地を領する由にて三谷の住居は寛治より猶古き事なるへし又明德三年紛失狀一通を藏む今按するに同郡市脇村醫王寺に大なる古墳の窟あり其傍

に大なる五輪の石塔二基あり一は文字詳ならず一は坂上長澄建之とあり是山西家の先祖なるへし子孫左衛門督經同といふもの天正年中豊太閤根來攻の時若山口を固め又根來西坂本を守る凱陣の後其賞として陣羽織と山西の苗字とを賜ふ 南龍公御狩の時當家に 入せられ兵庫助同忠か炮術騎射等御覽ありて三谷領川筋にて鐵炮御免あり安永年中百姓騒動の時鎮撫宜きを得たりとて 官より銀七枚を賜ふ藏むる所の文書は皆文書部に出せり

平沼田村

比良奴多 小名 柏木皮田

田畑高 百九石三斗四升三合
家 數 二十六軒
人 數 九十三人

寺尾村の西南五町にあり當村皮張村の下にあり大抵斜田梯田のみ弘安の文書山嶽に平野田郷とあり名義字の如くなるへし村の北紀ノ川端に柏木といへる地あり皮田村なり
○祇園牛頭天王社 境内周百間

說到當村狩場明神あれば狩場村といふへきを神名を避けて皮張といふと當村山の八合目より下に村居す旧地は斜田のみなり文化元年八月連雨數日の後村の北の方北尾谷といふ所方一町許陥る事二間許一處も崩壊せず唯形を全くして陥下す陥ること甚き所にては家五軒許崩るといふ其下の方六七町の間或は陥り或は傾き或は地折けて龜文の如くなりしと事實に一奇事といふへし

○丹生狩場明神社 境内周四町十四間

本社二社 各五尺

攝 社 祀神十二王子 末 社 若宮

御供所 應 舞臺

修正會堂 本尊阿彌陀佛

藥師堂 般若經藏

村中にあり高野山より御供料一斗五升を密附す平沼田村效良寺村山崎村の宮は皆當社より分ちしといふ高野先達の行所なり祭禮九月二十四日境内修正會堂藥師堂般若經藏は村支配なり神主は天野社神主丹生氏兼帶す當社の南二町許百合野明神の祠あり狩場明神を葬むる處といふ又村中皮張石あり狩場明神猪鹿の皮を此石に張し所なりといふ亦狩場明

本 社 方三 末社二社 廳

村の東にあり一村の氏神なり祀神詳ならず皮張の村長いふ平沼四教良寺山崎三村の氏神皆皮張村なりしに後に勧請して分ち祀る故に同神なりといふ當村にては祇園を祀るさいふ或は合せ祀るの神を呼び來るならん本地靈師如來といふ祭禮六月八日九月八日なり

○八王子社 同境内周四十間
○阿彌陀寺 八王子山 村の北にあり
○地福寺 靈松山 境内周五十九間 村中にあり
○舊家 金川藏之丞 家系詳ならず安永七年百姓一揆の時村方鎮撫宜きを得たりとて官より銀七枚を賜ふ

皮張村

池波發利

田畑高 九十六石二斗一升九合
家 數 三十一軒
人 數 百二十三人

平沼田村の巽八町にあり村中皮張石あり名義是より起る一

神の像なりとて青衿を著袴を著けて白黒の二犬を牽きし形を畫く又高野明神の像なりとて束帶して坐し丹生明神と相對する畫像を高野山寺院ことに藏む

景行天皇の御時三野國牟毛津といふあり古事記に 應神天皇丹生神社に神地を寄給ひし時其牟毛津君の末裔に藏吉人といふ人を國に出たり 犬飼として同く丹生神社に寄奉れり是に依りて其子孫世々此地に住して狩獵を事とせしに大師高野山を尋求むるの時其子孫の人白黒二匹の犬を牽て大師に道に逢ひ高野山を嚮導せしなり青衿を著白黒の二犬を牽しは此人の像なり後此人死して今の百合野に葬る大師に功ある人なるを以て里人祀りて神とす狩獵をなし人なるを以て狩場明神と名つく又土人の傳へにいふ百合野の神五月三日を以て没す故に今に此日を以て此神の忌日として祭をなすといふ然れば高野明神狩場明神は別の神にして狩場は大師の時の人なり高野明神は神世より高野に鎮り坐る神にて同神にあらず後世大師の高野に至るを神靈にせんと欲す故に高野明神假に獵者の形と現して大師を導きしなりといひて遂に高野狩場を合せて一とす今に至りて其誤を受けて大に信を亂る辨せずばあるへからず皮張村長いふ狩場明神の没

する時大師引導して百合野に葬れりと此説信を得たるなる
へし皮張石等の説虚誕にあらし亦門氏の記に狩場明神は天
野末社の随一なりといふ亦證とすへし神職天野社神職丹生
氏兼帯す

○百合野神社 境内周四十八間

村の巽明神の南登ること二町許にあり狩場明神の廟所とい
ふ故に奥の院の名あり五月三日を以て没せり因りて此日を
縁日とす相傳ふ古此地百合草能生ひ茂れり依りて名とす

○小祠九社

- 辨財天社 村の南二町山の半腹にあり 赤田ノ森社 村の北五町におり祀神詳ならず
- 里神社 村の北一町におり 伊勢森社 村の北の方四町におり
- 山神社 村の長六町許におり 氏神社 村の長の方八町許におり
- 三社森社三原 村の北十町許におり 琴ノ御前社 村の乾におり土人狩場明神の祀といふ
- 荒神社 村中門氏の庭前にあり相傳ふ狩場明神の三男を此地に葬れり因りて荒神と崇敬すこと

○涼光寺

境内周三十六間

明神の下にあり

○小堂二字

釋迦堂 境内周十六間村の四七町許におり 樂師堂 村中にあり

○古城趾二

一を東ノ城趾といひ一を西ノ城趾といふ東西三十間許を隔つ
俱に村の南八町にありて各方二十間許の地なり今に堀の形
あり誰の城なるか詳ならず

○皮張石

村の東山ノ上にあり長一丈許幅四尺許の石二あり石面平に
して木口切か如し面に犬の足跡といへるあり形似たるを以
て名つくるなり相傳ふ狩場明神猪鹿の皮を此石に張しとい
ふ

○皮付石

門氏の入口にあり長六尺許幅三尺許又門石ともいふ山臥の
行所なり

○烏帽子岩

皮張石と同所にあり又三ツ石ともいふ

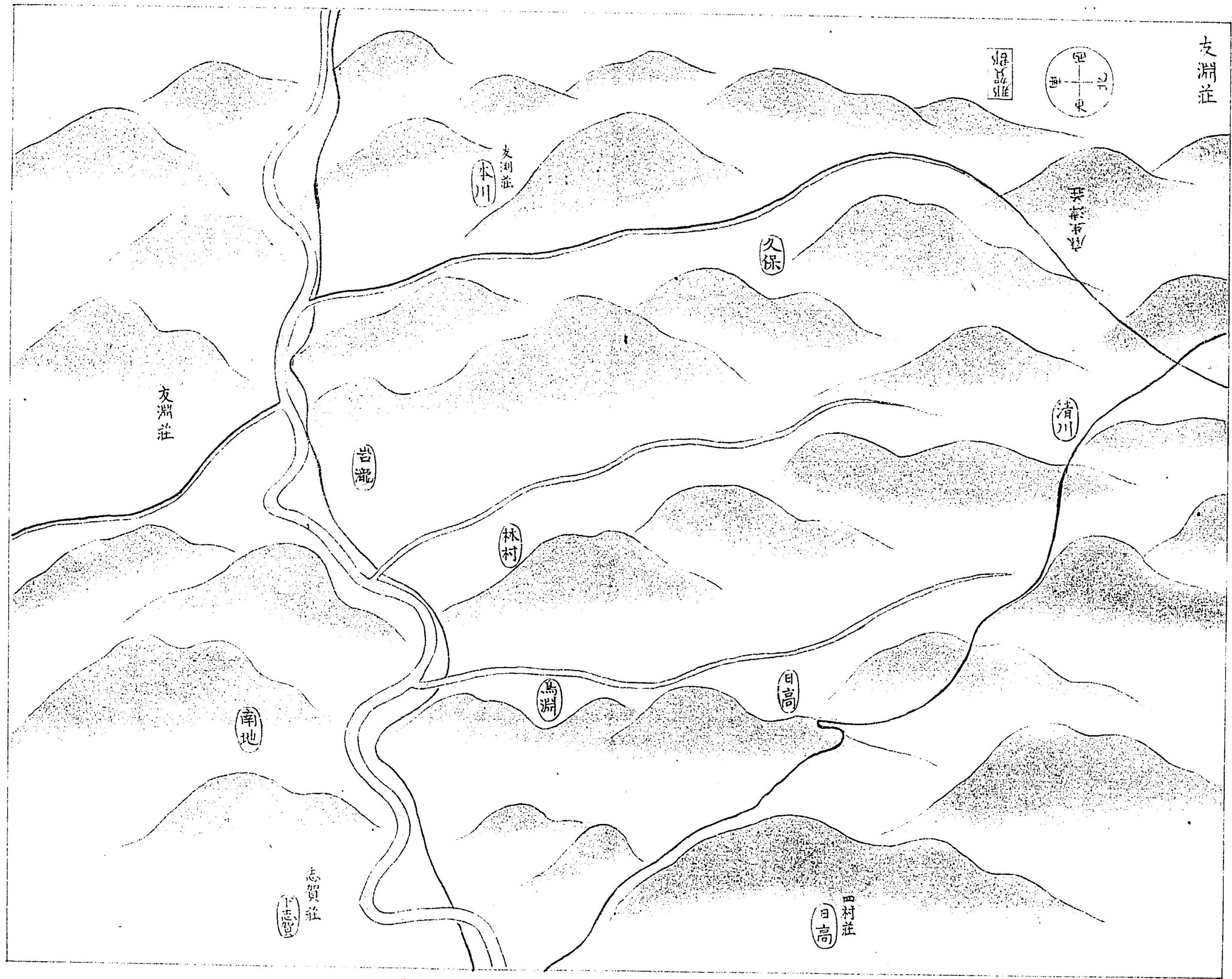
○杖ノ松

明神の西二町田中にあり明神杖をさし給へは其木生ひ出て
たりといふ先年此樹枯しゆゑ今社地の西數歩に松を植ゑて
杖の松といふ

○舊家

門氏

當家は明神に由緒ありて舊家なりとそ居屋敷東西十五間南



北十間除地なり

友淵莊 友毛夫知 七箇村

友淵莊總て十六箇村伊都那賀兩郡に亘る其伊都にあるもの七箇村其餘九箇村は皆那賀郡に屬す其當郡にあるもの四村莊及志賀莊の西にありて南は長谷莊と界し北は那賀郡麻生津莊に接し西は那賀郡同莊本川村と界す當莊は志賀莊と東西相對して地形屏風を引違へたるか如し故に里人名つけて屏風かはしといふ友淵志賀の界岩を鑿り穿ちて街道とす名つけて狹戸ヒヤウといふ此地山中にありといへども衍沃の田頗多く清川の邊最廣平なり其他は那賀莊論に詳にす

○三里ノ峯 莊の東南にありて友淵長谷志賀三莊の界なり

○友淵川 東の方志賀莊より流れ來りて當郡の友淵莊を流るゝ事三十町西の方那賀郡の友淵莊本川村に注ぐ此間谷川三ありて友

紀伊嶺風土記 卷之四十七 伊都郡 友淵莊 岩瀧村

淵川に落つ東にあるを日高谷といふ日高鳥淵二村此谷にあり次を清川谷といふ清川林二村此谷にあり西にあるを久保谷といふ久保村此谷にあり

○那界 東南三里ノ峯より西の方八幡山の峰筋を見通し西北飯盛山の東峰に至りそれより清川村古城趾の頂にいたるを伊都那賀兩郡の界とす

岩瀧村

以波多喜

田畑高 四十一石八斗三升七合九勺一才
家 數 十軒
人 數 三十三人

那賀郡本川村八幡宮の巽にあり村中岩瀧といふ瀧あり懸泉一間餘大岩錯落たり故に名とす瀧壺甚深し八幡宮の下にあるを以て又八幡瀧ともいふ八幡宮祭禮の時社人此所にて秋アキ禊スす

○狢神社 社地周二十三間岩瀧の北五十間許山上にあり

○地藏堂 同所にあり

林村

波也志 小名 向井 奥澤

田畑高 九十石七斗二升八合
家 數 二十五軒
人 數 九十三人

岩瀧村の長十二町許にあり此村上番の本郷にして中央にあり他村は此村より出たりといふ名義舊松林などありしを切開きて村落をなしより起るなるへし小名二あり東にあるを向井といひ乾にあるを奥澤といふ

○金毘羅社

村の東山上にあり上番中の氏神にして祭禮六月十日なり

○小祠五社

辨財天社 八幡宮二社 以上三社小名 向井にあり
申神社 不動 森 以上二社小名 奥澤にあり

久保村

田畑

田畑高 四十石三斗五升

八幡宮 村の西三町にあり

八王子森 村の乾二町にあり神木のみにて社なし

○清見寺 瀧瀬山 境内周三十七間 村の東にあり

○地藏寺

境内周四十四間餘

村の寅卯の間五町許高野街道御所村の境にあり本尊地藏、石佛なり里人田和地藏と稱す境内に大なる古松あり

○古城址

村の北六町餘山上にあり平坦の地周八十間許里人楠氏の城趾といふ此地東は四村莊御所村領北は麻生津領西南は友瀧領三方の界なり

○旗立石

村の丑の方六町高野街道の東にあり織田氏高野攻の時高野の催促に隨ひて林莊司の兩家兵を出して此降に陣し旗を立し石なりといふ

日高村

比階連 小名 多間

田畑高 四十七石九斗九升二合
家 數 十六軒
人 數 六十人

紀伊嶺風土記 卷之四十七 伊都郡 友瀧莊 日高村 鳥淵村

家 數 二十軒
人 數 九十三人

林村の乾二十五町にあり當村より清川村に越ゆる峠を小久保か澁といふ

○小祠二社 一は村の東一町半にあり 一は村の西二町にあり

○藥師寺 境内周三十六間

村中にありて祈禱寺なり本尊藥師は弘法大師筑紫の温泉に至りし時の作にて温泉の本尊なりしに天正の頃立花飛騨守高野詣の時當寺に贈るといふ釣鐘堂あり

○藥師堂 村中にあり

清川村

喜餘連波

田畑高 五十九石四斗七升六合
家 數 二十軒
人 數 七十六人

莊中東北の隅にありて清川は谷川の名を取りて村名とするなり

○小祠二社

清川村の巽山を隔て、十町にあり當村山の原に村居して四村莊日高村と東西にありて嶺筋を限りとす大抵麻生津より

の高野街道其界なり名義四村莊日高村と同じ當村は林氏譜代の者居住せし地なりとて今に至りて莊中の座席には末席に列り氏神の座には床の上に登ることを許さずといふ小名多間本村の坤にあり

○小祠二社

山神森 村の西二町許にあり

塞神社 小名多間 村にあり

○大師腰懸石

村領高野街道の傍の山手にあり二尺五寸に五尺許の石なり

鳥淵村

登理夫智 小名 山戸

田畑高 七十三石九斗五升六合
家 數 十五軒
人 數 五十七人

日高村の南山を隔て、十町許にあり莊の極東にて志賀莊と界す小名山戸は村の西二町にあり

○小祠五社

愛宕社 村の東一町半
大將軍社 小名山戸
大日森 村の北の方三町
不動社 村の南三町
稻荷社 小名山戸
境内周三十六間

○地蔵寺

小名山戸字芝といふ所にあり新羅寺なり境内に經藏あり古

當寺に古き半鐘あり銘に河内國立間村立間寺とあり里人傳へいふ楠氏清川村の城にありし時の陣鐘なりと云安永年中若山豊樹院より所望にて新らしき半鐘及大般若經一部と交易す 公家の麻覺樹院と隣る 先君香殿公麻を祝給ふ事あり其鐘聲を聞かせ給ひ此鐘は國を利せすとのおたまひて命して他國に販かしむ今轉して京都本願寺にありといふ

南地村

美奈美通 小名 北原

田畑高 百一石二升八合
家 數 二十八軒
人 數 百三人

島淵村の坤友淵川を隔て、十町許にあり莊中の極南なるより南地と名つく小名北原川を隔て、北にあり

○辨財天社

境内周三十間餘

本社二社 一社三尺二尺 一社方三尺

小名北原と久保村との間にあり村中林氏の先祖の崇奉せし神といふ今上番中の氏神とす

○小祠六社

大將軍社 村の長の方四町許にあり 虚空藏社 村の東三町

大日社 村の西五町許にあり 稻荷社 村の南三町

公文司社二社 小名北原にあり其神八幡宮の末社なり

○松林寺 南天山 境内周四十八間

村中にあり境内腰折地蔵といふあり石佛にて腰より兩に割たり腰痛を憂ふる者祈れば靈驗ありといふ 昔境内に古松あり取られた

○吉祥寺

境内周六十二間

村の南三町にあり本堂は寺より西二町半にあり僧坊釣鐘堂等あり

○釋迦堂 村の南一町半許にあり

○舊家二家

地士 林佐次兵衛

家傳にいふ當家は鎮守府將軍藤原時長十四世の孫林彌次郎家朝の末裔にして世々當莊の公文職たり今に諸役免許にて

屋根替の時莊中家毎に茅刈人夫一人つゝを出す天正十五年豊太閣より播州に於て百七十石を賜ふ其朱印左に載す其他系圖古文書及旗一流あり 古文書は古文書部に出せり

播磨國備東郡御差村内六十五石同國分寺内百五十石合百七十石宛行訖全可領知者也

天正十五

朱印

林 興平次との

小林 氏

武田信玄より與へしといふ武器を藏む其祖は武田家の浪人ならん

志賀莊 之我 一箇村

志賀莊一箇村友淵莊の東にあり東は天野莊及花坂村に接し南は長谷莊と界し北は四村天野兩莊に接す其廣袤東西一里七町南北一里兩山南北に聳わ中間溪流に傍ひて村居をなす乾方細木峠より東の方梨、木峠を経て花坂村に至るを麻生

志賀村

之我 村居六箇所に分れ各小名あり

善法 下志賀 中志賀

上志賀 鍛冶谷 經師垣内

田畑高 二百九十三石八斗五升一合

家 數 六十七軒

人 數 四百三十二人

當村小名六箇所に分る友淵莊南地村の東十五町許にあるを善法といひ善法の東五町にあるを下志賀といひ下志賀の東三町にあるを中志賀といひ中志賀の東二町にあるを上志賀

といひ上志賀の東四町にあるを鍛冶谷といひ上志賀の北十八町にあるを經師垣内といふ經師垣内は豊太閤花園莊大瀧村辨財天へ法祭料に寄附せられし地なり經師の名是より起る

○丹生高野四社明神社 境内周七十二間

本社四社 各金

- 一宮 尺方七 祀神丹生明神
- 二宮 尺方七 祀神高野明神
- 三宮 二方六尺 祀神八幡宮
- 四宮 二方六尺 祀神嚴島明神

末社三社

- 摩利支天社 下假屋社 太神宮社
- 御供所 舞臺 長床
- 本地堂 地蔵 般若經藏 中門

中志賀の中央にあり一莊の氏神なり古當莊の領主下司彦六の勸請といふ是より前は大陸寺の天神を氏神とせしと祭禮十一月八日

○假屋明神社 境内周八十間

下志賀の長高野街道曲折の所にあり相傳ふ 後鳥羽帝駐蹕

の時御假屋を此地に建つ後世 太神宮祇園を合祀して名つけて假屋明神といふ覺束なし假屋は假宮の事なるへし社四尺に二尺八寸

○下司明神社

下志賀の川の北一町許殿原といふ所少しの除地にあり古下司彦六定本といふ者此地を領す村民其人を祀りて下司明神と尊崇すといふ又 後鳥羽帝より定本に賜はりし 宸筆の不動尊を合せ祀るといふ今其不動は高野山の上に移せとも土人猶下司不動堂と稱す地を殿原と呼ぶも下司彦六の屋敷跡なる故なりとそ

○善女龍王社

境内周四十間

氏神の長三十町許上志賀にあり社方四尺拜殿あり

○小祠二十社

八幡宮五社

稻荷四社

八王子二社

祇園二社

辨財天二社

天神社

愛宕社

勝守社

小社二社

社名詳ならず以上二十社村領所々に散在す

○大陸寺

中志賀村の東二町にあり本尊不動明王古佛なり寺の側に觀音堂あり今當寺の本尊とす甚古堂にて柱みな蟲はみたり本尊觀音又甚古佛なり毎年正月十日此堂にて大松明を燃し鬼の面を著け鬼の裝束したるものを追ひて堂内を驅せ廻る事あり遠近群衆す名つけて鬼走りといふ 筑前住吉社及 境内天神社あり古の氏神といふ又辨財天社釣鐘堂寶藏あり末寺三箇寺皆村中にあり

○大日寺 村中大陸寺末境内周三十六間上志賀にあり

○觀音寺 村中大陸寺末中志賀村の附六町許にあり

○阿彌陀寺 村中大陸寺末下志賀氏神の西八町にあり

○小堂八宇

觀音堂 下志賀にあり

藥師堂 下志賀假名口にあり

彌勒堂 下志賀にあり

藥師堂 下志賀にあり

阿彌陀堂 下志賀阿彌陀寺の山下にあり

大日堂 上志賀大日寺の側にあり

不動堂 兵神の西一町中志賀の山上にあり本尊は下司彦六の守本尊といふ

地藏堂 上志賀梨木峠にあり麻生津より六地藏の第五なり

○古士

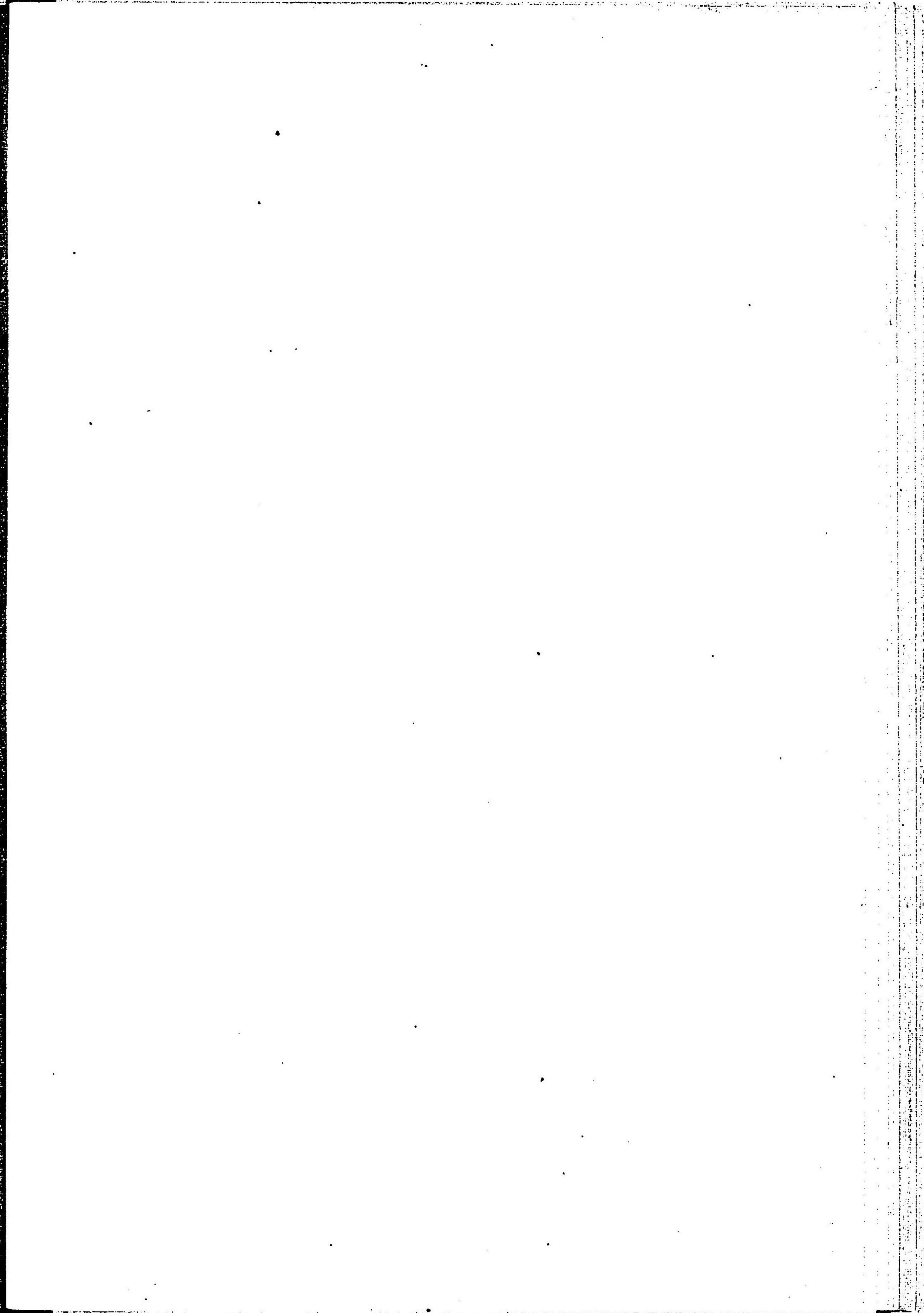
下司 彦六定本

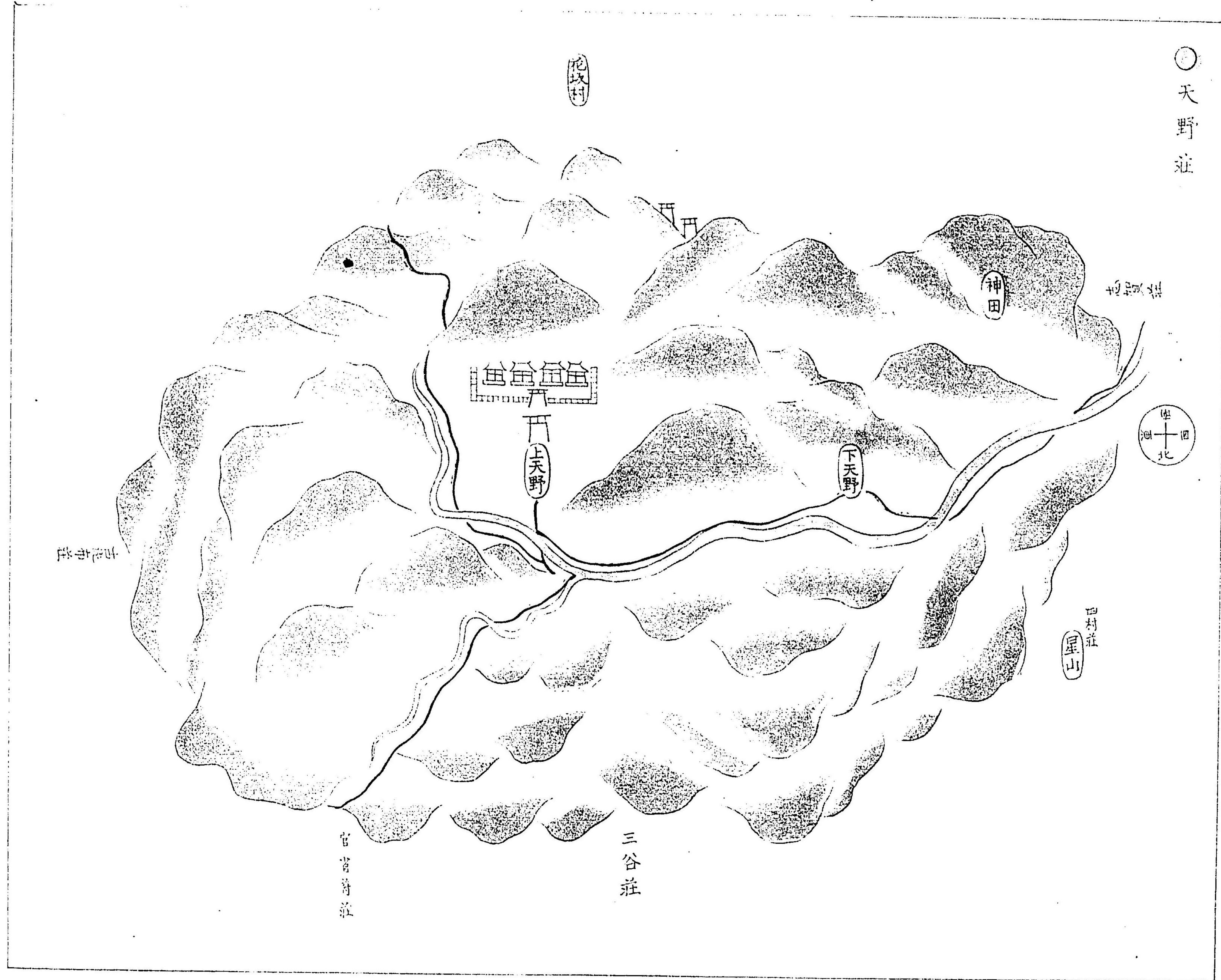
定本は 後鳥羽帝高野 行幸の時嚮導なし奉る其賞として宸筆の不動を賜ひ又志賀の下司職に任せらる因りて代々

此地に住して領主たり當莊を賜ひし由緒并に當莊四至界を彦六親書して莊の産神の寶殿及觀音堂に藏めしといふものあり 其文書文治五年とありて 後鳥羽院高野御參詣の事を載せたり文治はは實物にはあらざれども又近年の物 後鳥羽院の御稱號あるへきやうなげれにしまらす其文書文書部に出せり 後觀音堂燒失して右の文書灰燼となれども神殿の文書は存す村民此四至を守り隣村の界論を防ぐといふ定本子孫某いつの時にか有けん敵の爲に胸を射貫れて死したりこれより其家斷絶すといふ

○古墓

下司明神の西一町許田中にあり彦六の子孫胸を射られて死せし人の墓なりとそ今に至りて胸を痛むる者祈願すれば必靈驗ありといふ





○天野庄

花坂村

神田

地蔵堂

北
南
東
西

門

上天野

下天野

四村庄
屋山

三谷庄

官宮村

藤吉村

紀伊續風土記卷之四十八

伊都郡第七

天野莊

阿蘇乃 總三箇村

天野莊總て三箇村志賀、莊の東北にして官省府、莊慈尊院村の西南三十町許にあり東は古佐布莊に界し南は花坂村に隣り西は四村の莊に接し北は三谷莊官省府、莊に界す東西南北大抵一里餘天野の稱始めて昔紀神功皇后紀及天野、祝文に出たり地の形勢を按するに四面山巒圍繞し其中僅に平坦あり高峰の上なれば天野と名づく其平坦大抵長さを断ち短を補ひ東西十五六町南北三町古き書には天野、澤といへり今猶莊中往々に澤の名残りり下村の下流兩山の尾崎出て其間甚狭き所を堀切といふ里人傳へいふ當莊古澤なる時此所を掘開きて水を落したりといふ莊中小名十六所あり皆上下二村に總括す上下二村の名は水の流れによりて名づく土地寒く地味悪し永正の文書に天野數垣内の名あり又寛永の文書に天野與村の名あり并に天野社家其地皆詳ならず

上天野村

加美阿蘇乃 小名 峰

田畑高 二百十八石三斗七升六合
家 數 七十四軒
人 數 三百三人

官省府、莊慈尊院村の西南三十町許にあり小名あり峰といふ此地山巒四周して幽僻の地なれども天野明神鎮まり坐る地なるを以て常に參詣の人多く年中神事祭禮も多き故高野の僧徒常に往來し或は來り遊ぶ者も多し因りて村中旅舎茶店等あり又滑稽様の事をなし遊戯の業を産業とする者多く山中寒陋の風少し

○丹生四所明神社

- 一 宮 ニフツツヒ 丹生津比咩大神
- 二 宮 ニフツツノミコ 丹生高野御子神
- 三 宮 カキ 筒飯神
- 四 宮 イソノミヤ 巖島神

以上四社檜皮葺千木堅魚木あり大宮作極彩色梁行一間
四尺餘桁行一間四尺每社小異あり

右四所明神の内一宮二宮は丹生高野二柱の神にして往古より此地に鎮まり坐せり三宮四宮は中世以後加へ祀る所にし合せて四所明神と稱ふはいと後の事なり祝部丹生氏は紀國造と同居にて往古より當社に奉仕して今に至る中世以來高野山檢校社務を兼職し一山最尊崇を極るを以て諸殿兼命大に備はり最壯麗を盡し祭祀神事怠慢ある事なし

長 宮 梁行五尺桁行二間二尺 本社左にあり

祀神五座 皮張神 土公神 大將軍 八王子

長 宮 梁行五尺桁行二間六尺一寸 本社右にあり

祀神六座 白山橋 熊野 借金 田峯

衣比須宮 梁行五尺桁行三尺三寸 右の長宮の次にあり

祀神十二王子之一合祀百廿伴神

以上三社十二座の神を十二王子といふ舊は高野明神の社に合祭せしを承元三年行勝上人分ち祭る所といふ

若 宮 梁行六尺八寸桁行六尺六寸衣比須社の東にあり行勝上人傳保五年五月七日遷化の後當社を造りて其靈を祭る故に行勝社といふ

内 島 居 四社の中央にあり高さ二間二尺幅一間三尺桁子の厚あり

瑞 籬 内島居の左右本社社を圍繞して東西長さ十七間餘

中 門 梁行二間二尺桁行三間六尺二階造り高さ一丈二尺内の島居の正面にあり

右前殿 中門の西に接す桁行十三間五尺梁行三間七尺世尊造り木造部屋大般若經奉仕部屋の別あり東北隅に御馬芝といふあり古の殿の柱といふ

島居二基 中門の北橋の南にあり南にある中島の島居といふ高さ二丈四尺餘北にある外の島居といふ高さ一丈七尺餘額に正一位動八等丹生大明神正一位動八等高野大明神と書す宮法印道守の筆なり外の島居の内に螺石といふあり四月十日螺を此石上に吹きて明神の神幸を告ぐる故に名とす

輪 橋 長さ十間餘幅二間餘本社の正面五十間許池に架す池中に小丘あり相傳ふ往古八百比丘尼神を納めし所といふ

石碑四基 中の島居と輪橋との間にあり左

大 庭 室 東西十六間餘南北十一間餘橋の西にあり上下の門及長屋あり大師發願院を此地に創り後山上に移す惟流傳部其舊址に山王院を創りせし舊地なりといふ

祝詞棚 外の島居の西北にあり神輿渡御の時海部郡和歌浦玉津島明神へ渡御の時神幸の式をなして祝詞を捧ぐる所なり

一宮丹生津比咩大神延喜式に曰丹生都比女神社名神大月本國神名帳曰正一位動八等丹生津比咩大神とある是なり丹生津比咩は伊弉諾伊弉册二尊の御兒 天照大御神の御妹にして稚日女尊と申し神世より本國和歌浦玉津島に鎮まり坐せり神功皇后新羅を征伐し給ひし時此神亦土を以て功勳を顯はし給ひし故 皇后凱還の後伊都郡丹生の川上菅川藤代降に鎮め奉れり 菅川今高香と書す藤代菅上人水存徳又菅カ等或は子粒カ等といふ古老傳へて藤代ノ草といひじこ其地は上高香東宮費和州坂木三村の界なり此邊より流れ出る川を丹生川といふ西北に流る事五六里にして紀州に入る此草より東の方和州に流る川を又丹生川といふ神武紀に丹生川上といふ是なり此邊流て赤土を生ずるを以て丹生の名あり又上高香村より川上東へ登る事三十町許に 天照大神殿を給ひし舊地といふあり

是は丹生明神の流傳なるへし又下高香村の四川の下に明神といふあり土人傳へて高香明神の影向石といふ是又御座の時始めて下り給へる石なるへし今上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

今の上高香村に丹生四社明神を祀りて壯

左前殿 桁行十一間餘梁行三間一尺中門の東に接す拜殿神人座神樂所神子部屋の別あり

御供所 桁行九間三尺梁行四間二尺五寸右前殿の坤にあり西の端に龍門明神を祀る

舞 臺 方三間餘右前殿の前にあり

樂 屋 桁行五間四尺梁行二間五尺舞臺の西にあり中間に橋を架す

鐘 樓 方一丈一尺舞臺の西にあり

持 所 桁行七尺間四間梁行三間餘本社の西にあり本尊兩頭受染明王大師四十二歳の作といふ外に愛染明王一區覺摩上人の作といふ大徳の表に正和年中銘文あり

護 摩 所 方三間本社の東にあり一に燈所といふ本尊不動明王御座の作といふ天野口傳鈔に行勝上人の遺跡也とあり持所護摩所を天野兩所といふ

御影堂 方三間護摩所の東にあり二位祇尼の尊創といふ本尊法大師は當北院御室の本尊なりといふ

多寶塔 方二間三尺餘御影堂の北にあり本尊大日如來

神輿堂 梁行二間五尺桁行二間六尺多寶塔の北にあり神輿二乘を納む

山 王 堂 七尺間方六間四尺神輿堂の西北にあり又は本地堂とも譽茶羅院ともいふ或は大徳の尊創といひ又東三條院御願の堂ともいふ四社明神の本地佛胎藏界大日如來金剛界大日如來千手觀音辨財天女を安置す

不 動 堂 梁行三間餘桁行三間四尺餘山王堂の西北にあり六月十日此堂にて社祭に月俵を興ふ依りて御願ともいふ

荒 神 社 方二尺六寸不動堂の北にあり瑞籬島居あり社の前に石地蔵あり

長 床 桁行二十五間餘梁行四間不動堂の西北にあり西の端に行者堂あり方二間二尺中央役行者像左に義明右に義覺の像を安置す東の端に小庵あり長床の後に芝

實 藏 二間に三間行者堂の南にあり中門にあり前土橋を架す行人方神事の具を藏む

一切經藏 二間に三間寶藏の西にあり並へり前に板橋を架す仁和寺道法親王御灌頂の時行勝上人命を奉り止經の法を行ひ即藏あり其實として此經藏を造り宋木の一切經を藏む

處なるにや 書紀に 皇后御凱還の後功勳を顯し給へる神等の功勞に報ひ給ひて其録り座んご欲し給へる處にそれし鎮め奉りし事を書して雅日女尊傳之曰吾欲レ居 活田ノ長峽ノ國ニ因テ以テ海ノ上ニ五十峯ニ命レ祭スあるは延喜式攝津國八郡ノ郡生田神社なり生田神社と動位も同等なるを見れば同神にて荒 魂和 魂を別ち祀れるにて住吉の神荒魂和魂を別ちて長門と攝津と兩所に祭りしと同類ならむ書紀に其備を洩して載せざるまも下文引く所の攝津風土記に其洩せる方を書せ 是より一神兩所に分れ立ち給ひて御名も別に稱へ奉れるなり 事代主ノ神初は阿波ノ國に座し後に 皇后を助けて功勳を顯し給へるより攝津國長田に鎮め奉る式に阿波ノ國然れどにては事代主神社といひ攝津國にては長田神社といふも同例なり 然れども舊一神なるを以て其間十餘里を隔つといへども毎年九月十六日神輿玉津島に遷幸なし奉る名つけて演降の神事といふ 祭祀の部并 又紀伊國造と天野祝部とは共に天名草彦の子孫にして玉津島神は國造の齋を祀れる所丹生神社は天野祝部の齋を祀る所神輿遷幸の事も日前宮の神職と天野の神職と共に同く事を執行ひし事皆異神ならざる證とすへし此御神 皇后を助け給へる事詳に攝津風土記に書せり今其全文を左に載す

攝津風土記曰 釋日本紀イナケラシヒノミコトオモガタコトシラキカノニニ下坐之時 於衆神ニ爾時國堅大神之子 美二柱の命源在國を修 因給へるによりて國 爾保都比賣命なり保生普通す 若二國ノ大神と稱し奉れるならん 若原本に者書すは誤なり今改國 造石坂比賣命ニ效 曰 石坂比賣は攝津國造にて此事播磨にての好治ニ奉我前一者我爾出ニ善 險一本に從ひて改む

而 比比良木八尋杵根底不附國 杵は杵の字にて比比良木八尋
越賣引國 有美之國 有美之國 有美之國 有美之國 有美之國
白倉新羅國矣以二丹 浪一而將平伏賜如レ此 賜 賜 於レ此
出ニ賜 赤土ニ其土塗ニ天之道杵ニ建ニ神舟之船舳ニ又染ニ御
丹裳及御軍之著衣ニ又撥ニ海之水ニ渡ニ賜之時底 潛 魚又
高飛鳥等不ニ往來ニ不レ 遮レ前如レ是而平ニ伏新羅ニ已レ訖 還
上乃鎮ニ奉 其神於紀伊國管川藤代之峯ニ 管川は當郡備香莊
の高峯なり詳に備
香莊の部に見ゆ

此御神かく異國降伏の功あるによりて弘安四年蒙古 皇國
を侵し、時も當社の靈驗殊に著るく勳功を顯はし給ふ故に
和泉國近木莊を寄附せられし事あり是故事に違ひて御祈願
ありしなり當社初筒川藤代峰に鎮まり坐しに夫より處々に
遷り給ひ最後此天野の地に遷り給ひ永く此地に鎮り坐せり
其處々に遷らせ給ふ事天野告門の文に詳なるを以て下に其
全文を載せたり 天野告門の文告代より傳ふる所にして希世の物といふへ
注文を伴て其義 じはくく 點點を應じ故にや殿殿ありて讀みたり因りて
を釋き下に載たり又此御神の功績他に秀させ給へる故にや 應
神天皇の御世神地を廣く寄附し給へり和名抄載する所伊都
那賀兩郡に神戸あり即其地なるへし大抵今の高野寺領の地
にして小異あり其詳なるは高野領總論に論せり

より此地に鎮り坐る事幾百千年とも知るへからず丹生明神
は播磨風土記に載する如く 神功皇后の御世始めて管川藤
白峯に鎮め奉り其後此地に遷り給ひし御神なれば高野明神
と神縁在せる事古書に見わす且古は二柱の神に在し、事分
明なるに 延喜式には丹部比賣神一社を載せられ本國神名帳には正一位勳
八等丹生津比咩大神あり又正一位丹生高野御子神あり此二坐の
神に止 三宮四宮までも皆丹生明神の御子神にて四坐相連な
りし神といふ最信用しかたし社家の説に曰三宮四宮は行勝
上人總神主と共に同じ靈夢を受け尼將軍に詣ひて承元二年
創建する所にして三宮は氣比明神なり四宮は嚴島明神なり
といへり按するに 鳥羽院の御宇清盛安藝守たりし時彼國
を以て高野の大塔を造營すへき山 院宣を賜はりて清盛登
山せし夜の夢に大師化現して越前の氣比と安藝の嚴島とは
西海北陸境異なれども金剛胎藏兩界の目出度所なるを氣比
の社は繁昌して嚴島は荒廢せり相構へて修理し給へと語る
と見て夢覺たり清盛高野下向の後 院參して右の夢想を
奏聞して任を延て嚴島を修理せし事盛衰記に詳なり是に據
れば清盛夢想の事大師の意に出るを以て行勝の徒大師の教
に從ひ清盛の意を受けて二神の此地に創建せるなるへし寺家
いふ所の駕空の説に比すれば差理に近し恐くは其實を得る

二宮高野明神本國神名帳に正一位丹生高野御子神といふ是
なり祀る神詳ならず高野山の地主神なるを以て高野明神と
稱ふ神世より高野山上に鎮まり坐して天野祝の齋き祀れる
處なり書紀に神功皇后の卷に天野祝と志野祝合葬の事あり
是なり 應神天皇の御代に至りて丹生明神今の社地に鎮ま
り坐せる時此御神をもこゝに遷し奉り此地にて丹生の神と
一所に祀るを以て神名帳には丹生高野御子神といふなるへ
し今高野山頂上にも丹生の神高野の神を祀りて地主神とす是大師の時よりか
く祀り來りたる由なれども本より其地に鎮り坐して其社の方本社にや今定
めし 寺家の説に高野明神は丹生津比咩第一の其子といひ或
は丹生津比咩と夫婦の神といふ皆稽據なければ信用しかた
し今山上の寺院に多く束帶せる神像の丹生明神と相對する
書を藏む是高野明神の神像なり又別に狩場明神の神像あり
此像は攝師の姿にて白黒二匹の犬を牽けり是は 世人多く是を高野明神
大師始めて登山の時齋せる姿を畫きしなり 化現の像とするは謬なり 詳に三谷莊放帳丹生神
三宮四宮祀る神數説あり 正應六年太政官藤原に當社四社明神
之中三大神號ニ鑿通神ニとあり然れども鑿通神如何なる神な
る事を知らず寺家説には丹生明神は母神なり二宮三宮四宮
は丹生明神の御子にして二宮高野明神は男神なり其餘は女
神なりといふ按するに高野明神は此地の地主神にして神世

なるへし
丹生大明神告門の假字なり
懸幕毛恐岐皇大神神 乎 〇原本毛を岐を乎をす今他の祝詞の例
に加 中爾月乎撰比月 中爾日乎撰 定底銀 金 花佐支開吉日
時乎撰 定底 〇金銀の出る貨たき日時をいふ 當年 一月 御門 奉
仕申 久 〇當年は某年といふに同じ十一月を秋御門といふは古高天原
神積坐 天石倉押放 天石門忍開給 比天乃八重雲乎伊豆乃
道別爾道別 給天豐原乃美豆穂乃國爾美豆毛給 比天乃 〇大意皇國
いふむ 國郡波佐波爾在 紀伊國伊都郡奄太村乃石口爾天降坐
天 〇奄太村は三谷懸幕院九度山邊の地の地名なり天降坐 〇天降坐 〇
し地は今三谷村神山酒殿社其所なり石口は説の意なり大御名乎申波 恐
之不申波 恐支伊佐奈支伊佐奈美乃命乃御兄天乃御陰日乃御陰
丹生津比咩乃大御神登太御名乎 顯給比天 〇天乃御陰日の御陰は
に隱坐の文なきは御殿を建て隱坐すへき神といふへきを告げて告給へるなる
へしさて此神現身の天降ませるにあらず御陰の天降まして 著 して御名を
願し給へ 川上水分乃峯爾上坐天國加加志給比 〇川上は大和國吉野郡
るなり 川上水分乃峯爾上坐天國加加志給比 〇川上は川上なり水分
原本水方と書すは字形の似たるに依りて誤るを見ゆれば今改む水分はクワリ
文武紀及萬葉集に見たり國加加志は國を唯すにて鏡に映れる詞なり下坐
天十市乃郡 〇爾忌杖刺給 給 〇原本十市乃郡に品水云云あり然れ
しし下文に其郡某地忌杖刺給と書せるを見れば郡の下に地名を脱し又忌杖刺
給の四字を脱するなるへし按するに高野郡に入谷村あり其地十市郡に近し疑
れる御門代なれば其處に記し置けるなり下文告同し御門代は神田なり下坐

食賜天 皇天皇方太寶御坐月日止共平久文武百官諸國之々等國造七郡及至二千品部神民百姓百壽全保福壽豐稔守給止恐 恐 毛申志賜 止申 紀國造なるへし七郡は本國の郡數品部は雜戸神民は神戶の民なるへし

丹生明神位階

正六位上

文德實錄仁壽元年正月庚子 詔天下諸神不論有位無位叙正六位上

從五位下勳八等

三代實錄貞觀元年正月廿七日紀伊國從五位下勳八等丹生都比賣授從四位下

告門曰 倭根子神野 天皇御願の勳八等太御位奉給也 又代代 天皇 奉 賜 五 太位云云

按するに從五位下を授かり給へるは貞觀以前にありて年月知るへからず

從四位下

貞觀元年なり 三代實錄に出つ又告門に相次四太位とあるは從四位下より從四位上までをかけていへるなり

從四位上

三代實錄元慶七年十二月廿八日庚申紀伊國從四位下勳八等丹生津比賣神授從四位上

正四位下

淳方勘狀曰山縣野寬平九年十二月五歲七道諸神被奉増一階

正四位上

天慶三年正月朝敵追討の御祈の爲にぞて三千七百餘座の大小の神祇悉御祈願を立られぬ方もなく各被奉増一階と或書に見たり此時なるへし

從三位

告門曰相次三御位并加階奉賜也 淳方勘狀曰天曆六年五月同被奉増一階天曆亂喪也

正三位

寬元四年七月社家注進に勘云云正三位者 一條院御宇長保年中當山座主雅慶所奏叙也 按するに東寺長者補任九日御金剛兼寺監主長和元年十月廿五日卒 ありて任中神位叙請の事見たり疑ふへし

從二位

淳方勘狀曰承暦五年二月又被奉増一階 依幸四 御祈也

正二位

百鍊鈔永治元年八月廿五日天下諸神可増一階之由宣下

從一位

淳方勘狀曰永治元年七月同被奉増一階 百鍊鈔永治二年十月九日紀伊國丹生高野神奉加一階 此は通階の御抄ありし日なれしならむ

寶簡集御位記卷高野 壽永御位ノ記曰 勅正二位丹生明神今奉授從一位 壽永二年十月十六日又曰件 御位ノ記壽永三年三月廿七日被請印之上卿皇后宮太夫藤原朝臣實房 百鍊鈔に三月廿七日丙辰日吉非北野 神位印あり富社も同日なり

正一位

本國神名帳伊都郡正一位丹生津比賣大神兼文ノ勘狀曰元暦二年三月天下諸神被奉増一階 事は盛衰記に見たり之時當社可爲正一位也 淳方勘狀に同し

高野明神位階

正六位上

從五位下

日本紀畧延喜六年二月七日授紀伊國高野御子神從五位下

兼文ノ勘狀曰延喜六年十二月日高野御子神奉授從五位下 元正六位上

正二位

寶簡集御位ノ記ノ卷壽永御位ノ記曰 勅正二位高野明神今奉授從一位 壽永二年十月十六日

從一位

正一位 本國神名帳伊都郡正一位丹生高野御子神兼文ノ勘狀曰元暦二年三月天下諸神奉増一階之時當社可爲正一位也 淳方勘狀に同し

造營次第

正應六年太政官符に地神第三代天津彦尊始所天野廟祠一分社者豐受太神開闢之瑞籬也豈非日本最初之草創と見たり其後造營詳ならず嘉元以下舊記に見たるを左に録す 嘉元三年十月十五日手斧始同廿七日下午遷宮德治元年三月十六日上棟六月十六日上遷宮同年九月十六日御供所造營十二

月十六日上棟

以上 高野山舊記に見たり

應永廿七年六月上旬第二社遷宮

文明十六年六月十六日造營供養

以上古本檢校較高野山正社院記に見たり

天正四年十一月朔日遷宮供養

慶長八年十一月朔日遷宮供養

寛永元年十一月三日遷宮供養

同十五年六月十七日輪橋供養

承應二年十月供養

萬治二年六月十日輪橋供養

寛文十一年五月上葺落慶供養

同十二年二月三日上葺外儀落慶供養

天和三年七月晦日下遷宮供養十二月九日上葺落慶供養

元祿八年九月廿六日上葺落慶供養

同九年五月廿七日輪橋供養

同十六年下遷宮九月十八日上遷宮供養

正徳五年十二月十日第一社造營供養

享保八年四月十八日下遷宮供養十一年十二月上葺落城供養

寛保三年七月廿八日下遷宮供養十一月八日上遷宮供養

寶曆二年二月九日輪橋供養

同十三年四月十五日日下遷宮供養

安永二年六月七日輪橋供養

同六年九月十六日多寶塔落慶供養

同七年十月廿四日山王堂入佛供養

天明二年四月廿一日不動堂入佛供養

同日御影堂入佛供養

同三年六月廿七日日下遷宮供養十一月廿八日上遷宮供養

同六年九月廿日第三第四社及若宮下遷宮供養

同六年八月第三第四社及長宮下遷宮供養

同七年四月八日第三第四社長宮上遷宮供養

同八年十月廿三日輪橋供養

享和三年五月廿五日日下遷宮供養

文化五年八月廿三日小社下遷宮供養九月十一日上遷宮供養

同十一年三月廿九日上葺落成供養

文政元年十月廿三日輪橋供養

以上高野山記録に載す

社僧神宮

社僧

社務 高野山檢校兼職

大師遺告諸弟子卷に奉_ニ勅命_ニ以後對什度々御祈威驗揭焉
因茲兼_ニ檢社事_ニとあり是を社務の權輿とす其後弘安年中
坂上盛澄が陳解及同六年五月金剛峰寺衆徒訴狀同八年九月
注進する天野明神紀州一宮記に檢校社務の字見たり觀應
の頃までは寺務社務の任符ありしといふ今は永宣旨となり
て其沙汰なし

院主

南 蓮 上 院

花 王 院

社務の令を承け社地を監知す此職天野靈驗記に據るに行勝
上人に權輿すと見たり其後南蓮上院智莊嚴院花王院十輪
院の四箇院此職に任せしに今は蓮上花王の二箇院となれり

天野供僧

六口

正暦五年雅真社地の伽藍補造の時僧坊六字を創造し山籠僧
の住所とす是天野供僧六口の起本なりと高野山舊記に見わ
たり年中三度の祭禮及修正會法華八講の日下向して法華勤
行するを職とす是を山供僧といふ

兩壇行法師 三口

紀伊續風土記 卷之四十八 伊都郡 天野莊 上天野村

護摩所に一人ありて不動尊護摩供を代勤す持所に二人あり
て不動愛染二尊法並に舍利講を代勤す右護摩所持所兩壇の
行法は舊學侶入寺阿舍梨百八十五人天野供僧六口を除く輪番に下向し
て不斷長日の護摩行法を修す近來代僧三口を置きて當番僧
より其料足を與へて護摩行法を代勤せしめ兼て年中の法事
社役等の怠慢を鑑せしむ

郷供僧

櫻 本 坊

奥 之 坊

深 之 坊

幣 之 坊

柳 之 坊

右を郷供僧といふ妻帯にして肉食せず傳いふ行勝上人天野
院主職たりし時置し職なりといふ六人の者幼より高野山學
侶の寺院に入りて剃髮し誦經讚佛の業を學ひ加行十八道を
修行するを例とす家を繼ぐに及びて供僧と稱し毎朝神前透
廊に出仕して勤行あり三度の祭禮修正會入講大般若經讀誦
等の時は山の供僧及兩壇の衆徒と同席して勤修す衣は學侶
平服の空衣襲衣黒白の袈裟を着す一膳に至れば阿闍梨と號

し法服金蘭の七條を着す行人僧念佛會の時山王堂に於て
導師を勤む又その内櫻木坊理上院坊柳之坊理上院坊の二人は院
主代と號して兩門主の指麾を受け六箇郷の民人に令して
社地の洒掃を役せしむ古在布村並木村花坂村長谷村四村細川村山崎村
敦良寺村尾原村三谷村茂原村平沼村毛原村是を
六箇郷といふ

神職

總神主	丹生一麻呂
二祝	丹生相見
三祝	丹生掃部
四祝	松島内膳

右四家を一二三四の祝と云ふ飲食皆別器を用ふ總神主は當
社及三谷村酒殿神社其外諸社を兼司る其家系下に出せり總
神主の稱は始めて建仁三年の文書山崎に見ゆ二祝は第二宮
の社式を掌る總神主の分家なり三祝四祝は第三第四の社事
を勤む家系並に詳ならず

社家十五軒

御供所掛	森山甚太夫
	木村莊藏
三ノ手長	山木仙司

二ノ手長	高松新吾
	中谷總太夫
	玉木主計
	菊谷作兵衛
	澤口三司
	蓮徳院 政之進
	中谷源八
	森山右内
一ノ手長	松島數馬
四ノ手長	井本左治馬
御湯太夫	松島對馬
矢部	千切谷

右十五人に二三四祝を加へて十八人神人と號し共に總神主
の指麾を受く按するに天野口傳鈔山崎に神人は昔は二社二
人次四社四人の祝聖人行又新神人として十八人置之とあれ
は舊は祝四人の外に十八人の神人ありしと見ゆ

宮仕六人

小坂坊	安養坊
-----	-----

預所

古文書の中往々見ゆたり

長床衆

田樂法師

三味供以下の職又應永廿三年天野大神宮領和泉國近木莊御
年貢相折帳に見ゆ

氏長者

嘉禎四年二月良任檢校の狀案に見ゆ坂上氏の長者をいふな
るへし文和二年の文書に氏別當とあるも氏長者の事なるへ
し蒲頂御願記に坂上大宿禰幡忠雅真等と力を合せて丹生高
野兩社を建立の事を載せたり是より其子孫社事に關係すと
見ゆたり正應四年坂上清澄十四箇條の請文を寺案に出せし事あり其文實簡
集に見ゆたり又文府元年神主丹生友家狀狀真誓に御祭勅使坂
上且澄とあり其時當弘安六年五月神馬證論の時氏長者職廢絶せ
社に終ある證なりし事同年金剛峰寺衆徒の解狀及舊記に見ゆたり然れども今
に正月御田植の神事の時長者代といふものありて御田の費
用を神子に與ふる事あり古の遺風なり

權神主

權禰宣

禰宣

正應の年中行事記に見ゆたり又天野街道町石に三味大法師
と彫める石數枚あり

三味供

文和二年寺領檢注の文書に見ゆたり

權別當

正應五年賴延始めて此職に任せし事高野山舊記に見ゆたり
又建武三年尊氏將軍の御教書丹生社別當と見ゆたり

今廢する社僧神官

別當

神樂男	五人 <small>聖子<small>いふ</small></small>
巫女	八人
大工所	一人

常に御供所の洒掃を掌る

右六人拜殿を預り駆使役を勤む剃髮して三歸を受くれども
行法諸經等をなさす

花之坊	上之坊	三寶院	里之坊
-----	-----	-----	-----

所 司 六人
神 人 十六人
知節代
氏 人 七人
平神人 八人
職 掌 五人
勾 當 一人
仕 丁 二人
倉 預

以上の職名應永二十三年相折帳に見て其給分を配賦す

年中行事

正月
元日 御供獻備 初置しれの御供又
炊物の御供といふ
四方拜祝言奉幣
總神主社家於御供所有勸盃之式
自元日 社家宮籠
至七日 御供獻備 是を小祭
といふ
總神主詣三谷村酒殿社御影向殿舊跡竈門社

各獻御供
三日 御供獻備 是を御供
といふ
自三日 總神主宮籠
至七日
四日 御供獻備 是を小祭
といふ
五日 同 是を總祭
といふ
六日 同 是を小祭
といふ
七日 社人於御供所有七草之式御供小豆神酒獻
備祝言奉幣於御供所有近木歸之式 古和泉國
近木郷の
神領に行て踊り
し時の例を傳ふ
十四日 御供獻備
行人僧於透廊讀經
御田植式
神樂
十五日 御供獻備
十六日 同
二月 月中重祭あり故に朔日より十六日まで炎火死骸血穢を
忌む願成れば總神主の家に至りて大浴の穢を受く
十日 總神主以下神參後於紀川一垢離於三谷村石
口漣祝言

自十一日
至十六日

總神主以下宮籠

勸請明神於御供所竈門社小御供獻備祝言

十三夜

木祭 神を數箇所に遷つ事は總神主の勸修
木祭なり今總神主國難にて二ノ祝祭動す
鬼門祭宮仕二人勤之

十五日

社家十一人於總神主家調二十六日御酒於

御供所禱舞

十六日

大御供獻備總神主祝言

山供僧六人郷供僧六人行人僧二人於透廊讀

經

神幸於外島居總神主以下供奉總神主上祝

詞棚遙拜玉津島明神祝言後有還御之式

奏神樂於御供所禱舞

三月

三日

御供獻備

十六日

同

四月

三日

御供獻備

七日夜

行人僧葛城先達天野年預二人於透廊讀經總

神主有神遷之式先達守護神笈至脇宿總

八日 御供獻備
十六日 同

五月

五日 御供獻備

十六日 同

六月

十四日 御供獻備自今日至十九日有神遷會神事

白河法皇の行人僧法眼以下二十餘院自今日

於透廊讀經

十六日 御供獻備行人僧天野年預以下於山王堂本地

供勤行同夜大峰先達有護法祈

十七日 同

猿樂

行人僧法眼乘輿神拜 鳥羽帝より賜ふ
所の輿といふ

十八日 御供獻備祝言奉幣

行人僧先送供奉大明神自脇宿還御有笈渡之式

猿樂

惡魔拂

蒙古退治之式

十九日 御供獻備

行人僧皆歸山

晦日 總神主及社家四人於三谷村石口瀧名越菰瀧

祭名曰早苗振又詣酒殿社御供獻備祝言奉幣

總神主以下於御供所有早苗振歸之式

七月

七日 御供獻備

神器蟲干

十五日 御供獻備

十六日 同

八月

十四日 總神主以下於紀川堀離

十六日 神事其式大畧同二月十六日

九月

九日 御供獻備

十六日 同

神事畢渡御於玉津島巖名曰濱降翌旦於草宮有事今廢

廿一日 三谷村酒殿社神事總神主御供獻備祝言奉幣

十月

初卯日 總神主獻神酒於三谷村酒殿社

廿六日 御供獻備行人僧自今日於透廊讀經如六月會式

廿八日 同行僧不動講勤行

廿九日 同

晦日 同

於山王堂念佛會行人僧鄉供勤之

行人僧法眼乘輿出仕

十一月

朔日 御供獻備

行人僧皆歸山

十六日 神事一如二月式

夜半總神主於神前祝詞奏神樂總神主以下奉稱直往於長谷社道途不用燈火有種種之式

十二月

十六日 御供獻備

廿七日 於御供所併攝

節分 御供獻備

大晦日 同末起の御祝言於御供所總神主以下有密納之式

以上年中五十三度神事といふ
神事之外恒例御供獻備并規式

正月

元日 社僧宮仕於透廊朝拜

三日 於院主代饗總神主三四祝宮任社僧

四日 於總神主家饗社家

撰吉日二三四祝會總神主家名曰歸節會

十四日 學行僧於山王堂修正會

十六日 行人僧十院於透廊讀經御供湯獻備名曰

紀伊續風土記 卷之四十八 伊都郡 天野莊 上天野村

衆參

自十七日至廿三日撰吉日

學侶僧於透廊五問一講論議修行御供湯獻

四月

自晦日至五月二日

天野供僧法華入講理趣三味

十五日 御供獻備 永代寄附あり

八月

朔日 於總神主家饗應社家十一人行人僧御供獻

備

七日 行人僧大峯先達於廣前柴燈護摩修行御供獻

備

九月

三日 學侶僧學道成滿二十院於透廊讀經御供湯

獻備

五日 學侶學道新衆於透廊問講修行御供獻備

廿四日 學侶僧如法經會勤行

十月

廿七日 御供獻備 行人僧康徳院寄附

十二月

朔日 二三祝持神酒會總神主家

六月十月兩會 每朝行人僧於長床一雙應宮仕社僧

年頭五節旬歲末 社家悉會總神主之家於護摩所不動

護摩供及舍利講一座學侶阿闍梨入寺代僧勤

之於持所不動法愛染法舍利講各一座學侶方

行法師二人勤之

每月朔日 於大庵室大般若經轉讀

神領

告門曰品田天皇依奉給神以東至三丹生川一府至阿師河
南至
北至
官野河

告門古注曰品田天皇奉給物波路國三腹郡白犬一件紀伊
國大黒小黒一件此犬口代赤穂村布氣田千代美野國乃三津柏
又濱木棉奉給 大師遺記云吾上登日現人外語曰吾在神
道望威福久也方今菩薩到此山弟子幸也昔在人世之
時食國皇命給家地以萬許町一東限大日本國一南限南海
西限應神山谷一北限日本河也云云

總神主家に蔵むる舊記に自弘仁七年孟夏之頃大師上登
之時大明神以彼神領初附屬于大師之以後以六箇七

荒川莊内六石二斗 應永十四年三月十一日
大傳法院院印附

右神領文書に概見する所なり天正以來は高野山學侶領の内
を以て祭祀等の用途に供す其配分左の如し

高五十六石六斗九升	御供料
同三十石二斗六升	總神主
同二十六石一斗	郷供僧六坊
同三石	院主代
同三石	社僧花殿
同二石九斗五升	二祝子
同五石五斗	三祝子
同二十四石五斗	宮仕六坊
同一石	宮仕花殿
同十三石	拜殿方
外高一石	八幡寺
現米卅三石一斗一升四合	大庵室
同一石	御供所修正御供所
同一石一斗二升一合	同御膳洗米料
同一石	八幡宮燈明料
同四斗	柳澤燈明料

紀伊續風土記 卷之四十八 伊都郡 天野莊 上天野村

郷爲社領とあり又弘仁年中已後宮領三谷郷小河内郷
古佐布郷志賀郷毛原郷星川郷已上七郷年中祭禮之料也と
あり

備後國太田莊米十三石 法華八講理惠三味川途 建
久元年沙門鑄河寄附

三谷郷 佛の放生會田廢して池となるに依りて建仁
三年八月三谷莊野を開きて放生會田とす

田島三處 御供燈油燭香料 嘉祿三年十
一月檢校明任山籠道鏡寄附

和泉國近木莊 祭料 弘安七年十
二月北條時宗寄附

御供料田一段十步 正安四年六月
沙門蓬藤寄附

山地一所 文保二年十月
沙門頼承寄附

田地二處合五百步 御供料 正中三年
三月沙門朝通寄附

和泉國麻生郷 元弘元年十一月前
和泉守入道寄附

播磨國福田保并六箇郷合土貢一千石 不斷行法供料 建武元年
秋七月左衛門少尉源後清
寄附

和泉國大泉莊 興國二年五月廢生
莊の代として賜ふ

小河内郷内教良寺三分一 康永三年正月阿闍
梨智深若宮に寄附

天野郷内宇藤谷七十步 神供料 文中三年九
月信士孫四郎寄附

本國本渡郷 舊神領なりしを明徳五年夏左京大夫
多々良朝臣再寄附すといふ文書あり

山王院燈養料

名手莊租稅五果 正應四年御
室御所寄附

高總計百六十五石五斗

現米三十六石六斗四升二合

行人方寄附

現米二十二石六斗	總神主
内九石六斗	八箇度御供料
同十石	祈念料
同三石	日御供料
同一石五斗	二三四祝子
同一石九斗五升	六月十六日 御供料宮仕
同七斗四升	宮仕中
同一石四斗五升	六月十七日 御供料御供所
同二斗八升	社家中
同一斗五升	社中人
同六升	社僧
同一升	院主代
同一斗五升	拜殿中
同二升	六月十八日 惡魔拂散米
行人方十月會寄附	
現米五石六斗	十月廿八日九月晦日 十一月朔日正月十四日 御供料御供所

恒信四十二代の孫といふ光俊以前は丹生を氏とす光俊初めて藤原を冒す天授元年左近將監に任す天授元年

光久

正長元年左衛門少尉に任す正長元年

玉澄

永録七年治部大輔に任す永録七年

秀澄

元和の初改めて丹生氏に復す

所藏古文書

譽田天皇勅筆祭文一帖神殿に秘藏して撰神主の外は見ざる事な許さず

丹生大明神告門

後三條天皇宸筆詔文二宮に竊じ還仰の祭文又神入の祭文といふ

丹生氏氏文

延暦以後系圖

舊安曆相傳祝文伊賀豆天平十二年新文等ありしか今亡失

す其他寄附狀古文書數百通を藏む

○奥澤明神社

境内周四町

天野社の東奥澤と云にあり大樹茂れる山間に水湧き出て小さき澤あり其中に石菖蒲多く生す社は高野の修理所なり

○南澤明神社

境内周七町

奥澤の西森の續きにあり其澤を又中の澤ともいふ奥の澤ともし地形にて小祠二社あり高野の修理所なり

○愛宕社

村の北山上にあり

○地藏寺

村中にあり

○涌宿薬師堂

境内周九十五間

丹生明神の東北八町許にあり本尊は行基の作といふ大師高野山草創の時此地に來りて佛母孔雀經及理趣般若を讀誦して明神及山川地主に法施する事三夜時に神明涌出して法味を納受し給ふより涌宿と名つくといひ傳ふ其後聖寶といふ僧大峯葛城入峯の時此地に一夏安居せしに神託に依りて葛城神幸の事を始む今に毎年四月七日より五月三日に至るまで葛城先達明神を笈に移して此堂に籠る其間總神主以下此地に來りて神拜をなす

○西行堂

境内周十六間

小名峯にあり堂の東の小岡に石牌二基あり塔作の牌なり銘文なし四面に佛像に刻む里人傳へて西行夫婦の塚なりといふ一説に妻と娘との西行此堂に住ける時其側に田を作りたりと云ふ塚なりといふ西行田といふ地あり西行并に西行兩親の像を書きし古き

板三枚堂中にあり

○石塔

南澤の西二町餘岡の上に古き石塔二あり里人鬼王團三郎の塚といひ傳ふ塚の傍に小祠二社あり塚の靈を祭ると見ゆれども來由を知る者なし

神田村

加字院

田畑高 十六石二斗五升三合

家 數 上天野村の内に籠る

人 數 同

上天野村の巽十六町にありて舊上天野村の枝郷なり當村昔より天野の御供田の地なり故に神田といふ今も社家の領なり

○善安龍王社

村の北上人地といふ池の中島にあり

○地 藏 堂

境内周二十二間村の東高野往還にあり

○廢天地 庵

○廢地 藏 庵

下天野村

志毛阿麻乃 小名 大利 細原

田畑高 二百五十六石八斗六合

家 數 七十五軒

人 數 三百三十七人

上天野村の西八町許にあり小名大利は村の西七町半餘にあり細原は村の乾四町にあり其北の峰を越ゆれば直に皮張村に至る

○八幡宮

境内周百間森山 七十五間

本社 一丈二尺 一丈五寸

玉垣 六間 七間 廊 二十間

舞臺 鳥居

本地堂 本尊阿彌陀如來 釣鐘堂

別當

八幡寺 堂 方七 四

村中にあり一莊の産土神にて社壯麗なり按するに天野社は大社にして一莊の氏神となすへからざるより當社を莊の氏神とするならむ村老傳へいふ當社は弘法大師の産土神讃岐國琴引八幡宮を勧請する故に高野山よりも格別に當社を崇敬す往古は天野の相見支配なりしに莊中と争論ありて今は八幡寺の支配とすといふ森山の上に妙見の小祠あり

○楊澤明神社 境内山周四十間

本社 三尺二寸 三尺七寸 拜殿

小名大利の南にあり大なる楊樹一株倒れたるまゝ枝葉茂生せり甚古木なり土俗神木なりとて瘡を病むもの其葉を戴けは落つといふ葉の形少圓なり此宮高野山學侶僧堅義の業相濟めは必參詣す因りて堅義の宮といふ

○延命寺

村中にあり境内に子日權現の社あり

○龜田大隅守石塔 墓地周八間

小名大利の南山の尾脚にあり碑文に曰

傑山萬鐵居士

尾州、人大隅守龜田高綱者寛永十年癸酉八月十三日卒於泉州二年七十二遂葬南山管買高野山花王院廢中興一新以爲龜田氏之寺且又寄數箇金出入息利永充修繕資而後創建一字於天野莊可謂板與人也高綱女嫁八郎左衛門大崎勝長而生三左衛門長増也長増爲修外祖父冥福刻石建于金剛峰寺下天野莊

延寶四年八月十三日

側に又碑あり桂光院雲山照翁居士とあり是は長増の父大崎

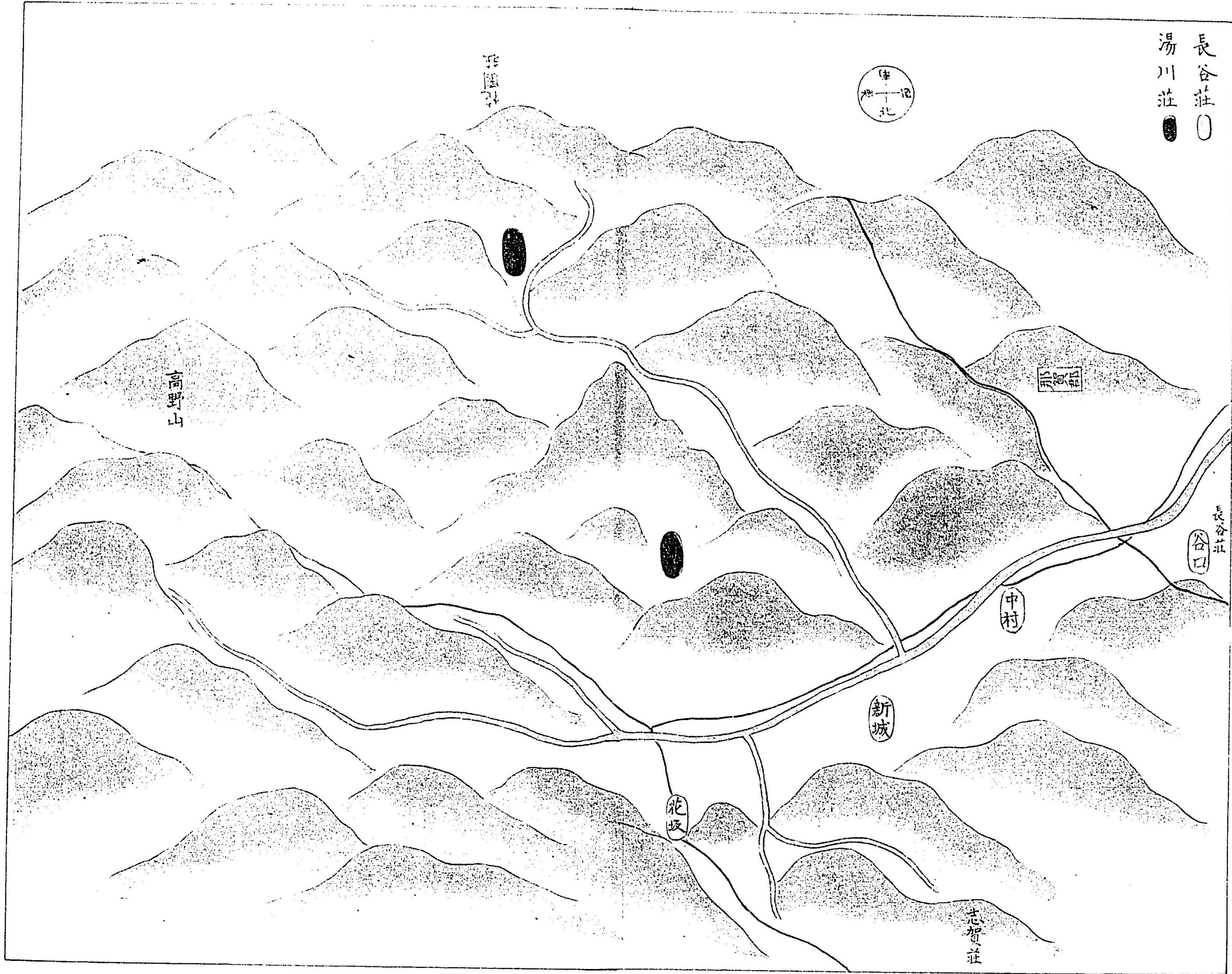
八郎左衛門勝長の事なり若山に卒して西栗寺に葬るとあり長増外祖父の碑を建るにつき父の碑をも併せて此所に建たるなり里人いふ此地は花王院の里坊にて近年まで寺ありしか今は廢す寺附の田地あり今は花王院に納むとぞ

○魚板淵

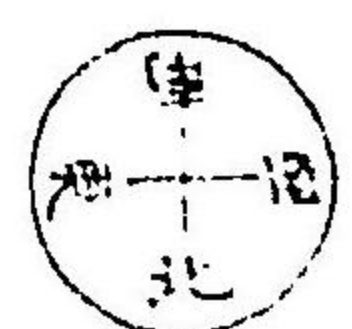
村の末の方九町許にあり谷甚狭く兩山東西にありて一筋の淵水を通す魚板淵岩石突出して懸泉あり高さ六尺許其下淵をなす淵の下の十間許に大石あり長一丈巾四五尺にて上甚平なり又其上に半は懸り半は横たはりて重なりたる石あり里俗下を魚板石といひ上なるを應下石といふ似たるを以て名づく魚板淵の名も此石より名づくるなり其下數歩に岩ありて淵の流れに臨む其石を切開きて道を通す龜田大隅のなす所といふ其岩を開かされは志賀に至るに道迂回なる事三町許なれば岩を鑿ちて道を通し志賀に至るに便を得たり

○垂跡石

魚板淵の南十歩許にあり丹生明神垂跡の石といふ土人恐れて不淨を禁し其邊の田地に糞を肥しにせず其石の少隙ある處より時によりて小さ蛇の體を見る事あり首尾を見たる者なし明神の神體なりといひ傳たり



長谷莊
湯川莊



花坂

高野山

那賀郡

長谷莊
谷口

中村

新城

花坂

志智莊

紀伊續風土記卷之四十九

伊都郡第八

長谷莊 波世 總五箇村

長谷莊伊都那賀兩郡に亘り其屬村當郡にあるを中村新城二村とす其那賀にあるを谷口馬場宮三村とす總て五箇村一莊の幅員地形風俗等那賀郡長谷莊總論に詳にす故に此に省きて記さず當郡の二村は那賀郡三村に對して長谷上莊といふ其四至經界東は花坂村に接し西は那賀郡同莊谷口村に接し南は湯川莊と界し北は志賀莊に界す其廣袤東西三十二町餘南北二十八町と間一條の溪流花坂村より注きて良より坤に達す新城村中村の間にて湯川川南より落合ひ中村を経て那賀郡同莊に注く當郡莊の形なく花坂莊名なし姑く地形によりて此莊に附す其四至等は村の條に書す

中村

奈迎

田畑高 百九石八斗九升二合五勺

紀伊續風土記 卷之四十九 伊都郡 長谷莊 中村 新城村

家數 二十七軒
人數 百四十五人

那賀郡谷口村の東にあり

○正覺寺 境内周四町

村中にあり大日堂鎮守天滿宮等あり

新城村

志平口也字

田畑高 九十九石三斗五升三合七勺

家數 二十三軒

人數 百一十一人

中村の良にありて村居接す新城は新莊なるへし文曆の文書に本莊新莊といふあり宮村丹生社 神領中氏藏本莊は中村以下の那賀郡の村をいふと見たり當村山の尾筋を隔て上村下村の稱あり高野山大門まで道程七十町なり

○丹生明神社

上村川の南にあり相傳ふ宮村丹生社本は此地にありしを元徳中宮村に移す故に古宮と稱す又此神土人に楮を製する事を教へしとて楮カキの森と稱すとそ森古木多し

- 辨財天社 上村にあり此莊始り時よりの鎮守といふ
- 龍福寺 上村川の北にあり境内に地蔵堂あり
- 神山

中村界の東三町許川の南にあり毎年十一月十六日天野社火焼の祭あり即日午夜に天野社の神主社人等七八人此處に來りて神を取り宮村丹生社に至り神を供して祭事あり即夜天野に歸る雨中にも往來笠を着せず怨に乘らざるを例とす此時途中の諸村及當村の民一人も門戸をいすといふ

花坂村

渡奈坐通 小名 不動野

田畑高 百八十六石七升八合
家數 五十九軒
人數 二百三十人

當村長谷莊の上流にありて新城村の長八町許にあり東は高野山に接し南は湯川莊に接し西北は天野莊に接し北は古佐布細川兩莊に隣る其廣袤東西二十二町餘南北一里五町許村居四所に分る中央にあるを中村といふ本郷なり麻生津より高野街道にて旅舎多く驛舎の体山家の趣なし弘法大師牛

○鳴川明神社

境内周六町

本社 方一間半 長床 御供所
舞臺 釣鐘堂
末社四社 地神社 諸神社 辨財天社 天神社

中村にあり一村の氏神なり祀神詳ならず此神舊村の東五十町鳴川の上鉢伏といふ處にありしに大水のとき此村に漂著す因りて川の傍に安置し後今の地に移すといふ鳴川より流れ来るを以て鳴川明神と稱す祭禮九月十六日なり此神一に白ふ其故は高野山勸學院にて講釋をなすに各關取りにてする例なり若誤ある忘却つた高野山は直に下山す因りて關取りに白關に當りて講釋を免るゝか幸とす此神に祈れば必此幸を得とて白關明神と稱すといふ

て鳴川といふ是より乾に流れて中村に至り曲折して諸谷の水を合せ長谷莊に注ぐ

- 無量寺 明神の北にあり
- 不動寺 小名不動野にあり本堂不動は弘法大師の作といふ
- 廣十王寺 無量寺の前にあり
- 小堂二守
- 大師堂 境内周二十間 氏神の西にあり
- 地蔵堂 境内周二十二間出村矢立にあり土人傳地蔵と稱す長五尺許の古佛なり堂前に大松樹周圍二丈許なるあり矢立松といふ近年焼失す
- 廢閑慶堂 境内周五間 山村矢立にあり
- 村中谷川

湯川莊

山廻波 總二箇村

湯川莊總て二箇村東は高野山に接し西は花園長谷兩莊と界し南は花園莊に隣り北は長谷莊及花坂村に接す其廣袤東西一里十町餘南北殆二里里民の傳へに弘法大師高野山開基の頃まで此地に温泉あり今下村と小名小森との間に湯屋谷といふ谷あり古温泉の跡といふ湯川の名これより起る上村は炭を焼くを業とし下村は菜大根の類を作りて山上に鬻ぎ又薪樵を業とす民風皆質樸なり

○天狗ヶ嶽

上下二村の中央にあり此邊の高峯にして山尤險絶山石皆紫色なり嶺より望めは南の方には熊野の諸峯重疊し西方は淡阿諸州皆眼底にあり山の東面頂より少し下に假蓋の古松あり小歌の松といふ里人天狗の遊歌する所なりとて天狗ヶ嶽と

源は湯川領峯尾より出づる谷川と高野山大門より出づる谷川と村の巽出合といふ處にて落合ふ合流の處音あり名つけ